

造形を通じた美術教育の課題とカリキュラム編成  
の方法、及び編成モデルの研究開発

18530723

平成18年度～19年度（2006～07）学術科学研究費補助金  
〈 基盤研究（C） 〉 研究成果報告書

平成20年3月

研究代表者 佐々木 達行

宮崎大学教育文化学部 教授

## は し が き

カリキュラムの編成に教育課題を構造化し、課題領域を設定する方法を構想した。

カリキュラムは必然的に授業課題を明確にした活動題材を配列することとなる。授業開発や授業構成は、授業課題の意味や根拠を明確に示すものになるはずである。それは曖昧で雰囲気的な表現内容主義の授業を払拭することにつながると考えたからである。

義務教育としての図画工作科、美術科の授業課題、活動課題、教育課題を抽出し、それらを骨格構造としてA、B、Cの課題要素領域、6つの活動課題領域として括った。新たな課題領域を骨格にしたカリキュラムの編成方法とその可能性が見えてきた。

研究協力者の先生方に6つの活動課題を基にした授業開発と実践研究を行って頂いた。この実践例を基に、何とか教育課題を骨格にしたカリキュラムをつくることろまでに至った。7割程度の研究成果となったが、今後の研究の課題や方向も見えてきた。

本研究の実践開発研究にご協力を頂いた先生方に厚く御礼申し上げます。

## 研 究 組 織

研究代表者： 佐々木 達行 (宮崎大学教育文化学部教授)

研究協力者： (西村 徳行 筑波大学附属小学校教諭)  
(桐敷 芳子 東京都文京区立根津小学校教諭)  
(内田佳代子 東京都目黒区立八雲小学校教諭)  
(石賀 直之 横浜国立大学附属横浜小学校教諭)  
(朝重久美子 東京都葛飾区立白鳥小学校教諭)  
(山根 淳一 埼玉大学教育学部附属小学校教諭)  
(岩室 美鈴 宮崎市立住吉中学校教諭)

## 交付決定額 (分配額)

|        | 直接経費    | 間接経費   | 合計      |
|--------|---------|--------|---------|
| 平成18年度 | 800000  | 0      | 800000  |
| 平成19年度 | 700000  | 210000 | 910000  |
| 総計     | 1500000 | 210000 | 1710000 |

## 研 究 発 表

- (1) 学会発表 第45回大学美術教育学会 新潟大会 研究発表概要集  
カリキュラムの構造と教育課題  
—義務教育としての造形教育から考える— (口頭発表)
- (2) 学会発表 第29回美術科教育学会 金沢大会 研究発表概要集  
授業構造と4つの構成要素  
—授業構成(授業づくり)と授業分析の方法— (口頭発表)

## 目 次

### I 研究の全体構想と計画

#### 1、研究課題と研究計画

「造形を通じた美術教育の課題とカリキュラム編成の方法、及び編成モデルの研究開発。」

#### 2、研究の特色と意義

#### 3、研究の位置づけ

#### 4、研究課題の準備状況等について

#### 5、研究を実施するために使用する研究施設・設備等について

#### 6、研究目的を達成するための研究計画・方法について

- i 成熟した社会を担う子どもたちにふさわしい新たな義務教育通しての造形教育理念の構想。
- ii 義務教育通しての新たな造形教育理念に基づいた教育課題、活動課題と授業課題の抽出。
- iii 教育課題と授業課題等を実現するための適切なカリキュラム構造の構築。
- iv 新たなカリキュラムの骨格、構造を基にしたカリキュラム編成方法の確立
- v 新たな教育課題、活動課題と授業課題を達成するための教材開発と実践授業研究。
- vi 新たなカリキュラムの編成方法による初等、低、中、高学年、及び中学、第2学年のカリキュラムの編成モデル（題材配列例表）の作成
- vii カリキュラムの編成モデルにおける授業内容等の実践授業研究の紹介

### II 研究の成果

#### (i) 成熟した社会を担う子どもたちにふさわしい新たな義務教育通しての造形教育理念の構想

##### 1、成熟した社会に向けた義務教育のあり方

- ① 今、社会の構造改革の中で
- ② 近代合理主義通しての義務教育
- ③ 経済原理に基づく即物主義的な社会の義務教育
- ④ 家族集団と利益集団の狭間にあって
- ⑤ 生きることの意味や価値を問う、成熟した社会の義務教育

##### 2、義務教育通しての造形教育の理念

- ① 知識や技能教育を教えることを中心的な課題通した「造形の教育」
  - ア 知識や技能教育通しての「図画」と「手工」
  - イ 民主主義を反映した「図画工作・美術科」
  - ウ 造形の知識や技能を教える「造形の教育」からの脱皮
  - エ 「造形の教育」と「造形を通じた教育」
- ② 「人間的な自立」を中心的な課題通した「造形を通じた教育」
  - ア 相対的な価値観や人生観を培う人間教育
  - イ 図画工作・美術科通しての「造形を通じた教育」の可能性

(ii) 義務教育通しての新たな造形教育理念に基づいた教育課題、活動課題と授業課題の抽出

1、新たな造形教育理念通しての「造形を通した教育」の視点

- ① 相対的な価値観で捉える「子どもに培う」教育
- ② 造形表現活動を主観的な自己表現と捉える教育のあり方
- ③ 主観的な表現と客観的な表現の違い
- ④ 造形を通した人間教育と知識技能の捉え方
- ⑤ 造形表現活動とコミュニケーションの意味
  - ア 自分自身とのコミュニケーション
  - イ 自由にコミュニケーション がとれる環境の設定
  - ウ 相互理解通してのコミュニケーション

2、義務教育通しての「造形を通した教育」の教育課題、活動課題と授業課題

- ① 図画工作科、美術科における相対的な価値の教育観に立って育て、培いたい子ども像
- ② 義務教育における相対的な価値の教育観に立った「3つの課題要素」と「活動課題」
- ③ 課題要素、A、B、Cのカテゴリーと「活動課題」を基にした「教育課題」
- ④ 相対的な価値の教育観に立った「造形を通した教育」の教育課題の構造的な捉え方

3、「活動課題」をより具体化した中心的「授業課題」

- (1) 造形表現活動の快さや楽しさを経験し、心を開く
- (2) 造形表現活動を通して相互理解、人間理解を図る。
- (3) 「自分らしさ」を、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりする力を培う。
- (4) 総合的な造形表現活動を経験し、造形的な総合力を養う。
- (5) 造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。
- (6) 造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。

(iii) 教育課題と授業課題等を実現するための適切なカリキュラム構造の構築。

1、「表現形式」を骨格にした、知識や技能を教える教育のカリキュラムの編成方法

2、人間的な自立を促す相対的な価値の教育観に基づく教育のカリキュラム編成の可能性

- ① 表現内容を骨格構造にするカリキュラム編成の方法
- ② 教育課題をカリキュラム編成の骨格にする「課題要素」領域と「活動課題」領域の設定
- ③ 「活動課題」領域における中心的「授業課題」の設定
- ④ 「活動課題」領域における中心的「授業課題」の意味とその可能性
  - A 【心の開放と自分理解、相互理解】領域
    - (1) 「造形表現活動の快さと心の開放」領域
    - (2) 「造形表現活動を通した相互理解」領域
  - B 【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域
    - (3) 「自分らしさの追究、発見、表現」領域
    - (4) 「造形表現活動の総合力」領域
  - C 【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域
    - (5) 「造形的なものの見方・考え方と造形感覚」領域
    - (6) 「知識・技能と造形文化」領域



- (iv) 新たなカリキュラムの骨格、構造を基にしたカリキュラム編成方法の確立
  - 1、表現手段通しての「表現内容」を再構成した「表現内容」領域
    - ① 表現手段通しての「表現内容」と教育課題通しての「表現内容」
    - ② 表現手段通しての「表現内容」を「表現内容」領域通して設定
  - 2、「活動課題内容領域」の設定
    - ① 「活動課題」領域と「表現内容」領域の2視点から「活動課題内容」領域を設定
    - ② 「活動課題内容領域」表の作成
  - 3、学年系統と教育課程の編成
    - ① 「活動課題内容」領域を基にした学年系統
      - ア 低学年、中学年、高学年の三段階と中学校の括りの学年系統
      - イ 学年系統における各「活動課題領域」の配当時間割合
    - ② 学年系統と「活動課題内容」領域を構造化した立体図
- (v) 新たな教育課題、活動課題と授業課題を達成するための教材開発と実践授業研究。
  - 1、「造形を通した教育」の教材開発（活動題材開発）の考え方
  - 2、「造形を通した教育」の教材開発（活動題材開発）の方法
  - 3、「造形を通した教育」の教材開発（活動題材開発）と授業方法
- (vi) 教材開発実践を基にした、新たなカリキュラムの編成方法による初等、低、中、高学年、及び中学、第2学年のカリキュラムの編成モデル（題材配列表）の作成
  - 1、ABC、3つの「課題要素」領域と6つの「活動課題」領域を骨格にした活動題材を配置したカリキュラムの編成について
  - 2、カリキュラムの編成における「活動課題」領域の「活動題材」配列と「授業構成」の意味  
《カリキュラムの編成モデル（題材配列表）／教材開発実践》
    - [1学年 カリキュラム編成における「活動課題領域」の実践例]
    - [2学年 カリキュラム編成における「活動課題領域」の実践例]
    - [3学年 カリキュラム編成における「活動課題領域」の実践例]
    - [4学年 カリキュラム編成における「活動課題領域」の実践例]
    - [5学年 カリキュラム編成における「活動課題領域」の実践例]
    - [6学年 カリキュラム編成における「活動課題領域」の実践例]
    - [中2年 カリキュラム編成における「活動課題領域」の実践例]

## I 研究の全体構想と計画

## 1、研究課題と研究計画

「造形を通じた美術教育の課題とカリキュラム編成の方法、及び編成モデルの研究開発。」

本研究は、図画工作科・美術科の教育が初等・中等義務教育通して21世紀の成熟した社会を担う子どもたちを培うのにふさわしい新たな教育理念を構想し、それらに基づいた教育課題を実現するためのカリキュラム構造とその編成方法を明らかにするとともに、具体的な編成モデルを作成しようとするものである。研究課題の具体的な目標と研究計画は次のとおりである。

## (1年次)

- i 成熟した社会を担う子どもたちにふさわしい新たな義務教育通しての造形教育理念の構想。
- ii 義務教育通しての新たな造形教育理念に基づいた教育課題、活動課題と授業課題の抽出。
- iii 教育課題と授業課題等を実現するための適切なカリキュラム構造の構築。
- iv 新たなカリキュラムの骨格、構造を基にしたカリキュラム編成方法の確立。
- v 新たな教育課題、活動課題と授業課題を達成するための教材開発と実践授業研究。

## (2年次)

- v 新たな教育課題、活動課題と授業課題を達成するための教材開発と実践授業研究。(続)
- vi 新たなカリキュラムの編成方法による初等、低、中、高学年、及び中学、第2学年のカリキュラムの編成モデル(題材配列例表)の作成。
- vii カリキュラムの編成モデルにおける授業内容等の実践授業研究の紹介。

## 2、研究の特色と意義

明治以来行われてきた我が国の初等・中等義務教育は、読み、書き、算術に象徴されるように国民の知識や技能を高め、国の産業生産力をあげて経済的な基盤を築くことが第一の目的であった。それは西欧の列強に対する国の独立にもつながっていく。所謂、富国強兵、殖産興業である。

こうした中で図画工作科・美術科の前進、図画、手工の教育も読み、書き、算術につづき、手の巧緻性を高める技能教育通して、その役割を担ってきたのである。

こうした技能教育通しての基本的なあり方は、戦後の、図画工作科・美術科通して再出発した民主主義教育の時代を経ても変わることはなかった。

所謂、子どもたちに知識・技能を教えることから経済的な自立を促す義務教育通してのあり方である。図画工作科・美術科通しては、造形の知識・技能を教育内容通して教えることである。

こうした義務教育のあり方は、経済発展を促し、さらには高度成長を支え、日本を経済先進国に押し上げてきた根幹であると言っても過言ではないだろう。

しかし一方で、物質的な豊かさを享受する社会を背景に、新たな教育的課題も噴出してきている。学校におけるいじめや暴力、無気力や引きこもり、或いはニート(NEET)と呼ばれる働くことをしない若者などの問題もそれにあたるだろう。

物質的な豊かさを背景に、成熟した社会に向かおうとする日本の義務教育は、新たな課題を抱え、そのあり方が根本から問われていると言えよう。もはや、読み、書き、算術に象徴されるように知識や技能を教えることだけの義務教育では、子どもたちを取り巻く、そうした課題に対応

し、解決していくことはできないだろう。それは経済性や合理性、或いは功利性を優先し、物質的な豊かさを求め続けてきた日本のあり方、義務教育のあり方そのものから派生してきたものだからである。

そこで、知識や技能を優先課題通して教える教育のあり方から脱却し、人通しての精神的な豊かさを求め人間的な自立を促す義務教育のあり方へ転換していくことが、新たな教育課題を解決していくことにつながっていくと考えられるのである。

そうした状況の中で図画工作科・美術科の教育のあり方も、造形の知識や技能を教える「造形の教育」から、造形表現活動を通し、人通しての精神的な豊かさを求めて生きること、表現することの意味や価値を問い、人間的な自立を促す「造形を通した教育」へ進化させていくことが必要であると考ええる。

現在の子どもたちにとって造形の知識や技能は、以前のようにそれらを生かして職に就くことは極めて少なく、その目的意識も薄れてきている。むしろ、個人的、教養主義的な興味や関心を持つことに支えられていることが多く、それも限界にきているといえよう。

そればかりか、子どもたちから主体を奪い、専門教育的な視点から一方的に知識や技能の押し売りする方法は、むしろ美術嫌いの子どもたちを育てている感じすらある。社会的な必然性を失った知識や技能教育は、子どもたちの中ですでに形骸化しつつあともいえよう。

しかし、それは造形表現が子どもたちにとって本質的に意味や魅力が無いものだからではない。

本来造形表現は自らと対峙し、自らの造形感覚や感性、考え方などを誰にも疎外されることなく自らの造形表現を追究し、自己の実現を図ろうとする活動に他ならない。

造形表現が本来持っている自己の実現を図ろうとするこの意味を取り戻し、子どもたちに自主性や主体性を確保して自立を促すような活動を行えば、彼らにとって活動の必然性を持った教科内容になるはずである。それは正に成熟した社会を担う子どもたちに、人通して豊かに生きることの意味や価値を問いながら、人間的な自立を促すことを課題通した「造形を通した教育」のあり方に合致するものになるのである。

こうした人間教育通しての「造形を通した教育」は、美術教育学通してその教育理論や教育方法論等の研究、解明があまりなされていないのが現状である。

この教育改革の時代にあって、新たな図画工作科・美術科のあり方通して、人通しての精神的な豊かさを求め人間的な自立を促す「造形を通した教育」の理念や教育課題、カリキュラムの構造や編成方法等を明らかにし、具体的な研究実践授業を通してカリキュラムの編成モデルを作成する研究の意味は大きいと考える。

### 3、研究の位置づけ

現行の図画工作科・美術科の学習指導要領は、造形の知識や技能を教える教育のあり方から少しずつ脱却し、人間教育通しての新たな教育内容を少しずつ取り入れてきている。

特に図画工作科では、昭和52年版の学習指導要領では低学年の内容、A表現通して「造形的な遊び」を取り上げ、その後2回の改訂をへて現在ではすべての学年に「造形遊び」を位置づけている。この材料や場所、環境等をテーマに課題追究型の授業方法で行う「造形遊び」は、子どもたちの自主性や主体性、個性や創造性を培い、子どもたちの自立を促すことを課題通した教育のあり方を示唆したものであると私は考えている。

また、平成10年版の学習指導要領では、絵画、彫塑、デザイン、工作といわれてきたような表現内容（形式）通しての内容領域をA表現（2）と大きくひとつに括ることになる。これは図

画工作科の教育課題が、表現内容（形式）に伴う知識や技能を教えることから、造形表現活動を通して子どもたちの個性や創造性を養うことに変わり始めたことを意味している。これにより絵画、彫塑、デザイン、工作といった表現内容（形式）を骨格通したカリキュラム編成を行う根拠が無くなったことになり、新たなカリキュラム構造やその編成方法のあり方が課題となっている。

このように「造形を通した教育」通しての図画工作科・美術科の教育の内容や方法は、学習指導要領をはじめ通して様々に取り上げられ、模索されてきたが、それらの殆どが授業実践的、トピック的な内容を中心通したものに止まっている。「造形を通した教育」の意味やあり方を美術教育学通して裏付ける教育理論や教育方法論通して研究されたものは殆どなかったのである。

私が人間教育通しての「造形を通した教育」のあり方について最初にまとめたのは、1995年に出版した単著『自分らしさが輝く図工の活動／新たな活動内容領域の提唱』（日本書籍）で、その教育課題や授業課題を抽出し、共通的な課題をまとめて幾つかのカテゴリーで括ったものがある。

それをさらに発展させた最も新しい研究をまとめたものが、2004年に出版した共著『子どもの豊かさに培う共生・共創の学び／図画工作』（東洋館出版）で、教育課題や授業課題を幾つかのカテゴリーに整理し、それらを骨格にしたカリキュラム編成方法を試みたものがある。

本研究は、それらの研究をさらに発展させるもので、造形を通した人間教育通しての教育課題、活動課題、授業課題等、さらなる課題の抽出、精選し、新たなカテゴリー通して整理した教材群を再構築することである。また、再構築した課題群をカリキュラム構造通し、それらを基にカリキュラム編成方法を導き出すことになる。

これらの研究が達成されれば、「造形を通した教育」通して様々に実践研究されてきた内容や方法等をカリキュラム構造や編成方法に合わせ、ひとつの教育方法の中に統合して示すことができるようになる。それはまた人間教育通しての「造形を通した教育」のあり方を新たな美術教育方法論の中に構造的に捉えることができるようになると思われる。

#### 4、研究課題の準備状況等について

- i 成熟した社会を担う子どもたちにふさわしい新たな義務教育通しての造形教育理念の構想。
- ii 義務教育通しての新たな造形教育理念に基づいた教育課題、活動課題と授業課題の抽出。
- iii 教育課題と授業課題等を実現するための適切なカリキュラム構造の構築。
- iv 新たなカリキュラムの骨格、構造を基にしたカリキュラム編成方法の確立。
- v 新たな教育課題、活動課題と授業課題を達成するための教材開発と実践授業研究。
- vi 新たなカリキュラムの編成方法による初等、低、中、高学年、及び中学、第2学年のカリキュラムの編成モデル（題材配列列表）の作成。
- vii カリキュラムの編成モデルにおける授業内容等の実践授業研究の紹介。

i～ivの研究課題に対しては、主に以下の研究著書、研究論文を基礎研究通し論を精査し、深めていくことにする。

- ・『授業改革21／自分らしさが輝く図工の活動—新たな活動内容領域の提唱—』単著（日本書籍）  
21世紀に向け、新たな造形教育の理念と課題を掲げ、課題別に構造化した5つの活動課題領域を教育課程編成の柱とすることを提唱する。さらに、研究開発した活動題材をそれぞれ新たな枠組みで括った20の実践授業例を提案する。
- ・『子どもの豊かさに培う共生・共創の学び／図画工作』共著（東洋館出版社）佐々木達行、他2名

第1章人間教育通しての相対的な価値の教育観に基づく図画工作科の教育

第2章人間教育通しての相対的な価値の教育観に基づく教育課程の編成に向けた新たな骨格構造

第3章人間教育通しての相対的な価値の教育観に基づく図画工作科の教育

- ・「研究紀要第59集」筑波大学附属小学校／子どもの豊かさに培う共生・共創の学び（第3年次）共著（初等教育研究会）佐々木達行 他3名

#### I 図画工作科の教育課題と「共生・共創」

1. 人間教育通しての図画工作科の「教育課題」と「活動課題」
2. 人間教育の基礎的、基本的な内容通して捉えた「活動課題」
3. 「活動課題」をより具体化した中心的な「授業課題」
4. 図画工作科の教育課題／活動課題／授業課題と「共生・共創」について

v～viiの研究課題については、主に以下の研究著書を基礎研究通し、内容を精査して活用するとともに、新たに実践研究開発することになる。

- ・『21授業のネタ』／図画工作1／1・2・3年 単著（日本書籍）35編の題材実践例
- ・『21授業のネタ』／図画工作1／4・5・6年 単著（日本書籍）27編の題材実践例

#### 5、研究を実施するために使用する研究施設・設備等について

本研究の研究施設・設備等は、基本的には本学の美術研究室、美術教育実験室を使用し、同室に設置されている設備等を活用することになる。

また、実践的な教材内容開発や授業実践研究等にあたっては、大学附属学校、公立学校等の協力を得て、それぞれの施設を使わせて頂くことになる。

#### 6、研究目的を達成するための研究計画・方法について

1年次に達成すべき研究目標は下記のように計画した。これら、それぞれの項目について具体的に述べていくことにする。

##### i 成熟した社会を担う子どもたちにふさわしい新たな義務教育通しての造形教育理念の構想。

図画工作科、美術科のあり方通して、造形の知識や技能を教え、経済的、物質的に豊かにすれば、子どもたちは（必ず）幸せになる、と考えることは絶対的な価値観による教育である。

一方で、子どもたちが幸せになるには、その子自身が幸せと感ずるようになることが必要であると考えることは相対的な価値観による教育であるといえよう。

相対的な価値観による教育は絶対的な評価が不可能であるため、個人の中に、或いは経験主義や活動主義通して処理されてきた感がある。つまり、義務教育は絶対的に評価することを前提に考えられてきたからである。

今、成熟した社会で豊かに生きようとする子どもたちにとって、人間的、精神的な自立を促していく相対的な価値観の教育は極めて大切になると考えられる。こうした教育のあり方通して、例えば「新学力観の教育」「経験主義の教育」等が提案されてきたが、あまり定着することなく流されていくのを見る通ししっかり通した理念を確立することの大切さを痛感するのである。

実は、現代の造形表現、或いは芸術表現は基本的には相対的な価値観のうえに成り立っているといえる。特に近代から現代にかけての造形芸術運動は、表現者が職人的な価値観から自立した人間通しての芸術家へ、その価値観を変容させていく過程にあるといえる。これらは正に、知識技能を教える教育から、人通しての自立を促す教育のあり方へと移り変わろうとすることと似ている。

造形芸術と教育のあり方を比較したり、結びつけたりして考えると相対的な価値観の教育理念が構想できるのではないかと考えている。

具体的には美術史や美術様式、造形芸術運動、或いは個々の造形表現における思想や理念を美術館資料や書籍、或いはネット情報等、様々な視点から抽出し、相対的な価値観を整理し、まとめてデータ通して記録する。

また、素朴で自然な子どもたちの造形活動の有り様や造形表現などから、それらの意味を考え方、或いは表現方法や様式などを観察して、芸術家による造形芸術運動や造形表現との違いや共通点などを洗い出すことなどを糸口通し、相対的な価値観による造形教育の理念を探っていききたい。

## ii 義務教育通しての新たな造形教育理念に基づいた教育課題、活動課題と授業課題の抽出。

様々な視点から整理し、まとめあげた造形教育の理念をもとに、それらを造形教育の課題通して活用できるように整理し直すことになる。

ここでの「課題」とは、この授業で、この教育で、どの様な子を育て、培おう通しているのか、教育する側の課題であり、教育の根拠となる最も重要な教育の根幹である。また、教育の責任といえるものであろう。

つまり、理念に基づき、造形表現活動を通して、子どもたちの人間的、精神的な自立を促すために、どの様なことを教え、育て、培うことが必要か、様々な視点から共通する課題を選び出すことである。それらの作業は、教育理念を分析、抽出し、整理してまとめる方法と同様である。

勿論、理念ばかりから抽出するわけではない。具体的な授業を行い、子どもたちの造形活動や造形表現などを分析することからも授業課題を導き出すことも必要である。

授業課題や活動課題と思えるものを出来るだけ多く抽出することである。多ければ多いほどよいだろう。様々な視点から課題が見見つけることである。勿論、理念と食い違っていると思えるものは後から消去すればいい。

次に、それらを活動課題通して幾つかの括り（カテゴリー）に整理してまとめあげることになる。どの様な視点から課題を括り、活動課題とするか、或いは、授業に活用する具体的な授業課題を

どの枠の括りに束ねるかの判断である。同じ基準、同等の価値で課題を括ることが大切である。

つまり、大きな括りの理念から小さな括りの授業課題を導き出す場合と授業を通した子どもたちの造形活動や造形表現などから具体的な授業課題を導き出し、大きな括りの活動課題に束ねるようなこともある。活動課題通しての括りは、3～6程になると想定している。

教育課題は活動課題や授業課題を総括するような、造形教育のあり方を大きく括り、まとめ上げたものとする。

これらの研究開発は今までの研究、記録、発表してきた著書等の授業資料や新たに現場の附属学校、公立学校等で行う実践研究授業を通して記録、分析し、課題を抽出、選定、整理して教育課題、活動課題や授業課題通してまとめることになる。

## iii 教育課題と授業課題等を実現するための適切なカリキュラム構造の構築。

知識や技能を教える教育のカリキュラム構造は、絵画や彫塑、デザインや工芸といった表現内容を骨格にしている。つまり表現内容についての知識や技能を教えることが課題だからである。これは教育課題と内容が背中合わせに一体となり、「造形の教育」の分かりやすさでもある。

これに対して、「造形を通した教育」では表現内容は教育課題を達成するための手段となり、課題は内容と一致しない。これが「造形を通した教育」のカリキュラム構造やその編成方法を開発することの難しさでもある。

ここではカリキュラムの骨格に教育課題を使って構造化することを提案、研究開発していく。

つまり、様々な視点から幾つかに括られた「活動課題」を、そのままカリキュラムの骨格構造に据えるのである。「活動課題」ひとつの領域にすえ、幾つかの「活動課題領域」を基にしてカリキュラムを編成していく方法である。それぞれの「活動課題領域」は、幾つかのより具体的な「授業課題」を抱えている構造となる。

実は、この作業は様々な課題を「活動課題」通して括ったときにすでに完成していることになる。

後は、活動課題の領域名を、その課題の意味が分かりやすい象徴的な言葉でまとめればよいことになる。

#### iv 新たなカリキュラムの骨格、構造を基にしたカリキュラム編成方法の確立。

カリキュラムの骨格通して「活動課題領域」が定まったとしても、具体的な造形表現通しての内容をどの様にそれぞれの領域に配当するかを考察しなければならない。

そのためには、先ず「表現内容」とはどのようなものであるかを洗い出し、分析研究する必要がある。これらは教育現場で実際に使われている、或いは使われてきた教科書類や一般的な参考書などから様々な表現内容を抽出し、分析、整理して新たに「造形表現内容の括り」通してまとめ直すことになるだろう。

また、各学年に対する「活動課題領域」の配当バランスの基準を考えなければならない。学年による達成されるべき活動課題の必要性に変化が考えられ、違った配当にバランスになると予想される。

これら iii と iv の研究開発は、ii と同様な方法で進めることになる。

#### v 新たな教育課題、活動課題と授業課題を達成するための教材開発と実践授業研究。

新たに掲げた教育課題、活動課題、授業課題が実際の授業にどの様に有効に働くか、或いは、そうした課題を修正するためにも新たな教材開発とその実践授業研究は重要である。

教材開発は活動課題領域の授業課題はどのような「表現内容」や「授業方法」をとれば達成できるか、「授業課題」と「造形表現内容の括り」とを確認しながら進める。それぞれの活動課題領域の授業課題に対して、或いは表現内容に対して、さらに各学年のたいして多様な教材開発が必要になる。

これらは、私が附属学校に赴いて実践したり、教材開発した内容を附属学校の教員の授業に協力を得たりするなど、様々な視点から柔軟に研究を進める。勿論、すべての内容を新たに教材開発するわけではなく、既存の研究成果を活用することもすることになるだろう。

こうした実践授業研究等については、研究方法や研究内容について附属学校との十分な話し合いや研究協議が必要になる。また、そうした実践授業研究を円滑に進めるためにも情報システム活用したりするなど、研究方法の共通システムをつくって情報を十分に共有しながら行うことを考えている。

これは前年度から引き続いて行う研究開発の内容である。その方法は前述したものと同様であるので省略する。

vi 新たなカリキュラムの編成方法による初等、低、中、高学年、及び中学、第2学年のカリキュラムの編成モデル（題材配列例表）の作成。

教材開発し、実践授業を通して検証した活動題材をカリキュラムの編成方法に合わせて配列し、カリキュラム編成モデルを通して年間の活動題材編成一覧表を作成する。

活動課題や授業課題、表現内容等、幾つかの視点から編成された活動題材編成一覧表となるので、その様式をどの様にするかも課題となろう。

また、初等、中学の4つの学年のカリキュラム編成モデルを通して年間の活動題材編成一覧表を作成することになっている。

vii カリキュラムの編成モデルにおける授業内容等の実践授業研究の紹介。

カリキュラム編成モデルを通して年間の活動題材編成一覧表に配列した活動題材の一部を紹介する。造形を通じた教育のあり方を通して、授業課題を授業の中心に据えて展開する活動を新たに開発した指導案の形式にまとめて紹介していく。

以上、i～viiの研究内容と成果は、研究紀要を通してまとめて掲載、発表する。



## II 研究の成果

### 「造形を通じた美術教育の課題とカリキュラム編成の方法、及び編成モデルの研究開発」

#### (i) 成熟した社会を担う子どもたちにふさわしい新たな義務教育としての造形教育理念の構想

##### 1、成熟した社会に向けた義務教育のあり方

###### ① 今、社会の構造改革の中で

日本経済が高度成長を経験していた時代、企業戦士と呼ばれていた幾多の人々から仕事と人生について、次のようなことが問われていたのを思い出す。

「身を粉にして一心不乱に働いてきたが、はたして自分にとっての仕事とは、人生の幸せとは何であったのだろうか！」

それは、社会や人々が物質的、経済的な豊かさを旗印に掲げ、ひたすらそれらを達成することに生き甲斐を見だし、幸せを求めてきたことに対する新たな問いである。

そして、その頂点でバブルが崩壊した。一心不乱に築いてきた物質的、経済的な豊かさは社会構造や組織とともに脆くも崩れていった。かつての企業戦士の問いは実感として一般的な社会の中にも及び、子供たちにも浸透していく。物質的、経済的な豊かさが幸せであると考えようような社会的な価値観が少しずつ崩壊しはじめたのである。

そうした社会的な価値観、様々な社会構造や組織の崩壊は、それらを支えていた社会的な権威や信頼をも失墜させていく。

明治以来、政治や経済、金融や流通、教育や行政など、あらゆる分野にわたって日本の高度成長を支えてきた中央集権的な社会構造や官僚的な組織は、すでに機能不全を起こしはじめていているのである。

一方で、ある程度の経済的な自立を果たした人々は社会的な成熟度を高めて多様化するとともに、社会に対する要求度や批判力を増してきた。

経済的な自立を達成してきた日本が、より成熟した高度な社会を築いていくには、新たな社会の理念や価値観を問うていくとともに、自立した市民としての人々の自覚を培っていくことが重要な課題となる。また、それらに見合った社会構造や市民組織をつくりあげていかなければならないということである。それが政治や経済、金融や流通、教育や行政など、社会のあらゆる分野にわたり構造改革の必要性が叫ばれている所以である。

勿論、前述のとおり、教育改革も論外ではありえない。

我々は今、平成維新といわれるような、社会の構造改革のまっただ中にあるのである。

###### ② 近代合理主義としての義務教育

明治以来行われてきた日本の義務教育は、欧米の物質的な豊かさや経済的な繁栄を理想に掲げ、近代合理主義としての義務教育制度を取り入れてきた。

明治の日本は、速やかに欧米列強国と肩を並べるような兵力や経済力など、いわゆる国力を蓄える必要があった。「富国強兵」「殖産興業」は、人々を鼓舞するための象徴的な合言葉として使われたのである。

国の経済的な基盤を固めるために、先ず、人材の育成を図らなければならない。中央集権的な義務教育は、こうした人材を速やかに育成するために取り入れられた制度である。

それは、多くの子供たちに、いわゆる「読み、書き、算術」に象徴されるような知識や技能を、短時間に教えるための極めて合理的、功利的な教育システムとして成立した。

これらの制度を基盤に、明治の日本は着実に国力を蓄え、列強の仲間入りを果していくことになるのである。

こうした義務教育のあり方は、戦後日本が民主主義的な教育を取り入れてもなお、基本的な考え方として変わるようなことはなかった。戦争により疲弊した日本は、物質的な豊かさや経済的な繁栄に夢を託し、幸せを求めていたのである。

戦後にあっても義務教育は、子供たちの豊かさの基盤となる経済的な自立を促すことを重要な課題としてきたのである。それは、経済の発展に歩調を合わせるように、義務教育としての合理的、功利的なシステムをさらに押し進めることになった。

教科教育は、より系統的な学習を取り入れ、そのシステムを一層研ぎ澄ましていくことになる。そうしたシステムから生み出された人材は、経済発展や高度成長を支える原動力となり、ついに日本は欧米の物質的な豊かさや経済的な繁栄に追いつくことになった。これにより、かなりの日本人は物質的な豊かさの基盤となる経済的な自立を手に入れたことになったのである。

義務教育制度は、社会に人材を供給し続けることで日本の経済を支え、当初の目標を見事に達成したことになる。

### ③ 経済原理に基づく即物主義的な社会の義務教育

しかし、日本が経済的な自立を達成することに一役を担ってきた義務教育に、新たな課題が持ち上がってきた。「物質的な豊かさや経済的な繁栄は、子供たちを幸せにする。」という仮説は、そう簡単には実現しなかった。

学校の中では、いじめや不登校、引きこもり、校内暴力や学級崩壊、少年犯罪などが拡大し続け、子供たちは決して幸せになったとは思えないからである。

物質的な豊かさや経済的な繁栄の影で、子供たちは喘いでいるのである。

すべてを物に置き換えて豊かさを考える社会にあつて、学校もその例外ではいられなかった。物質的な豊かさは知識や技能の量に置き換えられてきたのである。

かつて、知識や技能は決して物の豊かさに置き換えられるものでなく、人としての豊かな人格を形成するための学問や芸術の要素として必要とされてきたものである。

しかし、知識や技能の量は、学歴という肩書や社会的な地位に置き換えられ、更には金銭に換金され、物に生まれ変わるのである。物質的な豊かさを最高の幸せと考えれば、教育の最大の課題は知識や技能の量を増やすことになるだろう。

知識や技能を合理的、功利的なシステムで教え込む教科の系統学習が持て囃され、それらを推し量り、他との比較を偏差値として評価する教育が優先されることになるのである。

学問や芸術の入口として豊かな人格を形成するための知識や技能が、物質的な豊かさを得るための手段としての知識や技能にすり替えられてしまったのである。

「物質的な豊かさが最高の幸せ。」とする考え方は、社会における経済原理や競争原理に基づく即物主義的な価値観に一層の拍車をかけることになった。

そうした社会にあつて、厳しくいえば、学校も知識や技能を金銭に置き換えるための経済原理や競争原理を基にした利益集団的な傾向を担ってきたということである。

学校は、子供たちの自立を促すために知識や技能を教えることを忘れ、偏差値を付けることだけに満足してきたとしたら、それらはまさに学校を利益集団化することの役割を果してきたと言えるのではないだろうか。

今、子供たちは物質的な豊かさや経済的な繁栄の影で喘いでいるのである。全てが経済原理や競

争原理に基づく合理的、功利的な即物主義の社会の中で、子供たちは生きることの意味や希望を見失っているのではないだろうか。

#### ④ 家族集団と利益集団の狭間であって

一般的な社会における会社や商店などは、金銭を中心とした経済活動を行う利益集団としての役割を担った組織である。

これに対し、あらゆる利害を越えた血族の集団が家族集団ということになる。

学校は子供たちに学問を通して社会人としての人格の形成を促す役割を担ってきた集団で、丁度、家庭と社会、家族集団と利益集団とを結ぶ中間的な存在であると考えられるだろう。

子供たちは家族集団の中にあっては、人として、家族の一員としてあるがままの掛け替えのない存在として受け止められ、認められて育てられる。人として自他を肯定的に受け止めたり、社会の中で他とコミュニケーションを取りながら豊かに生きるための原風景が培われたりすることになる。そこは、決して競争原理や即物主義的な価値観などが入り込む余地がない、人としての基礎的な人格形成を促す環境であると考えられる。

一方、かつての学校は、一般的な社会における合理的、功利的な競争原理の価値観が優先する利益集団に対し、家族集団に近い価値観を持った豊かな環境や原風景を残した組織集団であった。学生時代の思い出を樂しげに話す人々が多いのは、まさに利益集団では得難い人との豊かな人間的な関わりが様々にあったからではないだろうか。学校は子供たちが大人に成長していく過程であって、血族集団と利益集団との橋渡しをする大切な役割を担っていたと言えるのである。

しかし、学校が単に優劣を競うだけの利益集団的な役割に傾いてきたとすれば、子供たちは学校という家族集団的な要素を持つ環境を失うことになる。学校に対する不登校やいじめ、学級崩壊なども家族集団的な環境では起こりにくいものである。

さらに不幸なことに、こうした社会の競争原理に基づく合理的、功利的、即物主義的な価値観は、最近では家庭の中にまで持ち込まれていることがある。

本来、家族集団である家庭では、競争原理や即物主義は存在しないはずだ。親が子供を育てるのは、損得などを考えた合理的、功利的なことではないはずである。

しかし、親が子供に対する愛情の示し方を間違ったり歪めたりすると家庭での環境は厳しいものになる。子供が、早々と社会の競争原理に基づいた利益集団的な価値観で評価されてしまうことになるからである。

つまり、競争原理に基づいて知識や技能をより多く持つことが、子供の存在自体や他の価値観に優先して比較評価されたり、またそれと反対に存在自体を否定的に扱われたりすることなどが起きるのである。そのようなときには家庭は社会と同様な利益集団的な様相を呈することになる。子供にとって、家庭は自らの存在を絶対的、肯定的に受け止められ、安心して過ごせる環境でなければならない。

それは、子供の安定した人格形成にとって、欠くべからざる条件であると考えられる。

また、家庭は競争原理に基づいた社会から逃れて体や心を癒す唯一のオアシス的な場所でもあるだろう。学校が利益集団化し、さらに家庭もそうした傾向を持てば、子供たちは、競争原理に基づいた厳しい利益集団としての社会から逃れ、心と体を癒す場所は失われるのである。

#### ⑤ 生きることの意味や価値を問う、成熟した社会の義務教育

こうした時代であって、(初等、中等教育)としての新たな課題は、先ずその教育のあり方を問い直すことから始めることであると言ってもいい。

今、義務教育の中に様々な深刻な課題を抱えていることに対し、極めて個人的、末梢的な教科の指導方法などをあげ、課題解決の方法とすることを聞くことがある。

しかし、そうした捉え方では深刻な課題を解決することは出来ないだろう。

我々が抱える様々な課題は、今までの教育のあり方から生まれてきたもので、いや今までの教育のあり方が日本を経済的な自立に導くことに成功したからこそ生まれた新たな課題であって、今までの教育のあり方や方法では解決出来ない社会の根本的な課題を含むものであると考えられるのである。

つまり、知識や技能を教えることで子供たちの経済的な自立を促し、物質的な豊かさを求めることを課題としてきた義務教育は、すでにその目標を達成したと言ってもいいのである。

子供たちに対し、我々が抱えている義務教育の新たな課題は、経済的な自立を達成してきた日本が、より成熟した高度な社会を築いていくためにどうしても越えなければならない新たな社会の理念構築やそうした社会における自立した市民としての自覚を培っていくことの課題と同質のものではないだろうか。

今、子供たちも、現代の様々な社会的状況を背景にしながら、我々大人が抱えるのと同質の課題でもがき苦しんでいるように思える。物質的な豊かさを求めることに人としての生き甲斐や希望を見いだすことに限界を直感してきたナイーブな子供たちの姿がそこにあるのではないだろうか。

人は何のために学校に行き、勉強をしなければならないのか。そして、それは人としての生きることにどのような意味を持つのか。子供たちは、人としての生きることの意味や価値を見いだすことにもがいているのではないか。そうした課題は、知識や技能を上手に教えても、解決のつくものではないのである。

もしそうだとすれば、学校は、義務教育は子供たちのそうした問いに答えていく場と環境を整えなければならない。教師はそうした課題を自らの専門である教育や教科の課題と突き合わせ、新たな義務教育の課題としなければならないと考えるのである。

しかし、子供たちの問いから逃げることなく、はたして教師はどのような答えを子供たちに用意することが出来るだろうか。それは、教師の、大人たちの責任において答えなければならない課題となる。少なくとも、そうした問いに対し、子供たちと対峙することから逃げることは出来ないはずである。

子供たちが様々な不安を抱きながら人間的な自立を目指すのと同様に、我々も成熟した社会において、自らが生きることの意味や価値、或いは教師としてのあり方を問い直すことが求められているのである。

成熟した社会における義務教育を担う教師に求められることは、自明の知識や技能を教える技術を持つこともさりながら、むしろ子供との関係のなかに自らの生き方を問いつづけ、自らの未熟な生き方を子供たちに開示していく勇氣を持つことではないだろうか。

## 2、義務教育としての造形教育の理念

### ① 知識や技能教育を教えることを中心的な課題とした「造形の教育」

#### ア 知識や技能教育としての「図画」と「手工」

義務教育における造形教育は、凡そ「図画」科や「手工」科としてはじまった。

勿論、これら「図画」科や「手工」科も「読み、書き、算術」と同様に「殖産興業」を目指す国の政策として義務教育の中に取り入れられたことは言うまでもない。いわゆる、技能教科というこ

とになる。絵や図を描いたり、物をつくったりすることで子供たちの手の巧緻性や技能を高め、優秀な職人や職人としての人材を育成することが、その中心的な課題であった。

子供たちにとっては、手に職をつけ、経済的な自立を図るための基礎的な訓練の場となったのである。

こうした技能教科としての「図画」科や「手工」科のあり方は、大正期の自由画教育などの影響を受け、職人的な技能教科から多少とも開放され、写生画や生活画などのより自由な表現を獲得していくが、それも大人の社会文化的な価値観による表現の範囲で、技能教科としての域を脱することはなかった。

#### イ 民主主義を反映した「図画工作・美術科」

戦後、義務教育としての造形教育は「図画」科と「手工」科が統合され、小学校では「図画工作」科と改名して再出発することになる。

民主主義的な教育を反映した、昭和26年の学習指導要領の試案には、基本的に「造形的創造活動を通して自己の能力を発達させる」、「社会生活における造形の活用能力を発達させる」など、個人や社会人としての成長、発達を促すことが掲げられている。

ここでは「造形活動をとおして自己の能力を発達させる」とあるように、「～とおして」の文言が、すでに使われはじめていることが興味深い。

「造形活動をとおし」とは、造形活動自体が目標ではなく、「手段であること」を示すものであるが、言葉とは裏腹にこのことが正しく理解されるのはずっと後のことである。

それどころか、本研究の課題がそのことを教育学として説明、解決しようとするものであることに他ならない。

昭和33年の学習指導要領の目標には、「造形感覚」や「創造的な表現能力」、「美的情操」、「技術の尊重」、「造形能力の活用」など、造形教育として個人の成長、発達に視点をあてた課題が、ほぼ出そろった感がある。さらに、伝統的な表現方法によって括られた内容領域として「絵を描く」「版画をつくる」「粘土でつくる」「模様をつくる」「いろいろなものを作る」が示された。

これらは、それ以後の図画工作科の学習指導要領の基本的な骨格構造をおおむね示したものとなった。

学習指導要領の目標と内容との関係を見ると次のようなことが言えよう。

目標は、造形活動を通じた個人の成長、発達に視点をあてた極めて抽象的な表現で示されているのに対し、内容は、伝統的な表現の方法によって括られた領域として具体的に示されている。

このことは、結果的に、抽象的な目標をお題目にし、具体的でわかりやすい表現内容を子供たちに教える傾向が強まっていくことになる。表現内容としての造形的な技法を教えることである。

日本が経済発展の時代に入り、職人や職人になる子供たちが少なくなっても、「図画工作・美術科」は、表現内容である絵の描き方や物のつくり方を教える技能教科でありつづけることになる。

多少なりとも経済的な豊かさを獲得してきたことは、子供たちに、絵や工芸を嗜み、芸術を愛する文化人や知識人として教養を養う余裕が出てきたからであろうか。

こうした傾向が極端に進むと、絵画や工作における子供自身の表現は彼らの実態から切り離され、次第に大人にとって見てくれがよく、技術的に精緻な方向へと、子供たちの表現を押し込めていくことになる。そうした表現活動は子供の精気を奪い取り、技能や労作的な内容が強調された不自然で冷たい表情が多く見られるようになる。

それでも子供たちが頑張るのは、描き、作りたいから表現するのではなく、学力としての知識や

技能を高く評価してもらうための成績を意識した活動であるからに他ならない。人としての創造的な表現活動の意味が、学力という功利的な価値にすり替えられてしまったことになるのである。

それは逆に、造形的な表現活動が学力として評価されなければ、子供たちは活動する意味を失うことにもなるのである。そうした不幸は、子供たちが自主的、主体的、創造的な造形表現活動の楽しさや面白さを経験したり知らされたりしていないことでもある。

他の教科でも同様である。教科が学問の体系としての知識や技能を、子供たちの実態を無視し、合理的、功利的に教え込むような系統学習のシステムを取り入れたのによく似ている。

知識や技能教育としての造形教育は、極端な技術指導の結果として、子供たちの造形に対する興味や関心を奪ったり、表現することに苦手意識を持たせてしまったりするような結果にもつながっていくことになる。

#### ウ 造形の知識や技能を教える「造形の教育」からの脱皮

図画工作・美術科は、造形的な知識や技能の基礎的、基本的なことがらを教える教科として、その専門性を高めながら、高等教育、大学の専門教育へと引き継がれていく。

明治以来行われてきた義務教育は、基本的に造形専門教育や造形文化教育としての流れの中にあり、造形的な知識や技能を教えることで、子供たちの「経済的な自立」を促すことを中心的な課題とした造形を教える教育、いわゆる「造形の教育」と言うことができる。

しかし、戦後の義務教育としての図画工作・美術科は、基本的に「造形の教育」としての傾向を持っていたとは言え、学習指導要領の目標を見ると「造形活動を通して・・・」「造形的な創造活動の基礎を養う・・・」「豊かな情操を養う」など、極めて人間教育的な課題を示してきているといえるのである。

学習指導要領の目標として、そうした人間教育的な課題を示しながら造形的な知識や技能を教えることを課題とした「造形の教育」としての概念を抱くのは、「絵画」「彫塑」「デザイン」「工作」に代表されるような伝統的な表現内容を中心に領域が編成されていたからに他ならない。

表現内容が中心的に示されれば、その「内容を通して・・・」と考えるより、それを表現する知識や技能を教えることを課題と考えても無理はないだろう。

さらに、カリキュラムを編成するには、どうしても違った表現内容をバランスよくならべることになるのである。つまり、領域としてのそれぞれの表現内容を教えるためのカリキュラムが編成されることになるのである。

こうしたことに、学習指導要領の目標としては人間教育的な課題を示しながら、知識や技能を教える「造形の教育」から脱皮出来なかった要因があると思われる。

義務教育における図画工作・美術科の教育は、昭和20年代後半から活発になる創造主義美術教育運動などの民間教育団体の主張に見られるように、造形的な知識や技能としての表現内容を教える伝統的な「造形の教育」のあり方に疑問が投げかけられていた。

それらの問いに対し、義務教育としての図画工作科が具体的に応えた内容として、昭和52年の学習指導要領における低学年の「造形的な遊び」がある。以後、学習指導要領の改訂により「造形遊び」となって、中、高学年へと広げられていくことになる。

これは、伝統的な表現内容の領域とは全く異なる、活動自体を内容とした「造形遊び（材料をもとにした造形活動）」を新たな領域として設けたものであった。この「造形遊び」において、図画工作科は知識や技能を優先的な課題として教えることからはじめて解放されることになった。

さらに、平成10年の学習指導要領では、はじめて伝統的な表現内容で分けられた領域がなくな

る。「造形遊び」であるA表現（1）と「表現内容」をひとまとめにしたA表現（2）の2つに内容が大きくまとめられたのである。

これにより、義務教育としての図画工作科は、造形的な知識や技能を優先的な課題として教える「造形の教育」から、完全に抜け出すことになる。

義務教育としての図画工作科は、技能教育である「造形の教育」の形を残しながら、少しずつ人間教育としての「造形を通した教育」へと脱皮を試みてきたと言えるのである。

#### エ 「造形の教育」と「造形を通した教育」

造形的な知識や技能を教え、「経済的な自立」を促す教育が「造形の教育」だとすれば、相対的な価値の中にある「豊かさ」や「人の生き方」などを問うことで「人間的な自立」を促す教育が「造形を通した教育」であると言うことができる。

端的に述べれば、「造形の教育」は、造形的な表現内容を教える教育であり、「造形を通した教育」は、豊かな人間性を培う教育であるとも言えるのである。

しかし、これらの教育のあり方は、何方かが正しいとか優れているということではない。

個人や社会、或いは国などの必要性やそれぞれの教育の課題などに合わせて行うもので、どちらの教育のあり方にもそれぞれの意味や価値がある。

義務教育としての図画工作・美術科は、造形的な知識や技能を教えることで、子供たちに「経済的な自立」を促す教育として出発したことは先にも述べたとおりである。

しかし、「経済的な自立」を達成し、成熟した社会を向けての義務教育を想定すると、子供たちに相対的な価値観の中にある「生きる力」を培い「人間的な自立」を促すような「造形を通した教育」のあり方が浮上してくるのである。

### ② 「人間的な自立」を中心的な課題とした「造形を通した教育」

#### ア 相対的な価値観や人生観を培う人間教育

子供たちに、より豊かな人生を送ってもらいたい。教育に携わるものの願いであろう。

その「豊かな人生」の中身は物質的な豊かさから精神的な豊かさまで千差万別である。

どちらを最優先に考えるかは、個人は当然のこと、時代や民族、国家の価値観によって違ったものになることは言うまでもない。

「経済的な自立」を達成した日本は、成熟した社会に向けて人々が「豊かさ」や「幸福」、或いは「生き方」に対する考え方を問い直しはじめていたのである。

しかし、それらをどのように捉えるかは相対的な価値の中にあって、安易に正答というものを出すようなことはできない。それぞれが、それぞれの人生をかけて自らに問うことでしかできないような課題を包含しているのである。

しかし、どんなに大きな教育課題を包含していても、義務教育はこうした社会における子供たちの問いや課題に対し、しっかりと正面から応えていかなければならないのである。もはや知識や技能を教えることで、物質的な豊かさを求めるだけの教育は成り立たないと言ってもいいだろう。成熟しつつある個人や社会における教育課題や子供たちに対する目標も、ここで大きく変えていかなければならないのである。

造形表現活動を通し、子供たちに生きることの意味や価値を問い、相対的な価値のとしての「豊かさ」や「幸福」、或いは「生き方」などを思考、追究するような場や環境を築いていくことが大切になる。

そうした、子供たちの価値観や人生観を培うような教育は、教師の一方的、独善的な考え方や画一的、絶対的な指導では実現できるはずがない。

そこは造形表現活動を通し、様々な造形的なものの「見方」や「考え方」、或いは価値観などのせめぎあいや協調の上に成り立つ、コミュニケーション(communiation)としての場でなければならないだろう。子ども同士、子どもと教師、さらに教師同士にあっても、共に学び合い、求め合う人間教育としての場であり、教育のあり方である。

義務教育における図画工作科・美術科(造形教育)として、まさに「造形を通した教育」が必要とされているのである。

#### イ 図画工作科・美術科としての「造形を通した教育」の可能性

「経済的な自立」を果たした成熟した社会における義務教育は、単なる知識や技能を教える技能教育では、もはや子供たちを引き止めることはできないだろうと前述した。

「経済的な自立」を促してきた知識や技能教育は、「人間的な自立」を促していく人間教育へと転換していくことが求められているのである。義務教育は、子供たちに「人間的な自立」を促していくような相対的な価値観を新たな課題としなければならないということである。それは義務教育の歴史的な経緯を見ても、成熟した社会に向けた必然的な結果であると言えるのである。

そこで、図画工作科・美術科は、造形表現活動を通し、子供たちの「人間的な自立」を促していくことに対して、どのように有効的な教育課題や表現内容を持っているのだろうか。

その人間教育としての造形教育の可能性を考えていくことにする。

まず、造形表現活動は、人としての基本的な生活に関わる色彩、形態、材質(texture) というような3つの造形要素を持っているということである。

我々は様々な物に囲まれて生活をしているが、これらのほとんどの部分で色や形、材質として目や皮膚から感じている。つまり、日常の生活と造形は切り離せない関係にあるということである。

もう少し理論的に言えば、これらの3つの造形要素、色彩や形態、材質(texture) は、視覚や触覚である色彩感覚や形態感覚、触覚などを通して認識され、造形感覚として養われているのである。つまり、図画工作科・美術科の大きな課題のひとつとして、子供たちの基本的な生活に関わる造形感覚を養うことがあげられるということである。

「造形を通した教育」において、次にこの教科の優れた点は、人としての原体験的な内容や生活的な内容を豊富に含んだ体験的な造形活動を経験することができることである。

原体験的な造形活動とは、他を意識することなく自らの感覚に合わせ、自由に色や形を塗ったり、土や粘土などの快い触感を味わったりしながらつくるなどである。それは人が本来持っている基本的な自己表出や自己表現としての行為である。こうした造形を通した自己表出や自己表現は、精神的な安定を得たり心を開いたりするようなことにも有効にはたらくのである。

さらに、造形表現は常に体験的、総合的な要素を持っている活動ということもあげられる。どんなものを描いたりつくったりするにも、自らが持っている総ての能力や経験を総動員しなければ表現することはできないからである。こうした造形体験的な活動は、その授業課題に合わせ、様々な授業条件を設定することにより、どの様にでも課題追究的、総合的な扱いの授業をつくることが可能になる。「造形を通した教育」において、達成すべき授業課題に合わせ、自由に授業を構成することができることは大切な条件になるのである。

図画工作科・美術科におけるこうした授業内容や授業条件は、「人間的な自立」を促す人間教育としての様々な可能性を包含しているといえるのである。



## (ii) 義務教育としての新たな造形教育理念に基づいた教育課題、活動課題と授業課題の抽出

義務教育は、21世紀を生きるすべての子どもたちにとって活動し学ぶ意味や価値がある教育でなければならない。義務教育は、特別な、或いは一部の子どもたちの教育でも、美術の専門教育でもないのである。

義務教育としての図画工作科、美術科は、単に知識や技能を教える教育から子どもたちの精神的な自立を促す人間教育へと転換していかなければならない。それは、絶対的な価値の教育観に立った「造形の教育」から、相対的な価値の教育観に立った「造形を通した教育」へと理念を転換していくことでもあると述べてきた。

それでは、新たな造形教育の理念として、相対的な価値の教育観に立った「造形を通した教育」は、どの様な視点から捉え、またどの様に具体的な教育の課題を掲げることができるだろうか。

### 1、新たな造形教育理念としての「造形を通した教育」の視点

#### ① 相対的な価値観で捉える「子どもに培う」教育

知識や技能を教える「技能教育」としての「造形の教育」と人間的な自立を促していく「人間教育」としての「造形を通した教育」との根本的な違いは、価値基準の違いである。

つまり「技能教育」は、極めて狭い範囲の知識は技能を教え、養うことであるので、それらに対する上手下手や正否等の価値基準が比較的明確に示せるのである。

与えられた課題としての知識や技能を、どの程度獲得したかの絶対的な基準である。

それに対し、人としての自立を促していくような「人間教育」には、絶対的な価値基準があてはまることは少ないのである。

前述したように「豊かさ」や「幸福」、或いは「生き方」や「人生観」など、相対的な価値基準の中にあるものがほとんどで、たやすく正否を明確にすることは出来ないし、正否を問うようなものでもないのである。つまり、正しい「幸福」というものはない。それは個人的な経験や人生観から導きだされる相対的な価値基準としてあるものだからである。

人としての自立を促していくような「人間教育」は、このような相対的な価値基準を中心に教育の課題を構成しなければならないと考えられる。

「技能教育」が「教える」ことに重点がある教育とするなら、「人間教育」は「培う」ことに重点がおかれる教育と言えるのである。

「培う」とは、植物の栽培で「木に培う」と使われる。木が本来持っている成長しようとする力を引き出すために、根元の土を耕し、土を盛ることを言うのだ。

相対的な価値観の中にある課題を多く扱い、人としての自立を促していく人間教育は、成長しようとする「子どもに培う」教育であることを前提としている。

「造形を通した人間教育」は、「子どもに培う」教育であると言うことである。

子どもが本来持っている成長しようとする力を引き出すために、様々な環境を整えながら造形表現活動を提案し、促していくことであると考えられる。

こうした考え方を理念として「造形を通した人間教育」のあり方を様々な角度から捉えていくことにする。

#### ② 造形表現活動を主観的な自己表現と捉える教育のあり方

それでは、子どもたちの自立を促す人間教育が、造形表現活動を通して「子どもに培う」とは、どの様なことなのだろうか。

さて、授業の中で子どもたちに『「自分」を（造形的に）表現してみよう。』と問いかけてみたでしょう。よく聞く言葉がけであるが、たぶん子どもたちは戸惑うばかりだと思う。

それは、造形的に表現される「自分」とは、一体どの様なものなのか、子どもたちははじめから知る由もないからである。

つまり、造形表現は活動を通し、造形的に表現される「自分自身」を「求め、見つけていく活動」そのものを意味しているからである。また一方、造形表現は活動を通し、それぞれ各自のよさや特徴を「自分自身」として「造形的に表現する」ことでもある。

造形表現とは、これらのふたつの行為が相互に繰り返される相乗的な活動であると考えることが出来るのである。

こうしたことは造形表現活動の意味を基本的に自らと対峙する「主観的な自己表現」としてとらえる考え方の上に成り立っている。

「造形を通した教育」は、造形表現の試行錯誤を繰り返しながら「自分自身」を求め、見つけ、表現するなどの活動を通して子どもたちに培い、自立を促していくことである。

そのとき、様々に「表現される対象や主題」、「表現形式や技法」などは「自分自身」を表現するための「素材であり、手段として使われる小道具」であると考えてもよいだろう。

表現したいものは「自分自身」であり、自らの造形的なものの「見方」や「考え方」、「造形感覚」、或いは「生き方」といったものを「自分自身」として色や形や材質などに託し、主観的に自己表現することであるのだ。

「自分自身」も表現素材であり、表現対象、主題であるということもできるのである。

### ③ 主観的な表現と客観的な表現の違い

しかし、「自分自身」をも表現素材とするような主観的な自己表現は一般的にはあまり理解されていない。造形表現は客観的に物、あるいは対象を他に伝えるための行為であると考えられていることが多いからである。

そうした表現は、図的、説明的な要素の占める割合が大きいことを意味している。

絵画的な表現を例に取れば、誰にもわかるような視覚的、あるいは概念的な形として描かれていることが第一に要求される。図的、説明的に描くことが表現だと考えているわけである。

勿論、自己表現と言ったところで、結局は「自分自身」を他に伝えるための表現であるから、ある種の客観性を持っていると考えてもいい。

しかし、この客観性とは、図的、説明的でなければならないというような狭い解釈ではなく、表現として人に訴える人間的な強さを意味しているのである。

一方、表現とはどの様な表現形式や表現様式をとっても、それは表現手段の違いであり、客観的に表現することは出来ない。むしろ表現とは、すべて主観的なものであるとする考え方もできる。

これは捉える側の問題であるとも言えるが、一般的な意味での考え方の違いを整理すれば次のようになるだろう。

造形表現を「主観的な自己表現」と捉えることは、表したい、伝えたいものは自分自身であり、表現対象や主題、表現形式や様式、表現材料や技法等はすべて自分自身を表現するための素材であり、手段であるとする考え方である。

他方、造形表現を「客観的な表現」と捉えることは、表したい、伝えたいものは自然や世の中のものごとなどで、その表現対象を視覚的に捉え、図的、説明的、再現的に表現しようとする考え方である。しかし、どのように客観的なものでも最終的には個人の表現であることは前述したとおり

である。

本来、造形表現は、「主観と客観」が一体となったもので、造形教育においても、最終的には「知性と感性」、「知識技能と造形感覚」、「教と育」など、両者が車の両輪のようにバランスがとれた造形表現活動として行われなければならないものである。

#### ④ 造形を通じた人間教育と知識技能の捉え方

ここでまで、子どもたちの「自分自身」を培うために、あえて「主観的な自己表現」としての造形表現活動の大切さを取り上げたのは、その考え方に対するバランスが「客観的な表現」に片寄り過ぎているからに他ならない。

一般的に、造形表現は客観的に表現することであると考えられていることが多い。目で見えたものを見えたように描いたりつくったりすることが表現である、とする狭い考え方に囚われているのである。これは造形表現に対して、先ず知識技能を優先して指導することにつながっていく。

こうした考え方は、結果として表現することの最も大切な条件である快さや自由なもの「見方」や「考え方」、新鮮な感覚や感性を奪ったり、さらに表現形式や表現材料などの選択の幅を狭めたりすることになる。つまり、子どもたちの「自分自身」を培うための教育環境を疎外するような危険性をはらんでいるのである。

実際、子どもたちの造形表現に対する興味、関心は、知識技能が優先される高学年になるほど低くなり、逆に苦手意識が高まる傾向が見られることは、こうしたことと無関係ではないだろう。

図画工作科(造形教育)を「子どもに培う」教育と考えれば、こうした状況を克服するためにも、造形表現活動を先ず基本的に主観的な自己表現と捉えることが大切になるだろう。

また、授業の中で子どもたちに自己表現としての造形表現の意味や考え方を伝えていくことが、造形的な内容の選択と同等に極めて大切なことと考えられる。

この考え方を持って造形表現活動することは、知識技能の優劣を比較し、競うことから子どもたちを解放し、自信を持って「自分自身」を表現することができる環境をつくることになるからである。ここで補足しておかなければならないのは、知識技能の習得が子どもたちの造形表現に対する興味や関心を奪っているということではない。あるときは、知識技能を指導しないために子どもたちが自信を失うようなことが起こる場合も考えられる。

しかし課題は、子どもたちの自立を促すためには、どの様な知識技能を、どのような状況で伝えていくかを考えなければならないということである。

つまり、知識技能が造形表現活動の手段として生きて働くように、子どもたちにとっての活動の必然性や妥当性などが検討されて使われなければならない。

造形表現活動を通し、自立を促す人間教育は、子どもたちにとって活動の必然性や妥当性が弱かったり、活動を強要されたりするような授業の状況では成立しにくいのである。

#### ⑤ 造形表現活動とコミュニケーションの意味

##### ア 自分自身とのコミュニケーション

造形表現活動は、造形的に表現される「自分らしさ」を求め、見つけていく活動そのものである、と同時にそれぞれの「自分らしさ」を造形的に表現していく活動でもある。

子どもたちが造形表現活動を通して「自分らしさ」を求め、見つけていくことは、図画工作科、美術科の教育の立場から、主観的な自己表現と考えることが必要であると述べてきた。

伝えたいものは自分自身であり、自らの造形的なものの「見方」や「考え方」、或いは「造形感覚」や「感性」、「生き方」といったものを「自分らしさ」として色や形や材質などに託し、主観的

に表現することである。

しかし、先にも述べたように「自分らしさ」とは子どもたちにはじめから備わっているわけではない。造形的なものの「見方」や「考え方」、或いは「造形感覚」や「感性」、「生き方」といったようなものは、子どもたちが社会の中で積極的に行う様々な造形的な活動や経験などを通して常に広げられ深められていくものである。

つまり、「自分らしさ」とは、社会的な環境と個人的な資質とが重ね合わされて培われるものと考えられる。人は社会の中に、或いは他との関係の中にあつて、様々な活動や経験などを積み重ねることで自らの「自分らしさ」を培っているということである。

それでは「自分らしさ」を培うことに関し、子どもたちが自分と社会との関係の中ではじめて対峙する相手は誰だろうか。

それは、必然的な欲求に応じた本能的な行為を含む自己表出や自己主張などを通して自分自身を認識していくことから始まるだろう。ものを見たり触れたりするなど、自らの視覚や触覚といった造形感覚をたよりに、それらの存在を楽しさや快さ、面白さや不思議さなどとして味わう自分自身がいるということである。そうしたことは、特に幼児期の行為として大切な体験となる。

自らの感覚をたよりに、色や形、感触や行為などに対し、好き嫌い、或いは快、不快などを本能的に選択しながら、自らを確かめたり他に訴えたりする行為、つまり自分自身との対話〔コミュニケーション〕は、自己表現の原点となるものであろう。

造形表現活動を通して、「自分らしさ」を見つけ、求め、表現していく活動の最も大切な要素は、楽しさや快さ、面白さや不思議さ、好き嫌い、或いは快、不快など子どもたちの必然的な欲求に応じた本能的な行為を含んでいることがあげられる。

つまり、「自分らしさ」を見つけ、求め、表現していく活動は、本能的な欲求に基づいた自分自身とのコミュニケーションを大切にしたい自己表出や自己表現の活動からからはじめることが必要なのである。

#### イ 自由にコミュニケーションがとれる環境の設定

しかし、どんなに自己表出や自己表現が出来る表現内容を取り入れても、子どもたちの活動を積極的に促したり、十分に保障したりしていくような学習環境が整えられていなければコミュニケーションは成り立たない。子どもたちが安心して自己表出や自己表現が出来る環境が必要なのである。

それは、造形表現活動を通して自由で開かれた心を培っておくことが大切になるということでもある。教師と子どもたちは当然のこと、子ども同士、あるいは教師同士にあつても、それぞれの造形的なものの「見方」や「考え方」、造形感覚や感性の表れとしての表現を相互に認めあい、自由にコミュニケーションがとれる環境を整えておかなければならないのである。

それぞれの表現はみな違うものであり、違わなければおかしいことでもある。どのような造形的なものの「見方」や「考え方」、或いは表現であっても、平等に扱われ、正當に評価されなければならないのである。

そのことは子どもたちが自らの造形的なものの「見方」や「考え方」に自信を持ち、安心して自己表出や自己表現ができることにつながり、「自分らしさ」を培っていくことに最も基本的なことからである。また、様々な造形的なものの「見方」や「考え方」、造形感覚や感性の表れとしての表現が平等に認められ、自由にコミュニケーションがとれる環境は、それらが相互に影響しあい、さらに多様な表現を育んでいく場にもなるのである。

つまり、「自分らしさ」を培うために、自己表出、自己表現、自己主張、自己実現を目指す造形

表現活動は、自由にコミュニケーションがとれる環境が整ってはじめて機能し、意味を持つことになるのである。

#### ウ 相互理解としてのコミュニケーション

さて、自らの「自分らしさ」を見つけ、求め、自己を表現していく活動は、自分と違った他の表現を意識することにもなる。自分をより強く意識し、「自分らしさ」を強く主張、表現すればするほど他との違いに気づくことにもつながっていくのである。

そのことは、表現が平等に認められ、自由にコミュニケーションがとれる環境が整っていれば、自分とは違った他の造形的なものの「見方」や「考え方」、或いは表現のよさをも認めていくことになる。自分に「自分らしさ」があるように、他にも「その子らしさ」があることに気づきはじめるからである。

さらに、相互の違いやよさを認め合うことは、自らの「自分らしさ」をより広く深く求め、表現していくことにもなるだろう。そこは造形表現活動を通じた様々な造形的なものの「見方」や「考え方」、或いは価値観のせめぎあいと協調の上に成り立つコミュニケーションの場になる。

つまり、造形表現活動を通して「自分らしさ」を培う教育は、相互理解としての教育であり、その中に大切なコミュニケーションの意味が認められるのである。

それは子ども同士、子どもと教師、さらに教師同士にあっても、共に学び合い、求め合う人間教育としての図画工作科、美術科教育の本質的な意味を含んでいると言えるのである。

## 2、義務教育としての「造形を通じた教育」の教育課題、活動課題と授業課題

### ① 図画工作科、美術科における相対的な価値の教育観に立って育て、培いたい子ども像

21世紀に新たな社会を築き、成熟した社会の一員として豊かに生きる子どもたちは、どの様にあって欲しいのか。義務教育としての新しい課題である。

義務教育としての図画工作科、美術科（造形教育）の教育は、豊かに生きることの意味を捉え直し、知識や技能を教える教育から脱皮し、子どもたちに精神的な自立を促す人間教育へと転換していくべきであると述べてきた。

はたして、それはどのような教育になるのであろうか。図画工作科、美術科は、子どもたちにどのようなことを期待して、教育を行おうとするのか。

その育て、培いたい子ども像を次のような幾つかの視点から掲げてみた。

第一の視点は、造形の自己表現の意味や心のあり方であり、造形表現とコミュニケーションの関係から自分理解、相互理解などに及ぶ、この教育の本質的な内容を含んでいることがらである。

○造形的に表現することの快さや楽しさを知り、心を開いて自己表現することができる。

○造形的に表現することに興味や関心を持ち、意欲的、積極的に活動することができる。

○造形表現における、自分や友達の造形的な好みや特性、その違いやよさに気づき、お互いに理解しようとする。

第二の視点は、第一の視点を展開させる、活動に対する主体としての「自分らしさ(Identity)」と、ものごとを関係的、総合的に捉える追究力や表現力、総合力等に関する内容である。

○自分らしさを、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりできる。

○場や状況、造形的な課題を関係的、総合的にとらえて、思考、判断したりするなど、造形表現活動をするうえでの総合的な力を持っている。

第三の視点は、造形的な思考力や判断力を支える造形感覚や感性をそなえていることである。ここでは単なる知識や技能に止まらず、造形的なものの本質的な見方や考え方で踏み込んで、それらを一般的なものごとに活用する力をそなえていることまで含めた内容である。

○造形的なものの見方や考え方を知り、豊かな造形感覚や感性を持っている。

○造形的な知識や技能を持ち、造形文化や歴史に興味や関心を持っている。

これらの育て、培いたい子ども像は、人間教育としての図画工作科、美術科の教育課題や具体的な活動課題、授業課題の原点であり、核とするものである。

## ② 義務教育における相対的な価値の教育観に立った「3つの課題要素」と「活動課題」

義務教育としての図画工作科、美術科は、先に掲げた子ども像を実現するために、子どもたちに何を教え、育て、培い、どのような力（能力）をつけていけばいいのだろうか。

それらを具体的な授業の内容や方法を通して達成するために、図画工作科、美術科としての基礎的、基本的な課題を、子ども像の視点と内容を基に、3つの課題要素をA、B、Cのカテゴリーに分類し、さらに(1)～(6)の6つの「活動課題」として整理し、掲げた。

### A「他との関係の中に『自分らしさ(Identity)』を求め、人間的な自立を促す」こと

このカテゴリーは、造形表現とコミュニケーション、造形の自己表現と心のあり方、或いは自分理解、相互理解などを課題としている。

(1) 造形表現活動の快さや楽しさを経験し、心を開く。

(2) 造形表現活動を通して相互理解、人間理解を図る。

### B「自主的、主体的、創造的に表現する」こと

このカテゴリーは、活動に対する主体としての「自分らしさ(Identity)」と、ものごとを主体的に捉え、関係的、総合的な思考力や判断力、追究力や表現力、総合力等を養うことに関する課題である。

(3) 「自分らしさ」を、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりする力を培う。

(4) 総合的な造形表現活動を経験し、造形的な総合力を養う。

### C「造形的なものの見方や考え方、造形感覚や感性を培う」こと

このカテゴリーは、造形的な思考力や判断力等を支える造形感覚を養い感性を培おうとするもので、造形の知識や技能を教える教育では、この部分だけが特化されていたところである。しかし、ここでは単なる知識や技能に止まらず、造形的なものの本質的な見方や考え方で踏み込んで、それらを一般的なものごとに活用する力を養うことを課題としている。

(5) 造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。

(6) 造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。

これら(1)～(6)、6つの「活動課題」は、相対的な価値の教育観に立ち、子どもたちに精神的な自立を促す「造形を通じた教育」の基礎的、基本的な課題として骨格(Concept)となるものであり、知識や技能教育の基礎的、基本的な課題とは別に、人として生きることの意味や価値を多角的な視点から捉えて掲げたものである。

それぞれの「活動課題」は、相互に関係的にある課題であり、最終的には明確に線引きできるようなものではない。

また、(1)～(6)の番号をつけてはあるが、その順を追って順序的、段階的に積み重なって養われ、

培われたりするものでもなく、いずれかの「活動課題」に優位性があるということでもない。

(1)~(6)、6つの「活動課題」は、それぞれに授業を組織するときのより具体的な「授業課題」を掲げることになる。「授業課題」は「授業テーマ」を掲げるための指針であり柱ともなるものである。

### ③ 課題要素、A、B、Cのカテゴリーと「活動課題」を基にした「教育課題」

図画工作科、美術科の課題を、3つの課題要素から捉え、A、B、Cのカテゴリーを設定した。さらに、このカテゴリーからより具体的な6つの「活動課題」を抽出した。

これらを図画工作科、美術科（造形教育）としてのそれぞれの課題を「教育課題」として大きく括ってまとめると、次のようになる。

「造形表現活動を通し、子どもたちに自主的、主体的、創造的に表現すること、生きることの意味や価値を問い、造形的なものの見方や考え方、造形感覚や感性を培いながら、他との関係の中に『自分らしさ(Identity)』を求め、人間的な自立を促す。」

これは、相対的な価値の教育観に立った「造形を通した教育」の全体を総括する課題であると考えている。

### ④ 相対的な価値の教育観に立った「造形を通した教育」の教育課題の構造的な捉え方

「自分らしさ」を培い、人間的な自立を促す「造形を通した教育」の基礎的、基本的な課題としての「6つの活動課題」を教育全体の中で構造的に図として捉えると次のような逆円錐状の形になると仮説をたてた。(次頁/図1)

「造形を通した教育」の基礎的、基本的な課題（活動課題）は、それぞれの「活動課題」が同等の意味や価値を持つものとして逆円錐の中に扇状に縦に並列されたようなものと考えているのである。

つまり、それぞれの課題を総体として克服し、達成していくことにより人としての自立度、成熟度は無限の広がりを見せることになる。

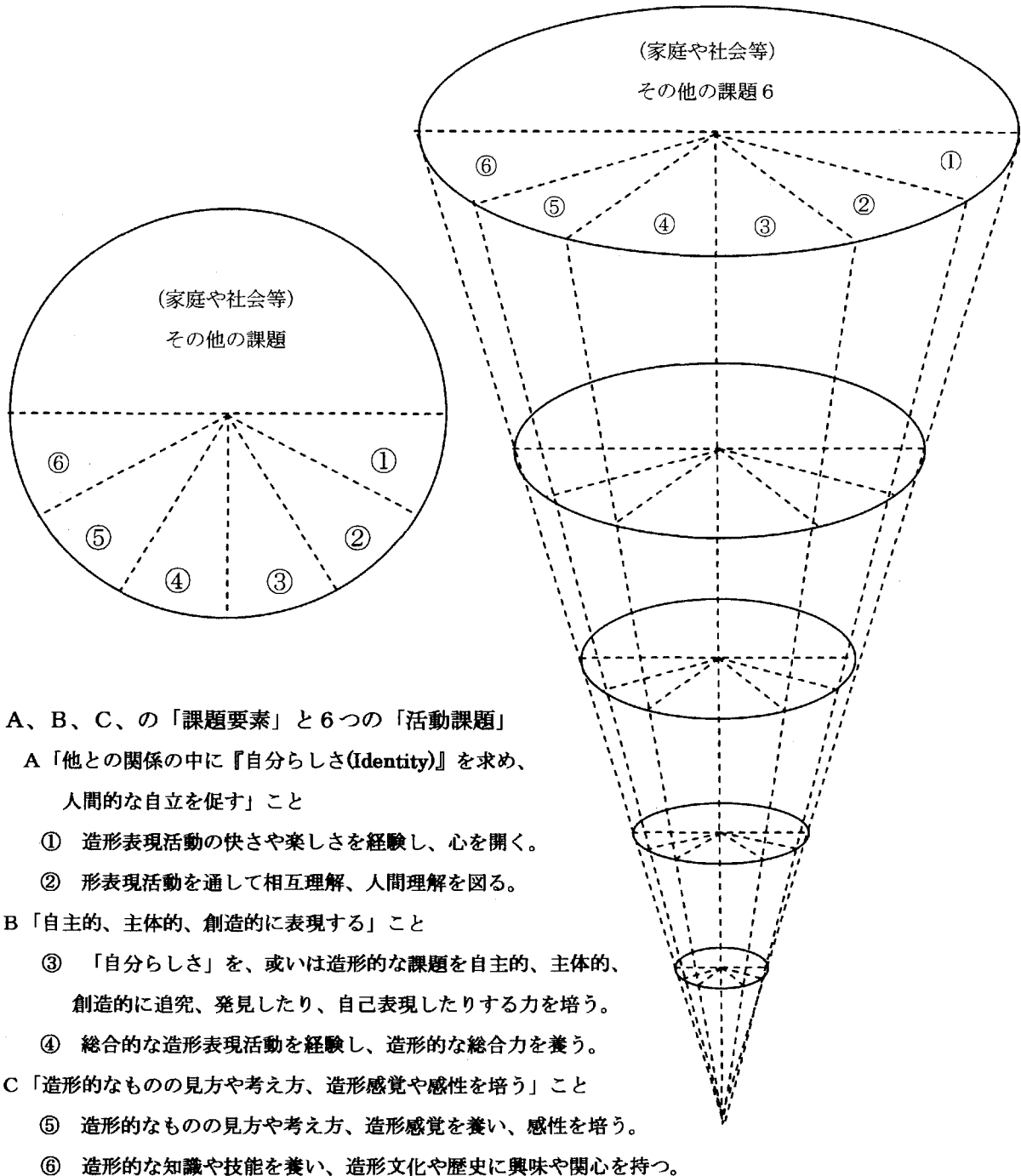
「知識や技能を教える造形の教育」の基礎的、基本的な課題は、その内容が段階的、或いは順序的に積み重ねられるように示されるのに対して、逆円錐の中に扇状に縦に並列され、相互に関連し、影響し合いながら総体として広げられ、高められていくものとして示している。それぞれの課題に対して順次性や優位性はないのである。

また、知識や技能としての課題は、「自分らしさ」を培い、人間的な自立を促す「造形を通した教育」の「活動課題」/(6) 造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。」として含まれることをも示している。

相対的な価値の教育観に立った「造形を通した教育」の課題構造は、知識、技能教育のそれよりはるかに多角的で、広範囲に設定した人間教育としての教育課題だからである。

相対的な価値の教育観に立った「造形を通した教育」の教育全体としての課題と

①～⑥の授業課題の関係を示した構造図



※ 図は相対的な価値の教育観に立った「造形を通した教育」に於ける基礎、基本についての考え方を示したもので、  
図中で全体に占める6つの「活動課題」の割合や物理的な広さは課題そのものの大きさを意味するものではない。

(図 1)



### 3、 「活動課題」をより具体化した中心的「授業課題」

6つの「活動課題」には、それぞれの課題をより具体化した幾つかの中心的「授業課題」を掲げている。授業を組織するときには、指導者の意図や子どもや実態に合わせ、より具体的な中心的「授業課題」を取り出し、「授業内容」や「授業方法」などと組み合わせていくことになる。

それぞれの「活動課題」の意味とそれらが持っている中心的「授業課題」は次の通りである。

#### (1) 造形表現活動の快さや楽しさを経験し、心を開く

子どもたちが「自分らしさ」を求めていくのに最も大切と思える基本的なことがらは、心を開いて自己表出、自己表現をする快さや楽しさを十分に経験していることである。

造形表現活動は、子どもたちにそうした自己開放、自己発見、自己実現などの場や環境を提供することであり、自他の関係を意識し、生きる意味や価値を見いだしていく大切な活動の場としなければならない。そこで、この「活動課題」をもう少し具体的な中心的「授業課題」として整理すると次のようになる。

- ・ 基本的材料による造形表現活動の快さや楽しさを体験する。
- ・ 造形的に表現することで他や造形表現に対する考え方に心を開く。／心を開いて表現できる。(自己表出、自己開放、自己肯定)
- ・ 自らの造形的な趣向や興味、関心に気づく。(自己確認、自己肯定)
- ・ 自信を持って他に自分を伝える喜びを経験する。(自己実現、相互理解)
- ・ 造形表現とは、自らを表現する自己表現活動であることを知る。(自己表現、自己確信)

#### (2) 造形表現活動を通して相互理解、人間理解を図る。

造形表現活動は、子どもたちの造形を通した相互の交わり、つまりコミュニケーションやディスカッションなどから自他の「自分らしさ」の違いや表現の違いなどに気づき、相互の関係を深めていくものである。「自分らしさ」とは、他があってはじめて培われるものであり、他や社会との関係の中で意味や価値あるものとなる。

人は他や社会との関係の中で社会的、文化的な価値観を築いて生きる社会的な動物なのである。

つまり、造形表現活動を通した相互理解、人間理解は「自分らしさ」を培い、人間的な自立を促す造形教育の重要な課題となるところである。

具体的な中心的「授業課題」は次のように考えられる。

- ・ 自他の造形的なものの「見方」や「考え方」、「感じ方」、或いは表現の違いや特徴などに気づき、それらがそれぞれの「自分らしさ」につながることを知る。
- ・ 自他の造形的な考え方や表現の違いなどに気づき、相互に認め、尊重し、協力し合って共に高め合う。
- ・ 人間的な自立を目指して共に高め合い、生きることの意味や価値を見いだす。

#### (3) 「自分らしさ」を、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりする力を培う。

「自分らしさ」とは子どもたちの中にはじめから備わっているわけではない。

まして造形的に表現される「自分らしさ」とはどのようなものか、誰も知る由がないのである。

造形表現活動とは、造形的に表現される「自分らしさ」を追究、発見していく活動であると同時に、「自分らしさ」を造形的に表現しようとする活動の繰り返しであり、試行錯誤である。

つまり、子どもたちが自分に適した、或いは好きな、その子らしい表現様式や方法、材料や技法などを自らが造形表現活動を通して試行錯誤する中で追究、発見、表現したりする活動の過程自体

が大切な経験となるのである。そこで、この「活動課題」をもう少し具体的な中心的「授業課題」として整理してみると次のようになる。

- ・自主的、主体的な造形表現活動の喜びを知り、意欲的、積極的に活動する。
- ・「自分らしさ」を、或いは自らの造形的な課題を追究したり発見したりしようとする。
- ・造形的なテーマや課題に合わせ、表現対象／主題、表現材料／素材／造形要素、表現形式、表現様式、表現技法／用具などを選択したり追究したりする。
- ・表現対象／主題、表現材料／素材／造形要素、表現形式、表現様式、表現技法／用具などをテーマや課題にすることから「自分らしさ」を追究、発見、表現する。
- ※ 表現対象＝自然、動物、植物、人間、風景、静物、生活／情景、空想／物語、使うもの／遊ぶもの／飾るもの、その他。
- ※ 表現主題＝自分自身／造形感覚・感性、思考・心情、価値観／哲学、造形技術、その他
- ※ 表現材料＝自然材料、自然加工材料、自然加工既製品、人口材料、人口加工既製品、他。
- ※ 造形要素＝色彩、形態、材質、三原色、色相、明度、彩度、点、線、面、立体、構造、視覚的触覚、触覚的視覚、その他
- ※ 表現形式＝平面的、立体的、絵画的、彫塑的、デザインの、工作／工芸的、版的、動画／イラスト的、光／映像的、構造・建築的など。
- ※ 表現様式＝ビザンチン、ロマネスク、ゴシック、バロック、ロココ、飛鳥、天平、貞観・弘仁、ロマン、写実、印象、フォービズム、立体、アールヌーボー、シュールレアリスム、具象、抽象、写実、装飾、構成など。

#### (4) 総合的な造形表現活動を経験し、造形的な総合力を養う。

たくさんの知識や優れた技能、或いは経験を持っていても、それらを「どのように応用、発展させて活用するか」が判断出来なければ日常的な活動に生かすことは出来ない。

自らの活動に必要な課題やテーマなどに合わせたり、「自分らしさ」を表現し、主張したりしていくのに、持てる知識や技能、経験などを有機的、総合的に関係づけて生かすための、造形的なものの「見方」や「考え方」或いは「関わり方」などが重要な役割を果たすことになる。

断片的な知識や技能、或いは造形的なものの「見方」や「考え方」を獲得することだけが課題の活動では、これらの総合的な能力が不足してくることは当然である。

そこで、知識や技能、経験、或いは造形的なものの「見方」や「考え方」、「関わり方」などを必要な活動に合わせて選択、応用しながら有機的、総合的に関係づけて使えることが大切な課題となる。

つまり、総合的な造形表現活動を推進する総合的な能力、総合力が必要となるのである。

具体的な中心的「授業課題」は次のように考えられる。

- ・自らが持っている造形的な知識や技能、或いはものの「見方」や「考え方」「関わり方」などの経験を場や状況、造形的な課題などに合わせて有機的、関係的に捉える総合造形的な思考、判断、分析力を養う。
- ・造形的な課題を発見、選択、決定、追究、解決、応用、発表するなど、総合的な造形表現活動を経験し、造形的な総合力を養う。

#### (5) 造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。

「造形」は、「色彩」や「形態」、「材質」の3つの造形要素から成り立っている。造形表現は、これらの造形要素を素材とした表現活動であると言えるのである。

3つの造形要素としての「色彩」や「形態」、「材質」には、造形としての独特なものの「見方」や「考え方」がある。それら「色彩」や「形態」、「材質」の特徴や違い、面白さなどに気づきながら造形的なものの「見方」や「考え方」を養い、色彩感や形態感、材質感といった造形感覚を培うことが課題となる。この「活動課題」をもう少し具体的な中心的「授業課題」として幾つか整理すると次のようになる。

- ・表現形式や表現様式、表現材料／素材や表現技法などには決められた使い方があるわけではなく、自らを表現するために、それらをどの様にでも自由に活用することが出来るとする見方や考え方を持つ。
- ・造形的な要素としての色彩や形態、材質を捉え、造形的な表現の面白さや不思議さ、美しさなどの意味や理由を思考し、生かした表現を追究することで、それぞれの特性や法則性、相互の関係性に気づきながら造形感覚を養う。
- ・表現素材としての色彩や形態、材質の特性や法則性、相互の関係性などを捉え、表現の様式や方法、材料や技法などに関連させ、それらを生かした表現を追究することから造形的なものの「見方」や「考え方」を思考し、造形感覚を養う。

#### (6) 造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。

文化的、社会的な価値として、子どもたちに知らせ、経験させておきたい造形的な知識や技能、造形文化や歴史を学ぶことである。

- ・自主的、主体的、創造的に表現するための造形的な知識や技能を身につける。
- ・社会的、文化的に必要な造形文化や美術史を知り、それらを通して造形的なものの「見方」や「考え方」、「生き方」などに気づく。
- ・造形文化や美術史を知ることから自らの造形的な価値観を培う。

この活動課題は、(1)～(5)の課題や内容を含み、それを越えて必要な知識や技能、造形文化や歴史に興味や関心を持たせることである。

しかし、何を基準に造形的な知識や技能、造形文化や歴史を文化的、社会的な価値として認めるか議論となるところである。

### (iii) 教育課題と授業課題等を実現するための適切なカリキュラム構造の構築

#### 1、「表現形式」を骨格にした、知識や技能を教える教育のカリキュラムの編成方法

図画工作科、美術科のカリキュラムは、「絵画」「彫塑」「デザイン」「工作」といった造形の「表現形式」を基にした内容で領域を括り、それらを骨格構造する方法で編成されてきた。

例えば、「絵画」の内容領域を置いたら次には「彫塑」を、さらに「デザイン」や「工作」の内容領域というように、「表現形式」を交互に変えながら順に羅列していく編成方法である。年間に行う「表現形式」を基にした内容領域の割合は予め決めておくのである。

絶対的な価値の教育観に基づいた知識や技能を教えることを「課題や目標」としてきた教育のカリキュラムの編成方法は極めて単純な骨格構造を持って行われていると言えよう。

それはまた「表現形式」を基にした授業内容は、常に「課題や目標」と背中合わせの関係にあり、分かりやすいのである。

カリキュラムにおいて、「絵画」「彫塑」「デザイン」「工作」といった「表現形式」を基にした題材を配列することは、それらの「表現形式」に対応する知識や技能を配列の順に教えることを意味しているのである。

しかし、一方で、義務教育としてすべての子どもたちに、何のために「絵画」「彫塑」「デザイン」「工作」といった「表現形式」を教えるのか、という根拠が余りに脆弱であり、また時代の変化に対応していない、ともいえるのである。

これらは、絶対的な価値の教育観に基づき知識や技能を教える教育の特徴である。

それでは、相対的な価値の教育観に基づき、子どもたちの造形表現活動を通した人間教育を思考する図画工作科、美術科ではどのようなカリキュラムの編成の方法が考えられるだろうか。

それは、今まで行われてきた様な「絵画」「彫塑」「デザイン」「工作」といった「表現形式」を基にした内容領域を基準としてカリキュラムを編成するような方法では成果は得られないだろう。

なぜなら、造形表現活動を通した教育では、「表現形式」に対する知識や技能を教えることは、必ずしも授業の「課題や目標」とならず、人間教育としての新たな授業の「課題や目標」を達成するための手段となる。

つまり、「表現形式」と「課題や目標」は背中合わせの関係ではなく、およそ異なったものになるのである。このことを見間違えると、子どもたちに「自分らしさ」を培い、自立を促す図画工作科、美術科として行う授業がダッチロールを起こしたり、這い回ったりするようなことも起こりかねないだろう。

さらに「知識や技能」を教える教育として、それぞれの「表現様式」を基にした表現内容を羅列的に配列するようなカリキュラムの編成の方法は、もはや子どもたちに「自分らしさ」を培い、自立を促す教育のカリキュラムの編成には使えないだろう。それは、先にも述べたように「表現形式」と「課題や目標」との関係に誤解や矛盾が生まれやすいものになってしまうからである。

相対的な価値の教育観に基づく、造形表現活動を通した教育では、絵画的、彫塑的、工作的、デザイン的など、いずれの「表現形式」を取っても、子どもたちに「自分らしさ」を培い、自立を促す教育を考えることが出来るのである。

また、逆に特定の「表現形式」を取らなければならないという根拠も見当たらない。

そのように考えると、図画工作科、美術科の授業は、「表現形式」に止まらず、造形としての様々な表現内容を吟味し、精査することも大切になる。例えば、造形表現活動の表現内容としての「色彩、形態、材質」といった基本的な3要素まで内容を凝縮、簡素化させることも考えることができ

るだろう。また、そこに新たな視点が生まれる可能性もある。

それでは、子どもたちの人間的な自立を優先的に考え、「自分らしさ」を培うための図画工作科、美術科の新たなカリキュラムの骨格構造や領域はどのような視点でとらえたらよいだろうか。

## 2、人間的な自立を促す相対的な価値の教育観に基づく教育のカリキュラム編成の可能性

### ① 表現内容を骨格構造にするカリキュラム編成の方法

カリキュラムを編成するための骨格構造をつくるには、幾つかの方法が考えられる。

先にも述べてきたように、現在行われている「絵画」「彫塑」「デザイン」「工作」といった造形の「表現形式」を基にした内容で領域を括り、それらを骨格構造する方法がある。

いわゆる「表現内容」を骨格にする方法である。

「表現内容」とは、「表現対象／表現主題」「表現材料／素材／造形要素」「表現形式」「表現様式」「表現技法」「表現用具」等、様々な要素があげられる。これはすべて「領域」として括ったり、骨格構造としたりして使うことが可能であろう。

例えば、「表現内容」としての基本的な「表現材料」を基準領域として括り、骨格構造をつくることもできる。自然材料、自然加工原材料、人口材料、加工既製品などといった材料の分類で領域を括り、構造化する方法である。

また、「表現内容」としての「造形要素」である「色彩、形態、材質」を基準領域として括り、骨格構造をつくる方法もあろう。

いずれの「表現内容」を骨格構造にしてもカリキュラムの編成は可能であることが分かる。

しかし、人間的な自立を促す相対的な価値の教育観に基づく教育のカリキュラム編成の方法として、「表現内容」を骨格構造にする方法はとらなかった。

### ② 教育課題をカリキュラム編成の骨格にする「課題要素」領域と「活動課題」領域の設定

前項で、子どもたちの「自分らしさ」を培い、人間的な自立を促す図画工作科の「教育課題」を掲げ、3つの課題要素をA、B、Cのカテゴリーとして括り、さらに(1)～(6)の6つの「活動課題」として整理した。

これら、A、B、C、3つの「課題要素」と「活動課題」は子どもたちに「自分らしさ」を培い、自立を促すための課題として掲げたものであるが、「活動課題」自体を、相対的な価値の教育観に基づき、造形表現活動を通じた教育のカリキュラムを編成するための新たな骨格構造や領域とするのが相応しいと考えた。

ここでは子どもたちに育て、培うための「教育課題」、「3つの課題要素」と基本的な6つの「活動課題」をカリキュラム編成のための骨格構造とする方法を取ったのである。

3つの「課題要素」と基本的な「活動課題」そのものを基準とし、「課題要素」領域と「活動課題」領域として構造化する。

「表現形式」を基準に構造化し、「内容領域」としてカリキュラムを編成する方法に対し、子どもたちに育て、培いたい教育の課題を基準に「課題領域」として括って構造化し、カリキュラムを編成する新たな方法を試みるものである。

この骨格構造であると、それぞれの「領域」に対応する教育の課題が明確に示されることになり、「活動課題」を正確に受けとめた授業を組織しやすくなることは当然である。

つまり、子どもたちが追究する造形表現活動そのものの中に、授業の課題が埋もれていて見つけにくいようなものも、領域そのものが課題を示しているのので、授業の構成や分析がたやすくな

と思われるのである。作品づくりや活動の結果としての作品の技能的な良否だけに目を奪われたような評価も避けられるのである。

また一方で、手段としての表現内容である平面や立体、或いは抽象や具象というような表現形式や表現様式などに必要以上に左右されることも少なくなるであろう。

さて、A、B、C、3つの「課題要素」と「活動課題」を基準として構造化すると、3つの「課題要素」領域と6つの「活動課題」領域ができる。それらを整理し、新たに領域の名称をつけて順に示すと次のようになる。

ア) ABC、各「課題要素」に【課題要素】領域としての名称をつけて位置づける

A 他との関係の中に『自分らしさ(Identity)』を求め、人間的な自立を促す。

【心の開放と自分理解、相互理解】領域

B 自主的、主体的、創造的に表現すること。

【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域

C 造形的なものの見方や考え方、造形感覚や感性を培う。

【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域

イ) ABC、の各「課題要素」領域における6つの「活動課題」に「活動課題」領域としての名称をつけて位置づける

A 【心の開放と自分理解、相互理解】領域

(1) 造形表現活動の快さや楽しさを経験し、心を開く。

「造形表現活動の快さと心の開放」領域

(2) 造形表現活動を通して相互理解、人間理解を図る。

「造形表現活動を通じた相互理解」領域

B 【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域

(3) 「自分らしさ」を、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりする力を培う。

「自分らしさの追究、発見、表現」領域

(4) 総合的な造形表現活動を経験し、造形的な総合力を養う。

「造形表現活動の総合力」領域

C 【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域

(5) 造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。

「造形的な見方・考え方と造形感覚」領域

(6) 造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。

「知識・技能と造形文化」領域

※この活動課題領域は、(1)～(5)の課題や内容を含み、それを越えて必要な知識や技能、造形文化や歴史に興味や関心を持たせることである。しかし、何を基準に造形的な知識や技能、造形文化や歴史を文化的、社会的な価値として認めるか議論となるところである。

③ 「活動課題」領域における中心的「授業課題」の設定

それぞれの「活動課題」領域では、さらに幾つかの中心的な「授業課題」を掲げてある。

「活動課題」領域における、ひとつの授業を組織するときには、幾つかの中心的な「授業課題」を組み合わせた活動としてつくることになる。「活動課題」領域における、それぞれの中心的な「授

業課題」は、前項で「活動課題」を示したときと同じものである。

《 ABC、各【課題要素】領域における6つの「活動課題」領域と中心的「授業課題」 》

**A 【心の開放と自分理解、相互理解】領域**

**(1) 「造形表現活動の快さと心の開放」領域**

- ・基本的材料による造形表現活動の快さや楽しさを体験する。
- ・造形的に表現することで他や造形表現に対する考え方に心を開く。／心を開いて表現できる。(自己表出、自己開放、自己肯定)
- ・自らの造形的な趣向や興味、関心に気づく。(自己確認、自己肯定)
- ・自信を持って他に自分を伝える喜びを経験する。(自己実現、相互理解)
- ・造形表現とは、自らを表現する自己表現活動であることを知る。(自己確信)

**(2) 「造形表現活動を通じた相互理解」領域**

- ・自他の造形的なものの「見方」や「考え方」、「感じ方」、或いは表現の違いや特徴などに気づき、それらがそれぞれの「自分らしさ」につながることを知る。
- ・自他の造形的な考え方や表現の違いなどに気づき、相互に認め、尊重し、協力し合って共に高め合う。
- ・人間的な自立を目指して共に高め合い、生きるものの意味や価値を見いだす。

**B 【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域**

**(3) 「自分らしさの追究、発見、表現」領域**

- ・自主的、主体的な造形表現活動の喜びを知り、意欲的、積極的に活動する。
- ・「自分らしさ」を、或いは自らの造形的な課題を追究したり発見したりしようとする。
- ・造形的な課題やテーマに合わせ、表現対象／主題、表現材料／素材／造形要素、表現形式や様式、表現技法などを選択したり追究したりする。
- ・表現対象／主題、表現材料／素材／造形要素、表現形式、表現様式、表現技法／用具などとの出会いから「自分らしさ」を追究、発見、表現する。

**(4) 「造形表現活動の総合力」領域**

- ・自らが持っている造形的な知識や技能、或いはものの「見方」や「考え方」「関わり方」などの経験を場や状況、造形的な課題などに合わせて有機的、関係的に捉える総合造形的な思考、分析、判断力を養う。
- ・造形的な課題を発見、選択、決定、追究、解決、応用、発表するなど、総合的に捉えた造形表現活動を経験し、総合造形力を養う。

**C 【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域**

**(5) 「造形的な見方・考え方と造形感覚」領域**

- ・表現形式や表現様式、表現材料／素材や表現技法などには決められた使い方があるわけではなく、自らを表現するために、それらをどの様にでも自由に活用することが出来るとする見方や考え方を持つ。
- ・造形的な要素として色彩や形態、材質を捉え、それらの特性や法則性、相互の関係性など、造形的なものの「見方」や「考え方」を思考し、造形感覚を養う。
- ・表現素材としての色彩や形態、材質の特性や法則性、相互の関係性などを捉え、表現の様式や方法、材料や技法などと関連させ、それらを生かした表現を追究することから造形的なものの「見方」や「考え方」を思考し、造形感覚を養う。

## (6) 「知識・技能と造形文化」領域

- ・各自が自主的、主体的、創造的に表現するための造形的な知識や技能を身につける。
- ・社会的、文化的に必要な造形文化や美術史を知り、それらを通して造形的なものの「見方」や「考え方」、「生き方」などに気づく。
- ・造形文化や美術史を知ることから自らの造形的な価値観を培う。

### ④ 「活動課題」領域における中心的「授業課題」の意味とその可能性

相対的な価値の教育観に基づく「造形を通じた教育」のカリキュラムの編成に向け、新たな「活動課題」領域を試作してきた。

それでは、それぞれの「活動課題」領域について具体的にどの様に授業を組織したらよいか、その中心的な「授業課題」とその意味や内容を考えながら教材化の視点を探っていくことにする。

#### A 【心の開放と自分理解、相互理解】領域

##### (1) 「造形表現活動の快さと心の開放」領域

この内容は、図画工作科、美術科の最も大切な基本的活動として位置づけたい。

すなわち、造形表現を通し、自己表出、自己表現、或いは自己確認、自己発見など、人間として自己実現を図ろうとする本能的な欲求を十分に満足させることを中心的な「授業課題」としている。それらを達成するために適切な活動の内容を選択し、授業を組織していかなければならない。それは先ず、子どもたちに造形的に表現することの快さや楽しさを経験させることであるが、この意味には、ふたつの課題があると思える。

ひとつは、純粹に色彩や形態、材質とかかわり、造形的に表現することの快さや楽しさを味わい、経験させるということである。いまひとつは、様々な社会的、精神的抑圧に対し、造形的に表現することを通して抑圧から開放されていくことの快さである。

つまり、子どもたちが造形表現活動を通して自らの心を開いていくことに他ならない。

それはまた、造形的に表現することに対して、開かれた心を持つようになることも含まれる。それではこの領域の、中心的な「授業課題」と内容を具体的に考えていくことにしよう。

#### ○ 基本的材料による造形表現活動の快さや楽しさを体験する。

この「授業課題」は材料に触れたり、積んだり、組み合わせなどの操作をしながら快さや楽しさを味わい、材料の持っている様々な特徴を経験し、材料体験を豊かにする活動である。

材料を使って遊んだり、好きなものをつくったりする活動など、材料の色彩や形態、材質に対する快さを体験させることである。

基本的な材料としては次のようなものがあげられる。

- ・自然材料（土、粘土、砂、石、風、火、水、木や草などの植物、他）
- ・自然加工材料（紙、布、紙紐、麻紐、毛糸、木片、絵の具、他）

#### ○ 造形的に表現することで他や造形表現に対する考え方に心を開く。／心を開いて表現できる。（自己表出、自己開放、自己肯定）

子どもたちは家庭や幼稚園など、社会的な環境の中で様々な見方や考え方を獲得しながら成長していく。そうした見方や考え方の中には、概念的な狭い価値観の中に子どもたちを押し込めていくようなものもある。そうした狭い価値観は子どもたちの自由な発想や創造的な活動を奪い、成長を抑圧するようなものも含まれていることがある。造形表現活動に関して、非常に狭い造形的な見方や考え方、価値観が子どもたちを阻害していることがある。



例えば、「絵は表現対象を客観的に捉えて他の人に分かるように図的に表現しなければならない。」とする考え方や価値観を持っているとする。しかし、これは造形表現に対して非常に狭い考え方で、表現する子どもにとって大変なストレスになるはずである。

造形表現にはもっと広い意味や可能性があるはずで、そうした狭い考え方を様々な表現方法など、多角的な視点から経験することを通して開いていくことが大切になる。そのためには、先ず子どもたちの持っている狭い考え方を揺さぶり、壊すような自己開放的、表出的な表現活動が向いているといえよう。

例えば、泥遊びをしたり、絵の具を塗りたいくったりするような自己表出的な活動は、子どもたちが受けているさまざまなストレスの開放になるといわれている。

造形活動には、もともとそうした自己表出的な要素が多く含まれている。特に素朴な基本的材料を使って遊ぶなどの活動は、子どもたちの心を開いていく活動に向いていると言えよう。

また一方で、様々な視点から捉えた造形的な見方や考え方、価値観を多角的に伝えるようなことも大切になる。いつも同じような考え方の表現を一方向的に押しつけるようなことでは、子どもたちの心を開くどころか、さらに頑なものにしてしまうだろう。

それには先ず、教師の心が開かれていなければならないだろう。閉ざされ、萎縮した心は柔軟性に欠け、他から孤立するが、開かれた心は様々な情報や価値観を柔軟に受け止め、吸収し、子どもたちに創造性や主体性を培う基盤となるのである。

心を開くことは「自分らしさ」を見つけていくことの原点であろう。

#### ○ 自らの造形的な趣向や興味、関心に気づく。(自己確認、自己肯定)

造形的に表現することについての自分自身の趣向や興味、関心などに気づかせる活動である。

造形表現には先ず材料、或いは色彩や形態、材質に対する好き、嫌いなどの趣向がある。

さらに表現方法や様式、対象、材料、技法などに対しても同様である。

これらは子どもたちの一人ひとりの造形的な表現への興味や関心と結びついていくものである。

子どもたちに自分の趣向や興味、関心に気づかせ、どのようなことが好きで得意なのか、或いは苦手なのかをはっきりと自覚し、主張できるような場にしたい。子どもたちに自分が好きな表現とは、さらに「自分らしい」表現とはどの様なものかを気づかせたいのである。

それは子どもたちにわがままに振る舞わせることではない。自己表現、自己主張することをとおして自らを知り、他を知る契機とさせたいのである。材料に対しては、前項の授業課題と同様の扱いであるが、表現方法や内容などについては、快さや楽しさを基本とした単純でやさしいものを扱う活動として展開する。

例えば、材料や表現方法、内容などについて教師が出した条件を自分の趣向で選択して活動を楽しんだり、逆に教師が提案した内容を試みて自己評価したりしていくような活動も考えられる。

#### ○ 自信を持って他に自分を伝える喜びを経験する。(自己実現、相互理解)

色彩や形態、材質、或いは表現方法や内容に対しての自分自身の趣向や興味、関心を積極的に主張したり、表現したりして、他に自分を伝えることの喜びを経験させたい。

造形表現に至る以前の、そうした造形的な趣向などを回りで認めていくことは、主張し、表現することの喜びや楽しさを知り、自己表現することの自信につながっていく。

前項の授業課題と同様な内容の活動を展開する。

#### ○ 造形表現とは、自らを表現する自己表現活動であることを知る。(自己表現、自己確信)

この「授業課題」は前「授業課題」の心を開くことと背中合わせになっているものである。

つまり、子どもたちが表現することに対して概念的な狭い考え方に捕らわれて束縛されていたり、劣等感を持っている様なことに対し、型にはまった考え方を壊したり、広げたりするような心を開く活動が必要である。そうしたさまざまな造形表現活動は、他との優劣を競うためのものではなく、「開かれた心を持つために」、「自らの造形的な趣向や興味、関心を知るため」「様々な造形的なものの方や考え方を知らるため」など、「自分らしさ」を見つれたり、培ったりするための自己表現であることを子どもたちに知らせること自体が大切になるのである。

以上、幾つかの中心的な「授業課題」をあげ、その意味や可能性を述べてきたが、具体的な授業を組織するときには、子どもたちの実態や必要な課題に応じて複数の「授業課題」や内容を組み合わせ、教材化していくことが大切になる。

## (2) 「造形表現活動を通した相互理解」領域

造形表現活動の本質は、造形的なものの方や考え方、感じ方、或いは価値観や生き方などを他に表現したり主張したりすることで自らの存在を意味付け、価値付けようとする行為である。

それはまた、他の造形表現活動を認めることで、自他の違いやよさを知り、自他の存在を意味付け、価値付けることになる。人は自他や文化、社会との関係の中で、表現したり主張し合ったりしながら相互理解を深めているのである。人は自他や社会との関係の中でしか人にはなれない。

造形表現活動の本質は相互理解であり、文化理解、人間理解であると言っても過言ではないだろう。

それは、マクロ的、ミクロ的な二つの捉え方がある。「相互理解」の概念をマクロ的に捉えると、造形表現活動を通して総ての「活動課題」領域において培われるものであると考えられる。

しかし、この「活動課題」領域は、「相互理解」の概念を部分としてミクロ的に捉えて考えていくものである。つまり、題材や単元としての「相互理解」という「活動課題」、「授業課題」を、ひとつの授業に絞り込んで達成するための授業構成を試みるものである。

- 自他の造形的なものの方、「見方」や「考え方」、「感じ方」、或いは表現の違いや特徴などに気づき、それらがそれぞれの「自分らしさ」を培うことにつながることを知る。

これは、造形表現活動が自分理解、他者理解などの相互理解、或いは人間理解としての表現活動であることの意味に気づくことの大切さを課題としているのである。

造形表現活動を単なる知識や技能を獲得するための行為とは一線を引き、「自分らしさ」や主体を培う活動であることに意味や価値があることに気づくための基本的な「授業課題」といえよう。

- 自他の造形的な考え方や表現の違いなどに気づき、相互に認め、尊重し、協力し合って共に高め合う。

- 人間的な自立を目指して共に高め合い、生きることの意味や価値を見いだす。

「自分らしさ」や「人間的な自立」、或いは「生きることの意味や価値」とは、相対的な価値観に基づいて捉えることを前提としている。

「自分らしさ」や「人間的な自立」とは、ひとりひとりがそれぞれの方向に求め続けるものであり、また到達するようなものでもない。そうした課題を実現していくためには、子どもたちが相互に影響し合い、それぞれの存在を意味付け、価値付け合うような活動の場を授業の中に構成することが必要であろう。そうした活動では、教師といえども子どもたちと同じ立場に立って、教師として意味や価値を子どもたちと共に問い続けることを求められるだろう。

## B 【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域

先にも述べてきたが、「自分らしさ」とは子どもたちにはじめから備わっているわけではない。

造形的なものの「見方」や「考え方」、或いは「造形感覚」や「感性」、「生き方」といったようなものは、子どもたちが社会の中で積極的に行う様々な造形的な活動や経験などを通して常に広げられ深められていくものである。つまり、「自分らしさ」とは、社会的な環境と個人的な資質とが重ね合わされて培われるものと考えられる。人は社会の中に、或いは他との関係の中であって、様々な活動や経験などを積み重ねることで自らの「自分らしさ」を培っているということである。

そうした、この課題を達成するためには、子どもたちの自主的、主体的な活動を積極的に促すような、児童中心型の課題追究型や総合型の授業構成と授業方法が求められる。子どもたちの自主的、主体的な活動こそが課題であるといっても過言ではないからである。この活動課題領域は、相対的な価値観に基づく造形を通じた教育の根幹を支えるところでもある。

### (3) 「自分らしさの追究、発見、表現」領域

社会的な環境として、或いはひとつの情報としての造形的な表現活動には、表現手段として様々な表現内容、つまり表現対象／主題、表現材料／素材、表現形式、表現様式、表現材料や表現技法などを使った活動がある。子どもたちは自分に適した、或いは好きな造形的な表現手段を求めたり、見つけたりするなどの試行錯誤を繰り返しながら自主的、主体的、積極的に「自分らしさ」を表現していく。それはまた、造形表現活動を通して造形的に表現される「自分らしさ」を求めたり、見つけたりすることでもあるといえる。

ここでは表現対象／主題、表現材料／素材、表現形式、表現様式、表現材料や表現技法など、表現内容としての様々な表現手段と出会い、試行錯誤を繰り返しながら自分らしさを追究、発見、表現していくことを中心的な「授業課題」とした活動課題領域である。

これは、【A 心の開放と自分理解、相互理解】領域を様々な発展させ、子どもたちの造形に対する主体的な関わりや個性、或いは造形的な情報処理能力を培おうとする内容でもある。

#### ○ 自主的、主体的な造形表現活動の喜びを知り、意欲的、積極的に活動する。

造形表現活動の喜びは、作品を完成させることだけではない。自らの発想や構想に基づいて活動すること。つまり自主的、主体的な表現活動があつて、はじめて自己の責任において表現を完成したというような達成感が得られる。自主的、主体的な造形表現活動の喜びを知ることは、表現活動に対する興味や関心、意欲や積極性に結びついていく。これらは、相互に相乗的な効果をもたらす、造形表現活動を通して循環されていく。ここでは、自主的、主体的な造形表現活動を促し、子どもたちの自主性や主体性、意欲や積極性を培うことを課題としている。

#### ○ 「自分らしさ」を、或いは自らの造形的な課題を追究したり発見したりしようとする。

造形表現活動を通し、自分は「何を」、「何で」、「どの様」に表現しようとしているのか、或いはしたいのか。そうしたことを造形的な課題と考え、「何を」は自らの表現対象や表現主題について、「何で」は表現材料／素材／造形要素について、「どの様に」は表現形式や表現様式、表現技法や用具等について、の課題ということになる。

自主的、主体的に自らの造形的な課題を問おうとしなければ、決して「自分らしさ」は培えない。ここではそれらを求めたり見つけたり、決めようとする姿勢や関わり方そのものを授業課題としているのである。様々な造形的な表現手段である表現内容と出会い、関わりながら、造形的な課題を追究したり発見したりしようすることを授業課題としているのである。

#### ○ 造形的なテーマや課題に合わせ、表現対象／主題、表現材料／素材／造形要素、表現形式、表現様式、表現技法／用具などを選択したり追究したりする。

授業として与えられた造形的なテーマや課題、或いは自らが掲げた表現主題が決まると、それ

らを実現するための造形的な手段としての表現内容、つまり表現材料／素材／造形要素、表現形式、表現様式、表現技法／用具などを選ばなければならない。自らの趣向や興味、関心なども合わせ、課題を実現するために有効と思われる手段を沢山の情報の中から選択し、追究していくことが必要になる。つまり造形的な情報処理能力が求められる、或いはそれらを発揮して表現活動を行うことになる。ここでは試行錯誤を繰り返しながら造形的な課題を達成するために有効な表現内容である様々な手段を選択したり追究したりすること自体を授業課題としているのである。

結果、授業は課題追究型の授業方法で構成することになる。

○ 表現対象／主題、表現材料／素材／造形要素、表現形式、表現様式、表現技法／用具などをテーマや課題にすることから「自分らしさ」を追究、発見、表現する。

ここで課題を達成するために、様々な授業構成の方法が考えられる。表現手段である様々な表現内容をテーマや課題にして、課題追究型の授業を構成することになる。

また、子どもたちの実態に合わせ、それぞれの中心的課題を相互に関連させながら、表現対象／主題、表現材料／素材／造形要素、表現形式、表現様式、表現技法／用具などを必要に応じて組み合わせたり、選択したりしながら課題追究型の授業を構成していくことになる。

以下は、課題追究型の授業構成の例を挙げていく。

ア) 表現材料／素材／造形要素をテーマや課題にすることから活動を広げる。

様々な表現材料／素材／造形要素を通して「自分らしさ」を追究、発見、表現していくことを課題とした活動である。

例えば、表現材料をテーマや課題にすることを考えると、次のような材料があげられる。

- ・ 自然材料（土、粘土、砂、石、風、火、水、木や草などの植物、他）
- ・ 自然加工原材料（紙、布、紙紐、麻紐、毛糸、木片、絵の具、他）
- ・ 人口材料（発砲スチロール、ビニル、プラスチック、化学塗料、他）
- ・ 加工既製品／身近材（紙箱等紙類、ヘラ等木類、皿等スチロール類、カップ等プラスチック類、その他）

ここでの主役は様々な表現材料であるが、活動課題領域(1)「造形表現活動の快さと心の開放」の中心的な「授業課題：基本的材料による造形表現活動の快さや楽しさを体験する」を様々な発展させるような活動を授業として構成することになる。

つまり自分が扱いやすい、或いは好きな材料を自分の表現に合わせて発見したり、材料の特徴やよさを発見したり、それらを生かした表現を追究していくなど、表現材料をテーマや課題に、活動を促していく。

授業は大きくふたつの構成方法が考えられる。ひとつは、教師が指定した表現材料の特徴やよさを提案することからはじめる活動である。あくまで表現材料を中心とした活動を促していくことになる。いまひとつは、造形的な表現内容から活動のきっかけをつかませ、表現材料を子どもたちに自由に選択させたり、発見させたりするような授業方法である。

これらは、対局的な方法であるが、子どもたちの実態に合わせて内容を組み合わせたり選択したりして行うことになる。

イ) 表現形式、表現様式、表現技法をテーマや課題にすることから活動を広げる。

○ 表現形式をテーマや課題にすることから活動を広げる。

表現形式とは、いわゆる表現の形である。例えば、平面的、立体的、絵画的、彫塑的、デザインの、工作・工芸的、版的、文学的、動画・イラスト的、写真・映像的、構造・建築的など、表

現形式は多様にある。これらの表現形式を活動の契機やテーマ、或いは課題として子どもたちに「自分らしさ」を追究、発見、表現を促していくような課題追究型の授業を構成することになる。

○ 表現様式をテーマや課題にすることから活動を広げる。

表現様式とは、具象的、抽象的、写實的、装飾的、絶対的、相対的などの内容を示している。

これらの表現様式を活動の契機やテーマ、或いは課題として子どもたちに「自分らしさ」を追究、発見、表現を促していく活動を構成する。ここでの造形手段は表現形式や表現様式である。

まず、「表現には様々な表現形式や表現様式がある。」ということ子どもたちに伝える必要がある。自分に適した、或いは好きな表現形式や表現様式を追究、発見していくことを提案するのは、こうした表現についての考え方を確認したうえでのことになる。

ここでも授業は大きくふたつの構成方法が考えられる。ひとつは、どのような表現形式や表現様式を子どもたちに出合わせるかを考え、教師が選択して提案する方法である。いまひとつは、他の造形的な表現内容から活動のきっかけをつかませ、表現形式や表現様式を選択させたり、追究、発見させたりするような授業の構成方法である。

○ 表現技法をテーマや課題にすることから活動を広げる。

様々な表現技法をテーマや課題に「自分らしさ」を追究、発見、表現していく活動である。

表現技法を切り口に活動を展開していくが、ここでの課題や扱いは、この活動課題領域の他の方法と基本的に共通である。自分が扱いやすい、或いは好きな技法を自分の表現に合わせて発見したり、技法の特徴やよさを発見し、それらを生かしたりしながら表現を追究していくことを提案していく。授業の構成方法は、前述した表現材料、表現形式や表現様式の場合と同様である。

#### (4) 「造形表現活動の総合力」領域

造形表現は自らが持っている情報や力を关系的、総合的に活用して、はじめて活動を推進することができる。そうした意味において「造形的な総合力」は、すべての造形表現活動を通して養うものであると言えよう。「造形的な総合力」を造形表現活動の総体を通して養おうとするマクロ的な捉え方である。しかし、ここでは「造形的な総合力」を、造形表現活動の総体を通して養うことを前提としながら、部分として幾つか掲げた「活動課題」のひとつとして、「造形的な総合力」を養うための課題領域を掲げたものである。つまり「造形的な総合力」を造形表現活動の部分として養おうとするミクロ的な捉え方である。それでは、総体の中のひとつの「活動課題」としての「造形的な総合力」とは、どのような力を意味するのか。

「授業課題」を大きく次のように捉えてみた。

○ 自らが持っている造形的な知識や技能、或いはものの「見方」や「考え方」「関わり方」などの経験を場や状況、造形的な課題などに合わせて有機的、关系的に捉える総合造形的な思考、判断、分析力を養う。

○ 造形的な課題を発見、選択、決定、追究、解決、応用、発表するなど、総合的な造形表現活動を経験し、造形的な総合力を養う。

このような「授業課題」は、特に子どもたちの興味や関心が強く活動の必然性が高い内容が提案されなければ達成されにくいだろう。また、子どもたちが自主的、主体的に情報を広く捉え、自らの造形的な課題を自由に見つけたり追究したりすることが出来るような場や状況を提供する課題追究的、体験的、総合的な「授業方法」をとることが有効である。

課題追究型、体験型、総合型の授業構成は、子どもたちの実態や中心的「授業課題」に合わせ、「授業／表現内容」や「授業方法」、活動規模や選択の範囲を設定するなどの「授業条件」を調整

したり、表現内容を組み合わせたりするなどして構成することになる。また、授業構成には、活動テーマや課題の設定がより重要になる。そこで、どのような活動テーマの設定が可能か、その例を幾つかあげてみる。

- ・表現内容である、表現対象／主題、表現材料／素材、表現形式、表現様式、表現材料や表現技法などを大きな課題を含めたテーマとして掲げ、造形活動を広げる。
- ・催しや行事など、造形活動全体を総括するようなテーマを設定する。
- ・言葉やお話、音や音楽（造形とは直接関係がないもの）など、造形的なイメージや活動を大きく膨らませるようなテーマを設定する。
- ・幾つかの関連する表現内容を組み合わせて連続的な活動となるようにユニット(unite)をつくり、総合型の造形活動に組織する。

これらのテーマの設定方法は「授業課題」、「授業／表現内容」、「授業方法」、「授業条件」などと関係させて行うことは言うまでもない。

### C 【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域

造形表現は、3つの基本的な造形要素である色彩、形態、材質を素材とした活動であるといえる。3つの造形要素は造形表現として使われる原素材であり、これらの素材としての範囲を越えると造形表現としての概念は失われることになる。

逆に、造形表現活動の概念は、色彩、形態、材質を素材とした活動まで広げることができるということである。

例えば、義務教育の中で扱われてこなかった、日常的なファッションやヘアメイク、或いは化粧なども色彩、形態、材質を素材とした行為や活動とすることができる。造形表現活動とは、絵画や彫塑、デザインや工作／工芸といった表現形式としての概念を遙かに超えた内容も扱うことができるだろう。「造形を通した教育」における表現内容は、教育の課題を実現するための手段となるからである。しかし一方で、自由勝手に表現内容や授業活動を扱っていいというわけではない。掲げた教育の課題に対して、それを扱う意味や根拠、妥当性などが求められて当然だからである。

ここでは、「表現形式」を一步踏み込んで、すべての造形表現活動の本質に関わる、或いは転移するような「造形的なものの見方・考え方」を思考していく。

また、造形に対する正しい情報を持たずに、造形表現活動は行えない。社会的、文化的な価値としての造形文化や美術史的な内容も見逃すことはできない。

#### (5) 「造形的なものの見方・考え方と造形感覚」領域

造形要素である色彩や形態、材質には、それぞれ特有のものの「見方」や「考え方」がある。即ち、造形的なものの「見方」や「考え方」である。造形要素である、色彩や形態、材質、或いはそれらを組み合わせには、それぞれの違いやよさ、特徴や面白さなどがある。

そうした造形的なものの「見方」や「考え方」を、次のように規定した。

ア) 造形的な要素としての色彩や形態、材質に対し、それぞれの特性や法則性、相互の関係性などの捉え方である。

イ) 表現素材に含まれる色彩や形態、材質に対し、それぞれの特性や法則性、相互の関係性などを表現の様式や方法、材料や技法などに関連させた捉え方である。

アとイは、本質的に同じ内容であるが、ひとつは特に純粋に抽象的な概念として、造形的な要素としての色彩や形態、材質の対するもので、今ひとつは具体的な材料や素材を使って造形的に表現された色彩や形態、材質に対する見方や考え方を示している。

それでは、色彩や形態、材質に対し、それぞれの特性や法則性、相互の関係性などを、表現内容と照らしてどの様に取り上げることができるか、幾つかの組み合わせをあげてみよう。

- 色彩、形態、材質の特性や法則性、相互の関係性と発想や構想の方法
- 色彩や形態、材質と表現様式や方法との相互の関係性
- 色彩や形態、材質と表現材料との相互の関係性
- 色彩や形態、材質と表現技法との相互の関係性
- 色彩や形態、材質と表現対象との相互の関係性
- その他

さらに、色彩や形態、材質として表現の内容をどの様な視点から扱うか、それぞれの具体的な内容例を示すと次のようになる。

- ・色彩（彩度、明度、色相、濃淡、明暗、他）
- ・形態（具象、抽象、点、線、面、立体、象形文、定型、不定型、他）
- ・材質／材料（土、砂、石、水、金属、木、葉、紙、布、綿、毛、スポンジ、ビニル、他）
- ・表現様式（具象、抽象、写実、装飾的、構成的、絶対、相対、他）
- ・表現方法（平面、立体、絵画、彫塑、デザイン、工作、陶芸、版、染色、織物、七宝・ガラス、イラスト、光／映像、構造・建築、他）
- ・表現材料（自然材料：土、粘土、砂、石、水、木・草などの植物、他）  
（自然加工原材料：紙、紙紐、布、麻紐、毛糸、木片、絵の具、クレヨン、他）  
（人口材料：発砲スチロール、ビニル、プラスチック、化学塗料、他）  
（加工既製品／身近材：箱類、皿類、カップ類、へら類、袋類、割り箸、ボトル類、缶類、他）
- ・表現技法（様式／方法：油彩、水彩、木版、木彫、塑像、陶芸、漆芸、木工芸、他）  
（材料／用具：クレヨン・パス、筆、はさみ、ナイフ、彫刻刀、のこぎり、他）

以上は、造形的なものの「見方」や「考え方」に対して、幾つかの具体的な表現の内容例として示したものである。他にも様々な視点があると考えられる。

それでは、子どもたちに「造形的なものの見方や考え方」を養うために中心的な「授業課題」と内容を改めて整理してみると次のようになる。

- 表現形式や表現様式、表現材料／素材や表現技法などには決められた使い方があるわけではなく、自らを表現するために、それらをどの様にでも自由に活用することが出来るとする見方や考え方を持つ。

先ずこの「活動課題領域」では、子どもたちが原素材としての3つの造形要素を扱う前に、しっかりと造形表現活動の意味や課題に対する見方や考え方を伝えておかなければならない。

造形表現は、表現対象／主題、表現材料／素材、表現形式、表現様式、表現材料や表現技法などの表現内容で構成されている。構成要素である表現内容は、自らを造形的に表現するための手段であるとする考え方である。それは、造形表現活動に対する「開かれたものの見方や考え方」が養われている、或いは養うということであり、表現形式や表現様式、表現材料や表現技法などに振り回されず、自らの表現活動を追究する大切な姿勢となるはずである。

こうした課題が重要なのは、子どもたちの精神的、人間的な自立を促す教育は、造形表現活動を通して常に自らを見つめ、見だし、乗り越えようとする活動であるからに他ならない。

また、「(1) 造形表現活動の快さと心の開放」領域の造形表現活動に開かれた心を持つことにもつながることである。

○ 造形的な要素としての色彩や形態、材質を捉え、造形的な表現の面白さや不思議さ、美しさなどの意味や理由を思考し、生かした表現を追究することで、それぞれの特性や法則性、相互の関係性に気づかせながら造形感覚を養う。

これらの活動は、単に知識として知らせることではなく、子どもたちの興味や関心に合わせ、快い、或いは好みの色彩感や形態感、材質感といった各自の造形感覚を表現に生かせるような楽しい活動に工夫された内容を与えることが大切である。

○ 表現素材に含まれる色彩や形態、材質を捉え、それらを表現の形式や様式、材料や技法と関連させて取り上げ、造形的な表現としての面白さや不思議さ、美しさなどの意味や理由を思考し、生かした表現を追究することで、それぞれの特性や法則性、相互の関係性に気づかせながら造形感覚を養う。

つまり、色彩や形態、材質を具体的な表現の様式や方法、材料や技法などと関連させ、造形的なものの「見方」や「考え方」を問うような授業を組織していくことである。

例えば、日常的にあるもの、或いは芸術的な作品などを取り上げ、それらの造形的な特性、法則性などを切り口に授業を組織していくようなこともあろう。

このように、子どもたちにある種の客観性がある「造形的なものの見方や考え方」を養うことは、その子らしい色彩感や形態感、材質感といった造形感覚を磨き、感性を培うことにもつながっていくのである。

#### (6) 「知識・技能と造形文化」領域

ここでの「活動課題」は「造形的な知識や技能、造形文化を知る。」である。「知識や技能」は「関わり方や考え方、生き方」などの課題と二元論で語られることが多いが、ここではそうした考え方はしていない。

今まで掲げてきた6つの「活動課題」の中の同等の価値を持つ課題として位置づけている。

それは、造形表現活動を通して「自分らしさ」を培い、人間的な自立を促す教育は、自他と社会との相互の関係の中で成り立ち、「知識や技能」もそうした社会的な環境の中にあり「自分らしさ」を培うための重要なひとつの要素としての価値を有しているからに他ならない。

ここでの「授業課題」次のようになる。

○自主的、主体的、創造的に表現するための造形的な知識や技能を身につける。

○社会的、文化的に必要な造形文化や美術史を知り、それらを通じた造形的な「見方」や「考え方」「生き方」に気づく。

○造形文化や美術史を知ることから自らの造形的な価値観を培う。

自らを造形的に表現するため、或いは自らの造形的な価値観や生き方を培うための知識や技能であり、造形文化や美術史としての意味を持たさなければならない。



#### (iv) 新たなカリキュラムの骨格、構造を基にしたカリキュラム編成方法の確立。

##### 1、表現手段としての「表現内容」を再構成した「表現内容」領域

###### ① 表現手段としての「表現内容」と教育課題としての「表現内容」

新たな「活動課題」領域を基にした授業の実践にあたっては、具体的な造形表現活動としてどのような造形表現の手段、つまり「表現内容」としての「表現対象／表現主題」「表現材料／素材／造形要素」「表現形式」「表現様式」「表現技法」「表現用具」などを通して子どもたちに提案するのか、その内容の選択が問題となる。

どのような「表現内容」を表現手段として選択するかは、「絵に表す」「立体に表す」「つくりたいものをつくる」など、「表現形式」で括られた現在の内容領域にも関係してくることになる。

つまり、「表現形式」をはじめとする「表現対象／表現主題」「表現材料／素材／造形要素」「表現形式」「表現様式」「表現技法」「表現用具」などは、表現手段であると同時に、造形的な知識や技能、造形文化や歴史を知ることの実質的な教育課題であるという二面性を持っているのである。

それは図画工作科、美術科の教育課題が「造形の教育」と「造形を通した教育」の二面性を持っているからに他ならない。或いは、「造形を通した教育」は「造形の教育」の課題を包含していると言った方がいいのかもしれない。

###### ② 表現手段としての「表現内容」を「表現内容」領域として設定

それでは、造形表現活動の「表現内容」はどのように整理し、再構成していくことができるだろうか。ここでは次のように整理した。

まず、「表現内容」を表現目的／主題別に「心象的表現」と「適応的表現」の2つに分類した。

「心象的表現」は、自分自身の中に表現主題が持って、自分を自己表出、自己表現していく表現活動であり、「純粹表現」と言われるものである。一方、「適応的表現」は自分の外に表現主題を持ち、その主題や目的に合わせた表現活動であり、「目的表現」と言われるものである。

更に、これらの「心象的表現」と「適応的表現」について、それぞれの表現内容を「平面」、「半立体」、「立体」の3つの表現形式に分けた。これら「表現内容」としての2つの表現目的／主題と3つの表現形式を整理して再構成し、「表現内容領域」として設定した。

子どもたちの表現活動は、その授業の課題や各自の必要に応じ、それぞれの「表現内容領域」を自由に行き来することが可能な柔軟性を持たせた枠組みとしてある。

つまり、カリキュラムの編成は、「課題要素」領域、「活動課題」領域、「授業課題」領域を基本的な柱（構造）とし組み、それに合わせて「表現内容領域」に対応する題材をはめ込んでいくことになる。また、子どもたちの表現活動も、達成すべき授業の「課題要素」「活動課題」「授業課題」を基本的な柱（構造）とし、「表現内容」を選択して行うことになる。

##### 2、「活動課題内容領域」の設定

###### ① 「活動課題」領域と「表現内容」領域の2視点から「活動課題内容」領域を設定

今までの活動題材の設定は「表現内容」が優先して行われてきたため、その授業課題や授業目標が曖昧で見失われたり、指導者の独断で授業が行われたりするようなことがあった。そこで、「課題要素」「活動課題」「授業課題」を優先して考える「活動課題」領域を設定した。

さらに、具体的な授業を構成するのに必要な「表現内容」を整理し、再構成した「活動内容」領域を設定した。

授業は、これら「活動課題」領域と「表現内容」領域の2つの視点から活動題材を精選し、決定

していくことになるのである。それは、活動題材を組み合わせてカリキュラムを編成する骨格構造にもなるのである。つまり、カリキュラムの編成は「活動課題」領域を縦軸に、造形表現活動の手段である「表現内容」領域を横軸にした「活動課題内容」領域として構造化されることになるのである。

「表現内容」領域にある「心象的表現」と「適応的表現」のカリキュラム全体における時間配当割合はそれぞれ5割りずつとした。また、「心象的表現」と「適応的表現」の両方に位置する「平面」、「半立体」、「立体」の表現は、その表現形式にこだわることなく配当時間割合は自由に扱うものとする。造形の絵画、彫塑、デザイン、工作／工芸といったような「表現形式」に対する社会的な価値概念に左右されず、子どもたちの自由な発想や表現を優先的に考えたからである。それは授業課題に合わせ、授業を自由に構成することもできるということである。

さらに、「活動課題内容」領域における6つの「活動課題」領域の配当割合は、学年によって変えることになり、学年系統を編成するときの課題となる。

## ② 「活動課題内容領域」表の作成

「課題要素」領域・「活動課題領域」と「表現内容領域」の2つの視点でとらえて構造化した「活動課題内容領域」を視覚的に表として図示すると次のようになる。この表では学年カリキュラム編成の計画として活動題材を配列するものである。

| 課題要素<br>領域                                 | 表現内容領域  |   |
|--|---|---|
|  | 活動課題領域  | 表現内容（表現主題／表現形式）   |
|  |   | 心象的表現（50%）<br>平面／半立体／立体   |
| A<br>心の開放と<br>自分理解、<br>相互理解                | ①造形表現活動の快さや楽しさを経験し、心を開く。                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材名：○時間</li> <li>・題材名：○時間</li> <li>・題材名：○時間</li> <li>・題材名：○時間→→→→→</li> </ul> |
|  | ②造形表現活動を通して相互理解、人間理解を図る。                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材名：○時間→→→→→</li> </ul>   |
| B<br>自分らしさ<br>の追究力、<br>発見力、表<br>現力と総合<br>力 | ③「自分らしさ」を、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりする力を培う。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材名：○○○○→→→→→</li> <li>・題材名：○時間→→→→→</li> <li>・題材名：○時間→</li> </ul>            |
|  | ④総合的な造形表現活動を経験し、造形的な総合力を養う。                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材名：○時間→→→→→</li> <li>・題材名：○時間→</li> </ul>                                    |
| C<br>造形的な見<br>方・考え方<br>と造形感覚               | ⑤造形的なものの方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材名：○時間</li> <li>・題材名：○時間→→→→→</li> <li>・題材名：○時間</li> </ul>                   |
|  | ⑥造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材名：○時間</li> <li>・題材名：○時間</li> </ul>  |

(図2 / 「活動課題内容」領域表)

「活動課題内容領域」を視覚的に構造化した表を基に、それぞれの地域、学校、クラス、子どもの実態や課題に合わせ、具体的な活動題材を、必要に応じて表のスペースを自由にとって書き込むことになる。表に「・題材名：○時間」のように、配列する活動題材名と活動単位時間の例を書き込んであるが、(→→→)は題材が表現内容領域をまたがって活動することを意味する。また、「活動課題領域」の中に「授業課題」を書き込んでおくこともできる。

「活動課題内容領域」はABCの「課題要素」や具体的な「活動題材」「授業課題」を子どもたちの実態や課題などの必要に応じて自由に組み換えることができる骨格構造型（スケルトン型）のカリキュラムとして編成するものである。

### 3、学年系統と教育課程の編成

#### ①「活動課題内容」領域を基にした学年系統

##### ア 低学年、中学年、高学年の三段階と中学校の括りの学年系統

「活動課題領域」を基にした骨格構造型の教育課程編成にあたっては、教育課程自体がおおらかな枠組みを持っていなければならない。

「自分らしさ」を培い、自立を促す教育の理念は、子どもや個人の側に立ったものであり、教育課題はできるだけ地域や子どもたちの実態に合わせた活動題材を配列していかなければならない。

領域や系統の課題を柔軟に受け止め、子どもたちの実態に合わせた無理がない活動題材を組織することが大切になるのである。

そこで学年系統は、1年から6年まで六段階の細かい系統にするより、むしろ2学年ずつと中学校の括りで、低学年、中学年、高学年の三段階と中学校のおおらかな系統を選んだ。

学校や教師の裁量範囲が広くて活動題材の配列が考えやすく、教育課程を編成しやすいシンプルな構造である。

##### イ 学年系統における各「活動課題領域」の配当時間割合

ABCの「課題要素」領域、6つの「活動課題」領域に対する各学年配当時間割合は（図3）のとおりである。

「造形表現活動の快さと心の解放」領域は、低学年に対して40%と高く、学年が上がるに従い低くなって高学年、中学では20%である。これは一般的に年齢が低いほど自己解放、自己表出的な活動の必要性が高いと考えられるからである。

それとは対照的に「造形表現活動の総合力」と「造形表現活動を通じた相互理解」領域では、それぞれ低学年に対して5%と低く、学年が上がるに従い中学年では10%、高学年と中学では15%と高くなっている。これは、年齢が高くなると経験も多くなり、総合的な扱いの活動規模が大きく、時間もかかると考えられるからである。

「自分らしさの追究、発見、表現」領域、「造形的な見方・考え方と造形感覚」領域は各学年とも共通の20%、「知識・技能と造形文化」領域は10%である。

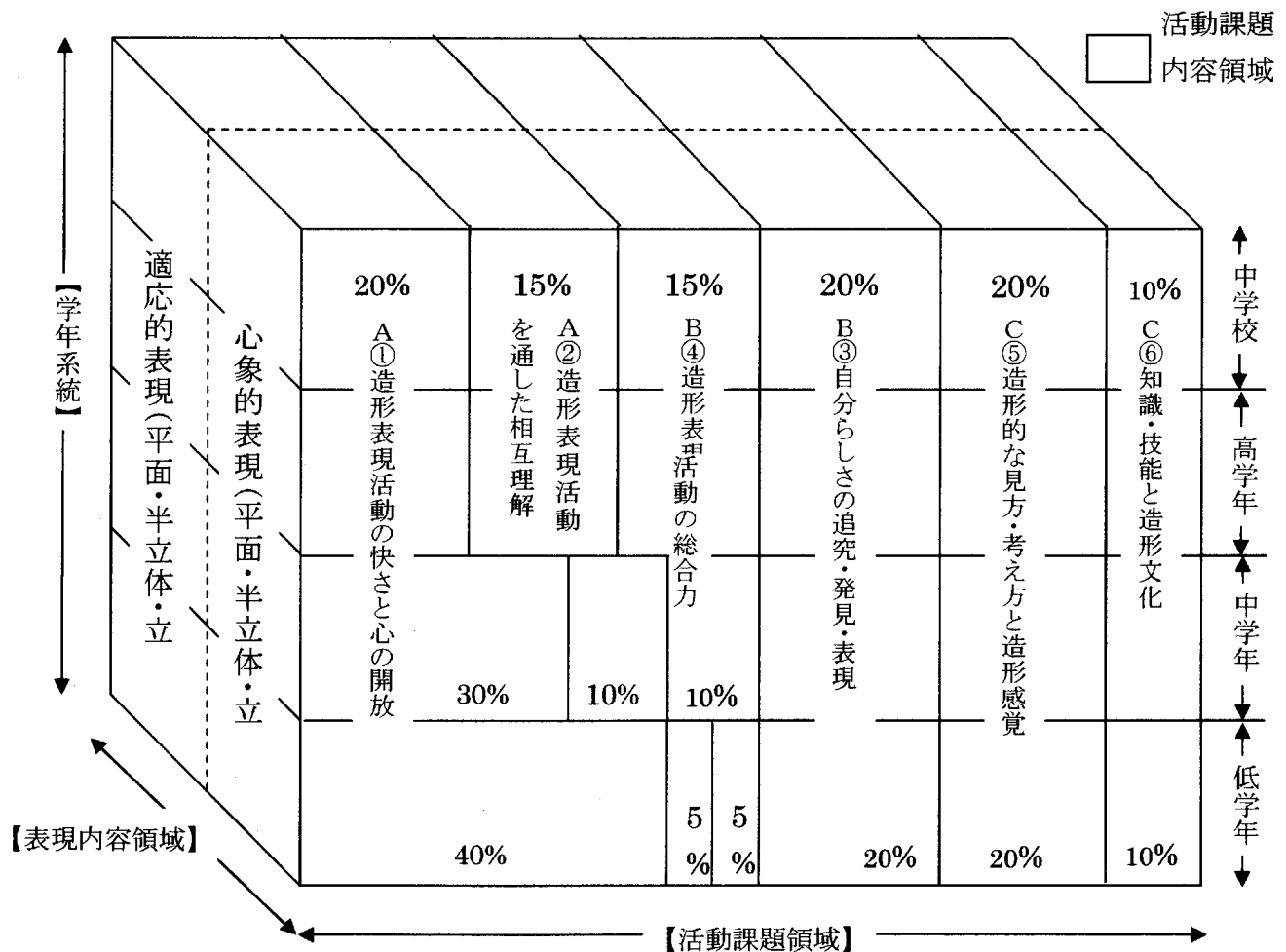
しかし、これらはいくまで基準であって、子どもたちの実態や個人内では高学年であっても、このような課題を持った活動がより多く必要な場合も考えられる。

#### ② 学年系統と「活動課題内容」領域を構造化した立体図

「活動課題内容領域」を基にし、「活動課題領域」と「活動内容領域」の配当割合を学年系統に組み込んで構造化し、立体的な図として表したものが（図4）である。

| 課題要素領域／活動課題領域               | 表現内容領域 |     | 表現内容（表現主題／表現形式） |            |
|-----------------------------|--------|-----|-----------------|------------|
|                             |        |     | 心象的表現（50%）      | 適応的表現（50%） |
|                             |        |     | 平面／半立体／立体       | 平面／半立体／立体  |
| 課題要素領域／活動課題領域               | 低学年    | 中学年 | 高学年             | 中学         |
| A 【心の開放と自分理解、相互理解】領域        |        |     |                 |            |
| (1) 「造形表現活動の快さと心の開放」領域      | 40%    | 30% | 20%             | 20%        |
| (2) 「造形表現活動をととした相互理解」領域     | 5%     | 10% | 15%             | 15%        |
| B 【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域 |        |     |                 |            |
| (3) 「自分らしさの追究、発見、表現」領域      | 20%    | 20% | 20%             | 20%        |
| (4) 「造形表現活動の総合力」領域          | 5%     | 10% | 15%             | 15%        |
| C 【造形的な見方・考え方や造形感覚】領域       |        |     |                 |            |
| (5) 「造形的な見方・考え方や造形感覚」領域     | 20%    | 20% | 20%             | 20%        |
| (6) 「知識・技能と造形文化」領域          | 10%    | 10% | 10%             | 10%        |

(図3／カリキュラム編成における各学年の「活動課題」領域の配当割合表)



(図4／活動課題内容領域をもとにした学年系統の立体図)

(v) 新たな教育課題、活動課題と授業課題を達成するための教材開発と実践授業研究。

### 1、「造形を通した教育」の教材開発（活動題材開発）の考え方

A B C、3つの「課題要素」領域と6つの「活動課題」領域を骨格に、それらの課題を達成するための活動題材を配置してカリキュラムを編成していくことになる。

6つの「活動課題」領域には、それぞれに配置された「授業課題」がある。カリキュラムとして「活動題材」を適切に配置するためには、授業を通して「授業課題」を適切に達成するための「活動題材」の開発（教材開発）が必要になる。

一般的に教材開発の方法は、「表現内容」の吟味から始まる。いわゆる、教材の内容開発である。それは教材としての「表現内容」、つまり表現対象／主題、表現材料／素材／造形要素、表現形式、表現様式、表現技法／用具のよさや特徴、新鮮さ、興味、関心が高いものなどの可能性である。表現内容についての知識や技能を優先的に教えることを課題とした図画工作科、美術科の教材開発の特徴である。

しかし、「表現内容」は「授業課題」を達成するための手段となっている、子どもたちの自立を促す造形を通した教育では、「授業課題」を達成するためにはどのような「表現内容」が必要かを吟味しながら活動題材の開発を行うことが求められる。まず「授業課題」が優先されるのである。

勿論、ここでも「知識や技能」を教えることを中心的な「授業課題」とすることもある。そうしたときは、その「授業課題」達成するために内容開発が必要であることは言うまでもない。

### 2、「造形を通した教育」の教材開発（活動題材開発）の方法

活動題材の開発にあたって、まず、子どもの実態に合わせ、「授業課題」選択したり修正したりすることになる。「授業課題」の設定と言っても、授業は子どもと教師とのコラボレーションであると言っても過言ではない。子どもたちに教師の造形的な価値観を押しつけるのもいけないが、不必要に子どもを優先し過ぎるのも不自然である。授業は子どもの実態と教師の教育的な課題とのバランスの上に成り立つものである。

「活動課題」領域における「活動課題」や中心的な「授業課題」は、あくまで基準としての基本的な課題として掲げたものである。活動題材の開発にあたっての「授業課題／目標」の設定にあたっては、具体的な子どもの実態と教師の教育的な課題とを見極めて、またカリキュラム全体のバランスを考えて設定することになる。

次に「表現内容」の設定である。これはカリキュラム全体として「表現内容」領域における表現内容の割合を「心象的な表現」と「適応的な表現」を、また「平面・半立体・立体表現」をおおらかに5割ずつとしている。つまり、カリキュラムにおける「表現内容」としてのバランスは、「心象的な表現」と「適応的な表現」を、また「平面・半立体・立体表現」の範疇で常に考えていなければならないという意味である。

ここでも、子どもの実態と教師の教育的な課題を考え、子どもたちが興味や関心の高い「表現内容」を吟味することが大切であることは言うまでもない。

### 3、「造形を通した教育」の教材開発（活動題材開発）と授業方法

図画工作科、美術科の研究で、最も遅れている研究が「授業方法」である。これは、絵の描かせ方やものの作り方など、「表現内容」としての知識や技能を教えることを中心としてきた教科の弱点でもある。殆どの研究が教材の内容開発に向かったのはそのためであろう。

しかし、造形を通しての教育の教材開発は、表現内容の開発より、むしろ「活動課題」や「授業課題」を達成するためには、どのような授業をつくっていったらいいのか、つまり

「授業方法」の組み込んだ授業方法開発が大切になるのである。

極端に言えば、同じ「表現内容」を扱っても、授業方法により「授業課題」の達成度は違ってくる。逆に言えば、「授業課題」を的確に達成するためにはどのような「授業方法」が適切かを含めた教材開発が必要になるのである。

例えば「授業方法」して、教師中心方の指導方法として「教師指導型」、「講義型」、「師範型」などがある。また、児童中心型の指導方法として「課題追究型」、「問題解決型」、「総合型」などが考えられる。「どちらが正しい方法か！」などの協議を耳にすることであるが、実は正しい指導方法などというものはない。指導法は方法であって授業の目的ではないからである。この論議に欠けているものは、何を「授業課題／目標」にしているかの論議である。つまり、授業で掲げた「授業課題／目標」をより適切に達成するためにはどのような「授業方法」が適切であるかを考えることである。「授業課題／目標」によって、「講義型」の方が、或いは「課題追究型」の方が適切であると言えるかもしれないのである。

ごく一般論であるが、【B 自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域の「(3) 自分らしさの追究、発見、表現」領域や「(4) 造形表現活動の総合力」領域など、子どもの主体性を確保しながらの活動が大切は授業では、「課題追究型」などの授業方法が向いていると言えよう。

一方、これも一般論であるが、【C 造形的な見方・考え方と造形感覚】領域の「(5) 造形的な見方・考え方と造形感覚」領域や「(6) 知識・技能と造形文化」領域では、「師範型」などの指導方法も考えられる。

勿論、「授業課題」を達成するためには、様々な「授業方法」を組み合わせ、位置づけたような教材開発が大切になると言うことである。同じ表現内容を扱っても「授業課題」が異なればまったく違った授業になるからである。それはまた、造形を通した教育は、教材の内容開発より「授業方法」の開発が大切であることを意味している。今まで行ってきたオーソドックスな「表現内容」を扱っても、「授業課題」を明確にして適切に達成できるような「授業方法」をそなえた魅力的な「活動題材」をカリキュラムの中に位置づけることができるかもしれない。

本研究は、教材開発（活動題材開発）研究を、以上のような視点と方法で行ってきた。

また、教材開発（活動題材開発）してきた「活動題材」を、次項の「カリキュラムの編成モデル（題材配列例表）例」として示した。

(vi) 教材開発実践を基にした、新たなカリキュラムの編成方法による初等、低、中、高学年、及び中学、第2学年のカリキュラムの編成モデル(題材配列表)の作成

1、ABC、3つの「課題要素」領域と6つの「活動課題」領域を骨格にした活動題材を配置したカリキュラムの編成について

カリキュラムの編成モデル例として、ふたつの編成例を示した。

ひとつは図画工作科、1年～6年まで6学年に対して、6つの「授業課題」をそれぞれの課題に対応する6種類の「活動題材」とその授業の実践例を示した。

6つの「授業課題」に対応する6種類の「活動題材」は、児童や生徒の実態に合わせて「表現内容」を変えたり開発したりすることにより、カリキュラムの総時数を満たす「授業題材」を編成、配列することができる。スケルトン型のカリキュラム編成の特徴でもある。

また、美術科、2年の1学年に対して、「(5) 造形的な見方・考え方と造形感覚」領域の「授業課題：⑤ 造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。」について、6種類の発展的な授業展開を示した。

「活動課題」を骨格に領域として構造化したカリキュラムの編成方法における、「活動課題」の「活動題材」の開発と扱い方の例である。

2、カリキュラムの編成における「活動課題」領域の「活動題材」配列と「授業構成」の意味  
カリキュラムの編成における「活動題材」の配列は、「活動課題」領域の中にその「活動課題」の達成度の高い「活動題材」であることの根拠が大切になる。

そこで、配列した「活動題材」の各授業実践例を、授業構成(授業づくり)として、「児童・生徒の実態」「活動課題/授業課題」「評価」「授業/表現内容」「授業方法」「授業条件」の構成要素を構造化して図的に示した。

授業の構成要素を構造的、図的まとめると、授業がどの様に構成されているかが分析できる。

造形を通した教育は、カリキュラムの編成においても、授業の構成(授業づくり)においても、授業の中心となる「授業課題」が命であり、それが他の授業の構成要素とどのような関係性があるのかを見取ることが大切になる。もっともこれは、どの様な授業を行うときでも大切であるが、図画工作科や美術科の授業では、そうした考え方は定着していない。

本研究では、カリキュラムの編成における「授業題材」の配列を「授業構造」として図的に示す試みを行ってみたものである。

#### [引用文献著書]

- ・「自分らしさを追究する造形表現活動を求めて」佐々木達行、教育研究 1994年 12月号
- ・『「自分らしさ」らしさが輝く図工の活動』佐々木達行、日本書籍 1995年
- ・「図工科/新たな構造と活動内容領域の提唱」佐々木達行 教育研究 1996年 6月号
- ・「筑波大学附属小学校研究紀要第52集 1996～53集 1997」図画工作科/学ぶ価値を見出し追究する活動
- ・「筑波大学附属小学校研究紀要第54集 1998～56集 2000」図画工作科/自分づくりを支える教育課程
- ・「筑波大学附属小学校研究紀要第57集 2001～59集 2003」図画工作科/子どもの豊かさに培う共生・共創の学び
- ・『子どもの豊かさに培う共生・共創の学び』佐々木達行 他2名、東洋館出版 2004年

## 1学年 カリキュラム編成における「活動課題領域」の実践例

### A 【心の開放と自分理解、相互理解】領域

→「他との関係の中に『自分らしさ(Identity)』を求め、人間的な自立を促す。」

#### ① 造形表現活動の快さや楽しさを経験し、心を開く。

実践例 ① 活動名 マーブル粘土天国

－2色の粘土との出会いをとおして、造形表現活動の快さや楽しさを体験する－

#### ② 造形表現活動をとおして相互理解、人間理解を図る。

実践例 ② 活動名 線路はつづくよ、まちの中！

－紙粘土で乗り物やそれらが走るみんなのまちをつくることから－

### B 【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域

→「自主的、主体的、創造的に表現すること。」

#### ③ 「自分らしさ」を、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりする力を培う。

実践例 ③ 活動名 私のつくった色紙で

－絵の具を塗ってつくったオリジナル色紙で切り絵にすると－

#### ④ 総合的な造形表現活動を経験し、造形的な総合力を養う。

実践例 ④ 活動名 かみばこのまち

－持ち寄った紙箱を使って－

### C 【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域

→「造形的なものの見方や考え方、造形感覚や感性を培う。」

#### ⑤ 造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。

実践例 ⑤ 活動名 フロッタージュ刑事

－学校の中にある様々な形を見つけよう！－

#### ⑥ 造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。

実践例 ⑥ 活動名 音声多重式鑑賞

－「音」を切り口に、絵画を鑑賞する－

### ○カリキュラム編成における各学年の「課題要素/活動課題・表現内容領域」の配当割合

| 課題要素領域/活動課題領域               | 表現内容領域 |     | 表現内容 (表現主題/表現形式) |     |             |  |
|-----------------------------|--------|-----|------------------|-----|-------------|--|
|                             |        |     | 心象的表現 (50%)      |     | 適応的表現 (50%) |  |
|                             |        |     | 平面/半立体/立体        |     | 平面/半立体/立体   |  |
| 課題要素領域/活動課題領域               | 低学年    | 中学年 | 高学年              | 中学  |             |  |
| A 【心の開放と自分理解、相互理解】領域        |        |     |                  |     |             |  |
| (1) 「造形表現活動の快さと心の開放」領域      | 40%    | 30% | 20%              | 20% |             |  |
| (2) 「造形表現活動をとおした相互理解」領域     | 5%     | 10% | 15%              | 15% |             |  |
| B 【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域 |        |     |                  |     |             |  |
| (3) 「自分らしさの追究、発見、表現」領域      | 20%    | 20% | 20%              | 20% |             |  |
| (4) 「造形表現活動の総合力」領域          | 5%     | 10% | 15%              | 15% |             |  |
| C 【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域       |        |     |                  |     |             |  |
| (5) 「造形的な見方・考え方と造形感覚」領域     | 20%    | 20% | 20%              | 20% |             |  |
| (6) 「知識・技能と造形文化」領域          | 10%    | 10% | 10%              | 10% |             |  |

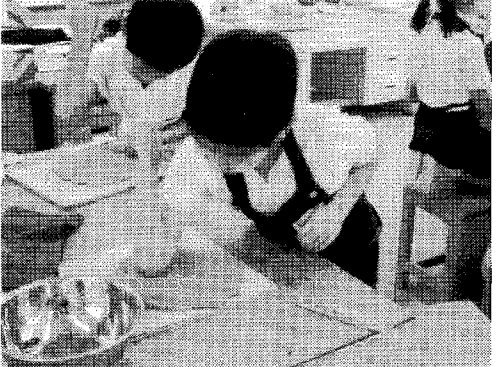
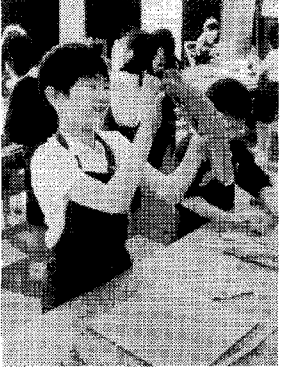


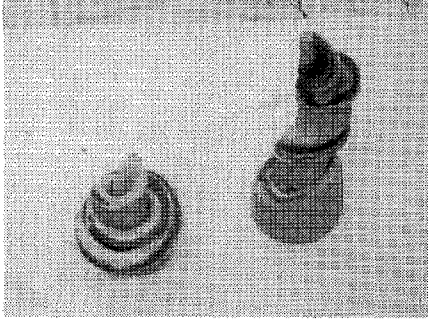
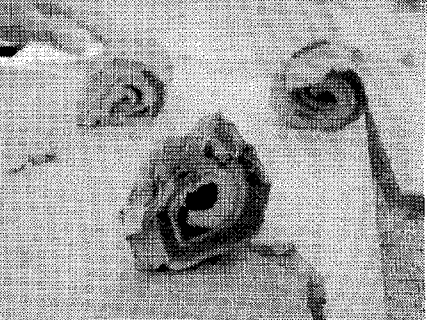


(1年) 【A 心の開放と自分理解、相互理解/活動課題①】 領域

活動名：マーブル粘土天国

— 2色の粘土との出会いをとおり、造形表現活動の快さや楽しさを体験する — (45分×2)

|  |  |   |
|--|--|---|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>子どもたちは表現することが大好きである。いままでの造形体験も豊富で、大変意欲的である。</p> <p>しかしながら新しい表現方法に出会ったり、複数の友だちとの表現になったりすると、戸惑いをみせる子どももいる。より充実した造形表現活動の必要性がある。</p>   | <p><b>活動課題/授業課題</b></p> <p>①造形表現活動の快さや楽しさを体験し、心を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的材料による造形表現活動の快さや楽しさを知る。</li> <li>造形的に表現することで他や造形表現に対する考え方に心を開く。/心を開いて表現できる。(自己表出、開放、肯定)</li> <li>自信を持って他に自分を伝える喜びを知る。(自己実現、相互理解)</li> </ul> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>二色の粘土(基本的材料)をこねたり合わせたりすることで造形表現活動の快さや楽しさを体験することができたか。</li> <li>様々な現れる模様や形状に自分なりの快さを感じ、友だちにみせるなどして自らの表現を他に伝える喜びを味わうことができたか。</li> </ul> |
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ 表現活動の概要<br/>二色の粘土(信楽・テラコッタ)をこねたり合わせたりすることで素材の質感を十分に味わいながら、そこに現れる様々な模様や形状から、自分にとって快いものを見つけるなどして、造形表現活動そのものを楽しみ、造形表現に対する興味や関心を高める。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現対象/主題(何を): 造形・オブジェ</li> <li>表現材料(何で): 主材料: 粘土二種類(信楽土・テラコッタ)</li> <li>表現形式(どの様): 立体的</li> <li>表現様式(どの様に): 主に抽象的に</li> <li>表現技法/用具/知識(どの様): 粘土をこねる、二色の粘土を合わせる、混ぜる、丸める、ちぎる、ねじる、切る、たてるなど。</li> </ul> | <p><b>授業の方法</b></p> <p>二色の粘土(信楽・テラコッタ)を準備し、それを子どもたちがこねたり合わせたりすることで素材の質感を十分に味わい、そこに現れる様々な模様や形状から、自分にとって快いものを見つけるなど、造形表現活動そのものを楽しませる、教師指導型の授業である。</p>  |   |
| <p><b>授業の条件</b></p> <p>○表現内容: 二色の粘土を基本的材料にした立体的な抽象表現(一部具象表現と取り入れることもある)<br/>: 表現素材は二色の粘土のみとする</p> <p>○学習時間: 90分</p> <p>○学習形態: 個人表現、集団鑑賞</p>  |  |   |

|   |  |
|---|--|
|  <p>*粘土を、体全体を使って伸ばしたりこねたりする</p>            |  <p>*二色の粘土を合わせる・丸める</p>                 |
|  <p>*半分に分けてみると…!</p>                       |  <p>*素敵な模様でしょ!</p>                      |
|  <p>*ねじってできた形がとても気に入ったので、たてて並べてみました。</p> |  <p>*断面の模様がとてもきれいなので、きれいに並べてみました。</p> |

(1年) 【A 心の開放と自分理解、相互理解/活動課題②】領域

活動名：線路はつづくよ、まちの中！

—紙粘土で乗り物やそれらが走るみんなのまちをつくることから— (45分×3)

|   |   |   |
|---|---|---|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>子どもたちは表現することが大好きである。いままでの造形体験も豊富で、大変意欲的である。</p> <p>しかしながら複数の友だちと関わりながら表現する場合に、戸惑いをみせたり、うまく関われなかったりする子どももいる。より充実した造形表現活動の必要性がある。</p>   | <p><b>活動課題/授業課題</b></p> <p>②造形表現活動をととして相互理解、人間理解を図る。</p> <p>・造形的なもの「見方」や「考え方」「感じ方」、或いは表現の違いなどに気づき、それらがそれぞれの「自分らしさ」につながることに気づく。</p> <p>・それぞれの違いや「自分らしさ」を相互に認め、尊重し協力し合って共に高め合う。</p> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <p>○紙粘土で自分の好きな乗り物を作り、互いに見せ合うなどしてそれぞれの作品のよさや面白さに気づくことができたか。</p> <p>○乗り物が走るまちをともに作るなかで、それぞれの発想や表現などの違いに気づき、相互に認め合いながら協力して活動することができたか。</p>                            |
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ 表現活動の概要</p> <p>紙粘土で「自分の好きな乗り物」を立体的に作る。</p> <p>次にみんなで相談しながら短冊状に切った画用紙に、みちやまわりの景色などを描いたり、みちをつなげたりしながら「まち」をつくっていく。</p> <p>造形表現活動をととして、それぞれの発想に出会い相互に認め合いながら活動することで、相互理解、人間理解を図る。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現対象/主題 (何を)：乗り物、まち</li> <li>・表現材料 (何で)：紙粘土、絵の具、画用紙、カラーペンなど</li> <li>・表現形式(どの様)：平面的、立体的</li> <li>・表現様式 (どの様に)：具象的に</li> <li>・表現技法/用具/知識 (どの様)：(乗り物) 紙粘土による造形技法、(まち) 画用紙への描画と、立体的な構造表現など。</li> </ul> |   | <p><b>授業の方法</b></p> <p>まず紙粘土で「自分の好きな乗り物」を自分の思いを大切にしながら表現する。</p> <p>そして次時に、画用紙でこれらの乗り物が走るまちをみんなで協力し合いながらつくる。</p> <p>各自がつくった乗り物とそれに相応しいまちづくりをテーマに、それぞれの考えや違いを相互に認め合いながら活動する課題追究型の授業である。</p> |
| <p><b>授業の条件</b></p> <p>○表現内容：紙粘土(500g程度)でつくる乗り物の大きさは、自分の手のひらに収まる大きさとする。</p> <p>まちは、予め画用紙を短冊状にきって、それらをみちにして組み合わせるなどしてつくる。時間内で使う画用紙の枚数は自由。</p> <p>○学習時間：135分</p> <p>○学習形態：個人(乗り物)・学級集団(まち)</p>  |   |   |

授業状況

|   |   |
|---|---|
|    |    |
| <p>*紙粘土で自分の好きな乗り物をつくる。</p>  | <p>*こんな乗り物ができたよ！</p>  |
|    |    |
| <p>*机や椅子を移動して、広い場所を作ろう。(今日の学習の場を自ら作り、認識する)</p>  | <p>*乗り物が走るまちを画用紙でつくる。</p>   |
|  |  |
| <p>*道と道が出会った！さあどうしよう！</p>   | <p>*どんどんまちが広がっていきます。</p>  |

(1年)【B 自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力/活動課題③】領域

活動名：私のつくった色紙で

—絵の具を塗ってつくったオリジナル色紙で切り絵にすると— (45分×4)

|   |  |   |
|---|--|---|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>子どもたちは表現することが大好きである。いままでの造形体験も豊富で、大変意欲的である。</p> <p>今後の課題としては、自主的、主体的な造形表現活動の喜びを知り、活動の意欲や積極性をさらに持つことにある。そのためにもより充実した造形表現活動の必要性がある。</p>   | <p><b>活動課題/授業課題</b></p> <p>③「自分らしさ」を、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりする力を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自主的、主体的な造形表現活動の喜びを知り、活動の意欲や積極性を持つ。</li> <li>「自分らしさ」を、或いは自らの造形的な課題を追究したり発見したりしようとする。</li> <li>表現対象/主題、表現材料/素材/造形要素、表現形式や様式、表現技法/用具などとの出会いから「自分らしさ」を追究、発見、表現する。</li> </ul> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>画用紙に様々な色の絵の具を塗ることをためすことで、主体的に造形表現活動する喜びを味わうことができたか。</li> <li>オリジナル色紙から、自分のつくりたい切り絵を考え、またそれに必要な色の紙を友だちのオリジナル色紙の中から探すなど、積極的に活動することができたか。</li> </ul> |
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ 表現活動の概要</p> <p>画用紙に様々な色の絵の具を塗って混色などを楽しみながら一枚の大きなオリジナル色紙をつくる。</p> <p>次にそのオリジナル色紙にある色や形から作りたい切り絵を考え、切り抜きをして切り絵をつくる。自分のオリジナル色紙にない色については、友だちから分けてもらい表現するなど、積極的に表現していくことで、自らの発想を具体的に追求していく。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現対象/主題 (何を)：人物や動物など、オリジナル色紙から具体的に発想したもの</li> <li>表現材料 (何で)：四切画用紙 (オリジナル色紙)、絵の具、のりなど</li> <li>表現形式 (どの様)：平面的</li> <li>表現様式 (どの様に)：主に具象的に</li> <li>表現技法/用具/知識 (どの様)：切り絵 (コラージュ)、色彩、形態</li> </ul> | <p><b>授業の方法</b></p> <p>まず画用紙に様々な色の絵の具を塗って混色などを楽しみながら一枚の大きな色紙をつくる。</p> <p>そして次時にそのオリジナル色紙にある色や形からつくりたい切り絵を考え、切り抜きをしてつくる。造形的な課題を主体的に追求し、自己表現する課題追究型の授業である。</p>   |   |
| <p><b>授業の条件</b></p> <p>○表現内容：四切画用紙に様々な色の絵の具を塗り、オリジナル色紙をつくる。<br/>：オリジナル色紙の色や形から発想したものを切り絵に表す。</p> <p>○学習時間：180分</p> <p>○学習形態：個人表現</p>  |  |   |



\*まず何色を塗ろうかな?

\*色をじょじょに薄くしてみる

\*オリジナル色紙ができたよ!

\*この様に切りぬくと...

\*切りぬいた色紙をのりで台紙にはってみる

\*お花の上を蝶が飛ぶ、素敵な作品ができました。

(1年)【B 自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力/活動課題④】領域

活動名：かみばこのまち

—持ち寄った紙箱を使って—

(45分×4)

|  |   |   |
|--|---|---|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>子どもたちは表現することが大好きである。これまでの造形体験も豊富で、大変意欲的である。しかしながらそれら一つひとつの体験を、個人の中でつなぎ合わせ、総合的なものへと昇華させるような充実した造形表現活動の必要性がある。</p>   | <p><b>活動課題/授業課題</b></p> <p>④総合的な造形表現活動を経験し、造形的な総合力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らが持っている造形的な知識や技能、或いは造形的なもの「見方」や「考え方」「関わり方」などの経験を場や状況、造形的な課題などに合わせて有機的、関係的、総合的に捉えて思考、分析、判断するなど、総合的な造形情報処理力を養う。</li> <li>・総合的な課題を持った造形表現活動を経験し、造形的な課題を発見、選択、決定、追究、解決、応用、発表するなど、総合的な造形表現力を養う。</li> </ul> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <p>○各々の思いを大切に、これまで培ってきた造形表現力を総合的にうまく発揮しながら、持ち寄った紙箱を組み合わせる、友だちとつなぐ、並べる、重ねるなどして、協力してまちをつくることができたか。</p> |
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ 表現活動の概要<br/>家から持ってきた紙箱で、まずそれぞれが思いつく建物をつくる。次にその建物を友だちとつなぎ合わせるなどして、クラスで一つの大きなまちを作り上げる。総合的な造形表現活動を行うことで、より充実した造形的な総合力を培う。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現対象/主題(何を)：建物、まちなど</li> <li>・表現材料(何で)：紙箱、色画用紙など</li> <li>・表現形式(どの様)：立体的</li> <li>・表現様式(どの様に)：具象的に</li> <li>・表現技法/用具/知識(どの様)：組み合わせる、つなぐ、並べる、重ねるなど(構造的な表現技法が問われる)</li> </ul> | <p><b>授業の方法</b></p> <p>各自、家から紙箱を持ってきて、それぞれが思いつく建物をつくる。またその建物を友だちとつなぎ合わせるなどして、クラスで一つの大きなまちを作り上げる。総合的な造形表現活動を行う、課題追究型の授業である。</p>  |   |
| <p><b>授業の条件</b></p> <p>○表現内容：紙箱などをつかって建物をつくり、それを組み合わせるまちをつくる。(紙箱は各自が用意する。なお色画用紙などは学校で準備する。)</p> <p>○学習時間：180分</p> <p>○学習形態：個人表現および集団表現、集団による相互鑑賞</p>   |   |   |



\*紙箱を組み合わせてみたよ。どんな建物ができるかな



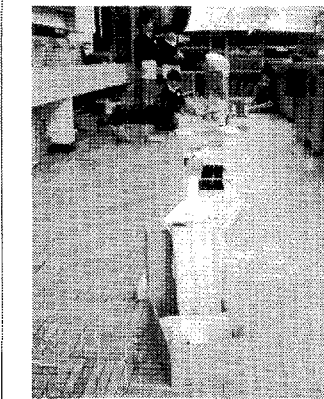
\*建物のなかには！



\*なかなか面白い建物が出来たよ！



\*つなげてみようよ！



\*すごく長いまちになってきたね！



\*みんなで楽しいまちが出来たね！



(1年) 【C 造形的な見方・考え方や造形感覚/活動課題⑤】領域

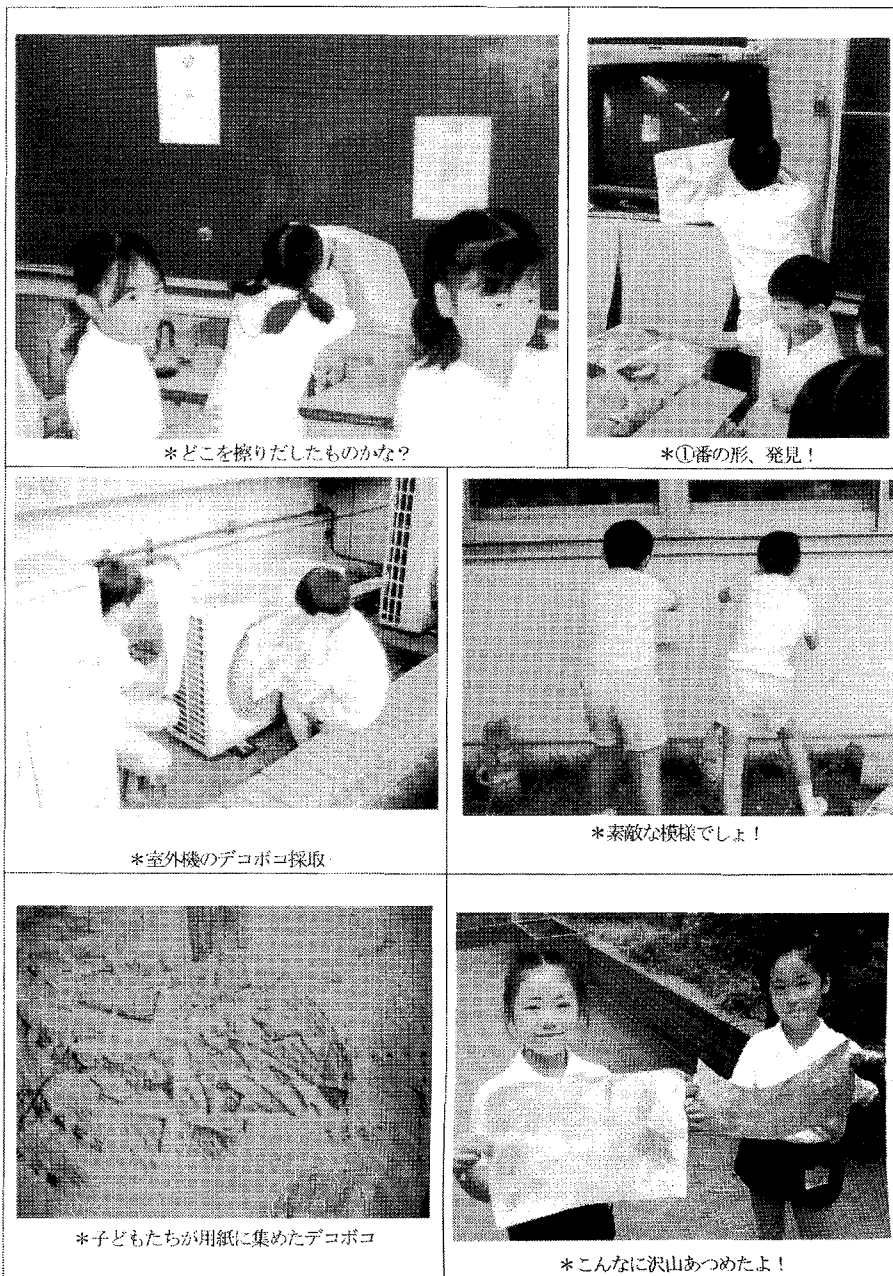
活動名：フロッターージュ刑事

—学校の中にある様々な形を見つけよう！—

(45分×2)

|  |  |  |
|--|--|--|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>私たちはただ漠然と様々なもの・ことについて認識しているのではなく、対象に関心を持ち、具体的に働きかけることによってはじめてその対象を認識する。子どもたちは様々なものに興味関心を示しながら生活しているが、より深く対象に関わるために、造形的な活動をとおり、ものの見方や考え方、造形感覚を培う必要がある。</p>  | <p><b>活動課題/授業課題</b></p> <p>⑤造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>造形的な要素として色彩や形態、材質を捉え、それらの特性や法則性、相互の関係性など、造形的なものの「見方」や「考え方」、「発想方法」などを思考し、造形感覚を養う。</li> <li>表現素材としての色彩や形態、材質の特性や法則性、相互の関係性などを捉え、表現形式や様式、表現材料/素材や表現技法、用具などと関連させ、それらを生かした表現を追究することから造形的なものの「見方」や「考え方」、「発想方法」などを思考し、造形感覚を養う。</li> </ul> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <p>○学校の中にある様々なものに、フロッターージュ(こすりだし)することで働きかけ、そこに浮かび上がった、造形的な要素としての形態などをみることから、その特性や法則性など、造形的なものの「見方」について、思考することができたか。</p> |
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ 表現活動の概要</p> <p>教室のなかの教力所を事前にフロッターージュしておき、そのフロッターージュした場所を探すゲームを授業の導入として行う。</p> <p>次に学内の壁や机など、様々なものをフロッターージュすることで、造形的な要素としての形態を捉え、また材質と浮かび上がる形態の関係などに気付くことで造形的なものの「見方」などを思考し、造形感覚を養う。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現対象/主題(何を)：様々なものを擦りだした形</li> <li>表現材料(何で)：色鉛筆、4切版画用紙</li> <li>表現形式(どの様)：平面的</li> <li>表現様式(どの様に)：フロッターージュ(擦りだし)</li> <li>表現技法/用具/知識(どの様に)：さまざまな凹凸を版画用紙に色鉛筆でフロッターージュする。</li> </ul> | <p><b>授業の方法</b></p> <p>教室のなかの教力所を事前にフロッターージュしておき、そのフロッターージュした場所を探すゲームを授業の導入として行う。そして次に学内の壁や机など、様々なものをフロッターージュすることで、造形的な要素としての形態を捉え、また材質と浮かび上がる形態の関係などに気付くことで造形的なものの「見方」に触れる、児童中心型の授業である。</p>   |  |
| <p><b>授業の条件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表現内容：色鉛筆で学校の壁などの表面を版画用紙にフロッターージュし、様々な形態を集める。</li> <li>○学習時間：90分</li> <li>○学習形態：個人表現、集団鑑賞</li> </ul>  |  |  |

授業状況



活動名：音声多重式鑑賞

－「音」を切り口に、絵画を鑑賞する－（45分）


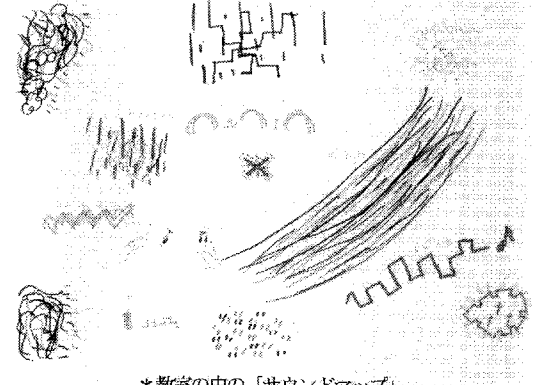
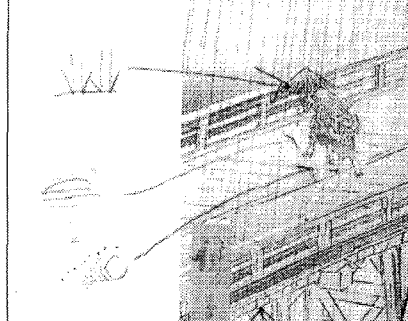
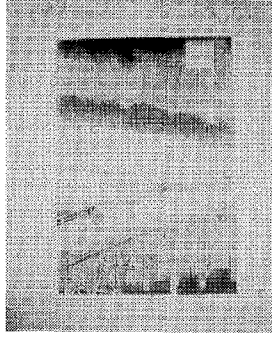

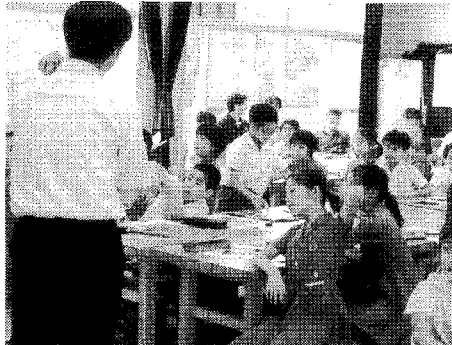
|  |  |  |
|--|--|--|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>子どもたちはいつも大変意欲的に表現し、造形体験も豊富である。しかしながら造形文化への興味や関心となると、必ずしも意欲的でない。子どもたちの造形的な「見方」や「考え方」を深めるためにも充実した鑑賞活動が必要である。</p> | <p><b>活動課題/授業課題</b></p> <p>⑥造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的、文化的に必要な造形文化や美術史を知り、それらを通じたものの「見方」や「考え方」「生き方」に気づく。</li> <li>造形文化や美術史から自らの造形的な価値観を培う。</li> </ul> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <p>○「音」を切り口として、作品に興味関心を持って接し、造形文化やその歴史を知ることで、それらを通じたものの「見方」や「考え方」「生き方」などに気づくことができる。</p> |
|--|--|--|

|   |
|---|
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ <b>表現活動の概要</b></p> <p>「サウンドマップ」とは、聞こえた音を色や形で紙に記録するネイチャーゲームの一つである。この活動では、導入にこの「サウンドマップ」の活動を取り入れ、音に興味を示されたところで、歌川広重の「大はしあたけの夕立」を画像で鑑賞する。具体的な作品との接し方を導入で体験していることで、子どもたちは心を開いて対象に関わり、想像したことを語ってそれぞれの思いを共有させる。</p> <p>○ <b>表現内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現対象/主題 (何を)：絵の中から見つけたり想像したりしたこと</li> <li>表現材料 (何で)：造形的な言語</li> <li>表現形式どの様)：－</li> <li>表現様式 (どの様に)：－</li> <li>表現技法/用具/知識 (どの様)：造形文化、美術史など</li> </ul> |
|---|

|  |
|--|
| <p><b>授業の方法</b></p> <p>はじめに教室の中で静かに耳を澄まし、そこで聞こえる音の「サウンドマップ」を表す。音に興味を示されたところで、歌川広重の「大はしあたけの夕立」を画像でみせて、その作品の中にある「音」を想像させる。(コピーした者を配布し書き込みさせる) いろいろな考えが出てきたところで、対話型鑑賞活動を行い、それぞれの発想を共有させる。</p> |
|--|

|   |
|---|
| <p><b>授業の条件</b></p> <p>○表現内容：歌川広重の「大はしあたけの夕立」を見ることで、そこから見つけたり考えたり想像したりしたこと、造形的な言葉で表現する。</p> <p>○学習時間：45分</p> <p>○学習形態：個人表現、集団鑑賞</p> |
|---|

授業状況

|  |  |
|--|--|
| <p>*教室の中の音に耳を傾ける</p>                                        |  <p>*教室の中の「サウンドマップ」</p>                   |
| <p>*作品の中から聞こえてきた雨の音を、その違いの注目しながら記述する。</p>                   |  <p>*作品の中から聞こえてきた「音」をサウンドマップの方法で記録する。</p> |
| <p>*作品を見て、作品の中から聞こえてきた音や、見つけたこと、考えたこと、想像したことなどを発表する。</p>  | <p>*友だちの発表したことを聞いて共有する。</p>             |

## 2学年 カリキュラム編成における「活動課題領域」の実践例

### A 【心の開放と自分理解、相互理解】領域

→「他との関係の中に『自分らしさ(Identity)』を求め、人間的な自立を促す。」

#### ① 造形表現活動の快さや楽しさを体験し、心を開く。

実践例 ① 活動名 虫になって描いてみたら！

－全体全体をはたらかせて気持ちよく描く－

#### ② 造形表現活動をとおして相互理解、人間理解を図る。

実践例 ② 活動名 つづきえ どんどん

－細長い紙を友だちとつなぎながら描く－

### B 【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域

→「自主的、主体的、創造的に表現すること。」

#### ③ 「自分らしさ」を、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりする力を培う。

実践例 ③ 活動名 つなげて、つなげて、ひらめいて！

－短冊形の色紙をつなぐことから発想する造形あそび－

#### ④ 総合的な造形表現活動を経験し、造形的な総合力を養う。

実践例 ④ 活動名 おみせやさんをひらこう！

－友だちといっしょに計画、活動することを楽しむ－

### C 【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域

→「造形的なものの見方や考え方、造形感覚や感性を培う。」

#### ⑤ 造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。

実践例 ⑤ 活動名 紙を立てたら楽しいことが

－紙を折って立てた形のおもしろさをきっかけにして－

#### ⑥ 造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。

実践例 ⑥ 活動名 紋きりにチャレンジ！

－江戸から伝わる紙切り工作にふれる－

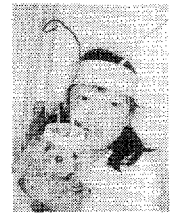
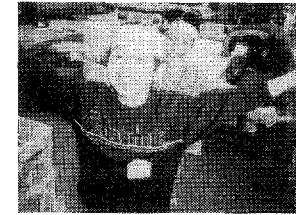
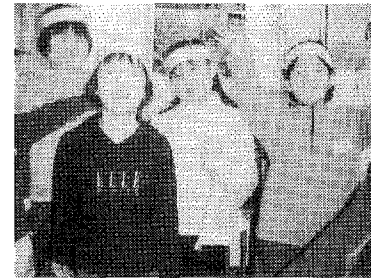
## ○カリキュラム編成における各学年の「課題要素／活動課題・表現内容領域」の配当割合

| 課題要素領域／活動課題領域               | 表現内容 (表現主題／表現形式) |             |     |     |
|-----------------------------|------------------|-------------|-----|-----|
|                             | 心象的表現 (50%)      | 適応的表現 (50%) |     |     |
|                             | 平面／半立体／立体        | 平面／半立体／立体   |     |     |
| 課題要素領域／活動課題領域               | 低学年              | 中学年         | 高学年 | 中学  |
| A 【心の開放と自分理解、相互理解】領域        |                  |             |     |     |
| (1) 「造形表現活動の快さと心の開放」領域      | 40%              | 30%         | 20% | 20% |
| (2) 「造形表現活動をとおした相互理解」領域     | 5%               | 10%         | 15% | 15% |
| B 【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域 |                  |             |     |     |
| (3) 「自分らしさの追究、発見、表現」領域      | 20%              | 20%         | 20% | 20% |
| (4) 「造形表現活動の総合力」領域          | 5%               | 10%         | 15% | 15% |
| C 【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域       |                  |             |     |     |
| (5) 「造形的な見方・考え方と造形感覚」領域     | 20%              | 20%         | 20% | 20% |
| (6) 「知識・技能と造形文化」領域          | 10%              | 10%         | 10% | 10% |

みんなで虫になってみました!

はばたき練習中

ぬいぐるみも虫になっちゃった!



(2年) 【A 心の開放と自分理解、相互理解/活動課題①】領域

活動名：虫になって描いてみたら!

— 体全体をはたらかせて気持ちよく描く —

(45分×2)

| 児童・生徒の実態  | 活動課題/授業課題   | 評価と評価の方法  |
|---|---|---|
| <p>明るく、元気な児童が多い。楽しいことや新しいことが好きで、与えられた課題には意欲的に取り組める。</p> <p>反面、自分から発見することや疑問点を引き出すことはあまりない。集団のリーダーの意見に引きずられやすいので、一人ひとりの自立を促す必要がある。</p> | <p>① 造形表現活動の快さや楽しさを体験し、心を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いや表現を自信を持って他に伝える喜びを味わう。(自己実現、相互理解)</li> <li>造形表現活動の快さや楽しさをきっかけに、心を開いて表現する。(自己表出、開放、肯定)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>「虫になったら」をテーマに、自分の考えや思いをもち、自信をもって他に伝えようとしたか。</li> <li>テーマに対し、自分なりに体全体を働かせて表現し、積極的に表現することを楽しもうとしたか。</li> </ul> |

↓↑

↓↑

| 授業/表現の内容  | 授業の方法  |
|---|--|
| <p>○ 表現活動の概要</p> <p>「自分が虫になったらどんなものがどの様に見えるかな?」という問いかけをきっかけに発想し、描きたいものについて、自分なりにをテーマにもつ。</p> <p>自分の考えや思いを素直に表現する快さで心を開いて積極的に表現し、自分の表現は自分の思いが中心にあるという考えに気づき、自信をもって自己表現する活動を楽しむ。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現対象/主題 (何を): 「自分が虫になったら見えるもの」をテーマにした、自分の思い、考え。</li> <li>表現材料 (何で): クレヨン、カラーペン、(何に): ロール紙 (大きい画用紙) にみんなで描く。</li> <li>表現形式 (どの様に): 平面的に</li> <li>表現様式 (どの様に): 主に具象的に</li> <li>表現技法/用具/知識: 描画材による線描、色を塗るなど。使い慣れた描画材を自由を使う。</li> </ul> | <p>「自分が虫になったら、どんなものがどのように見えてくるか?」をテーマにして、自分で思いついたことを、体全体をよく働かせて、大きな画用紙にのびのびと絵に表すことを楽しむ活動である。</p> <p>自分の思いや表現を自分なりに積極的に表していく、課題追究型の授業である。</p> |

↓↑

↓↑

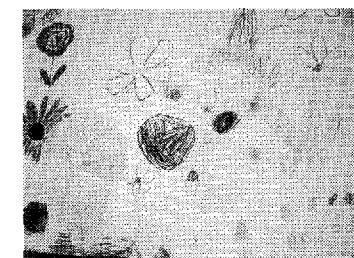
| 授業の条件  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現内容: クレヨンなど使い慣れた描画材料を使う。ロール状の大きな画用紙を使用し、体全体を良く働かせて表現させる。</li> <li>○ 学習時間: 90分</li> <li>○ 学習形態: 個人表現、グループでの表現、集団鑑賞</li> </ul> |



大きな大きなお花です

どんどん描けるよ

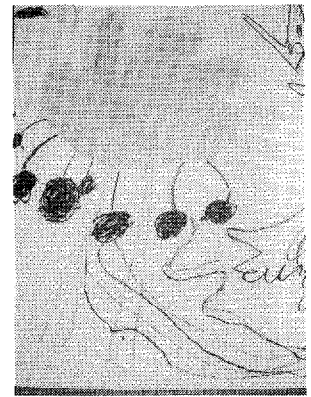
空をとんで、いろんな所に行ってみたいな! 山を越え、谷を越えて...



花畑、はちみついっぱいあるかな?



2-①-2



おいしい果物の木みつけた!



(2年) 【A 心の開放と自分理解、相互理解/活動課題②】領域

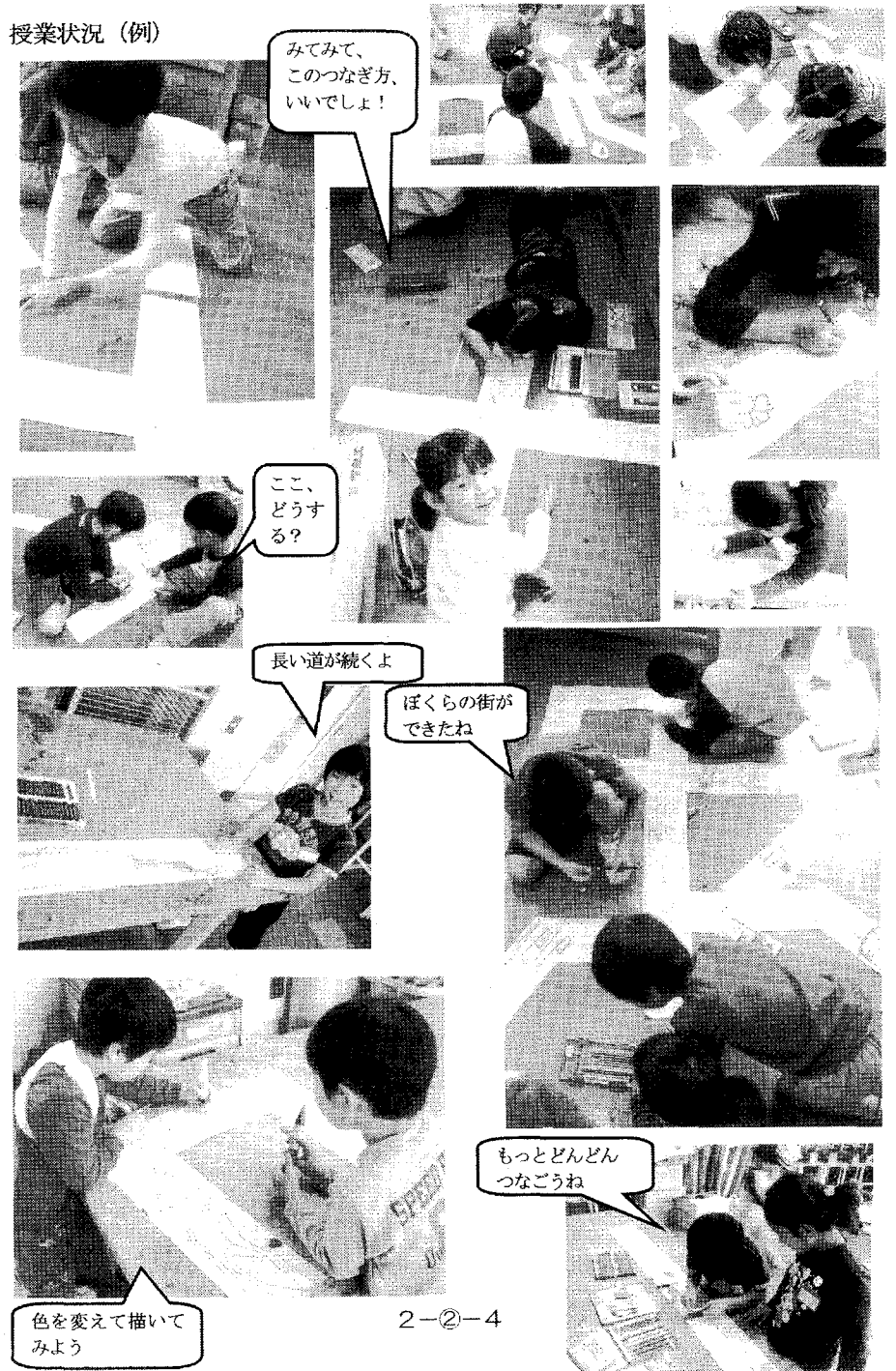
活動名：つづきえ どんどん

—細長い紙を友だちとつなぎながら描く—

(45分×2)

|  |   |  |
|--|---|--|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>明るく、元気な児童が多い。楽しいことや新しいことが好きで、与えられた課題には意欲的に取り組める。</p> <p>反面、自分から発見することや疑問点を引き出すことはあまりない。集団のリーダーの意見に引きずられやすいので、一人ひとりの自立を促す必要がある。</p>   | <p><b>活動課題/授業課題</b></p> <p>②造形表現活動をおして相互理解、人間理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>紙をつなぎながら描くことから、造形的なもの「見方」や「考え方」「感じ方」、或いは表現の違いなどに気づき、それらがそれぞれの「自分らしさ」につながることに気づく。</li> <li>友だちの考えや自分とのちがいを相互に認め合い、協力し、ともに高めあおうとする。</li> </ul> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○紙をつなぐことから発生する造形的なもの「見方」や「考え方」、感じ方の違いから表現の違いが生まれ、それが、それぞれの「よさ」や「自分らしさ」であることに気づいたか。</li> <li>○自分と友だちの感じ方や表現の違いを尊重しあうことから共に高めあうことができたか。</li> </ul> |
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ 表現活動の概要<br/>紙をつないだ形から思いつくことには、様々な造形的な見方や考え方があることに気づき、その表現の違いをそれぞれの「自分らしさ」として追究していく。そしてその表現を互いに認め合い、尊重しあうことで相互理解を図る。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現対象/主題(何を)：つないだ紙の形から思いついたこと</li> <li>・ 表現材料(何で)：クレヨン、色えんぴつ、カラーペンなど使い慣れた描画材料(何に)：細長く切った画用紙。つなぎながら絵を描くため、十分使えるように用意する。つなぐための両面テープなど</li> <li>・ 表現形式(どの様に)：平面的に、或いは半立体的に</li> <li>・ 表現様式(どの様に)：主に具象的に</li> <li>・ 表現技法/用具/知識：描画材料による線描、色を塗る、異なる材料(例えばその他の紙など)を貼る、その他自分の方法を見つけながら。</li> </ul> |   | <p><b>授業の方法</b></p> <p>細長い紙を友だちとつなぐことをテーマに、思ったことや考えたことを描いていきながら、つなぎ方や描画材料、その他表し方を共に試行錯誤していく課題追究型の授業である。</p>  |
| <p><b>授業の条件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現内容：細長く切った紙をつなぎ絵を描くことを中心に、平面的、或いは半立体的に表す。</li> <li>○ 学習時間：90分</li> <li>○ 学習形態：個人表現、グループ表現、集団鑑賞</li> </ul>  |   |  |

授業状況(例)



(2年)【B 自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力/活動課題③】領域

活動名：つなげて、つなげて、ひらめいて！

—短冊形の色紙をつなぐことから発想する造形あそび— (45分×2)

| 児童・生徒の実態  | 活動課題/授業課題  | 評価と評価の方法   |
|---|--|--|
| <p>明るく、元気な児童が多い。楽しいことや新しいことが好きで、与えられた課題には意欲的に取り組める。</p> <p>反面、自分から発見することや疑問点を引き出すことはあまりない。集団のリーダーの意見に引きずられやすいので、一人ひとりの自立を促す必要がある。</p> | <p>③「自分らしさ」を或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりする力を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「短冊形の紙をつないでどんなことをしてみたいか」、という課題に自分から主体的に関わり、造形表現活動の喜びを知り、活動の意欲や積極性をもつ。</li> <li>造形的な課題に合わせて自ら追究し、自己決定、自己選択しようとする。</li> </ul> | <p>○材料や課題に対して自分のめあてをもち、自分ならどのように表現するか意欲的、積極的に取り組み、活動を楽しもうとする。</p> <p>○短冊形の紙をつなぐということから発想して、様々な試行錯誤し、自分なりに表現しようとする。</p> |

↓↑

↓↑

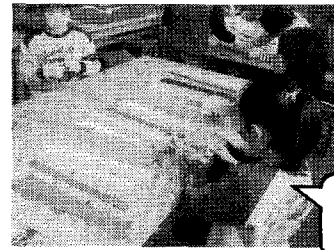
| 授業/表現の内容  | 授業の方法  |
|---|--|
| <p>○ 表現活動の概要</p> <p>短冊形の色画用紙をつなぐことでどのようなことができるか、自分なりにめあてをもって表現する造形遊びの活動である。</p> <p>「短冊形の紙」という材料と「つなぐ」という表し方を軸にして、自分のテーマと方法を見つけながら造形的な表現を追究し、その活動そのものを大切なこととしてとらえていくようにする。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現対象/主題 (何を)：自分なりの考え、めあて、テーマ</li> <li>表現材料 (何で)：短冊形に切った色画用紙</li> <li>表現形式 (どの様に)：平面的に、半立体的に、立体的に</li> <li>表現様式 (どの様に)：具象的、抽象的、装飾的、象徴的</li> <li>表現技法/用具/知識：紙をつなぐ、折る、丸める、重ねる、貼り合わせる、組む、切る、ちぎる、紙に描く、異なる材料を付け加える、その他自分の方法を見つけながら。</li> </ul> | <p>「短冊形の色画用紙」、「つなぐ」という材料と造形行為をテーマに発想を促し、自分なりのめあてをもって選択、決定、表現していく課題追究型の授業である。</p> |

↓↑

↓↑

| 授業の条件   |
|---|
| <p>○ 表現内容：短冊形の紙をつなぐことを中心の活動として、平面的あるいは立体的に表現する。教室の範囲内で場を自由に使い、活動に広がりをもたせる。</p> <p>○ 学習時間：90分</p> <p>○ 学習形態：個人表現、グループ表現、集団鑑賞</p> |

授業状況 (例)



ぼくはこの色がいいな!



試してみよう!



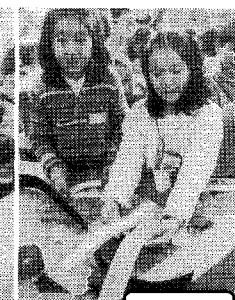
長く...



輪でつないで...



折って...



重ねて...



地球かな?!



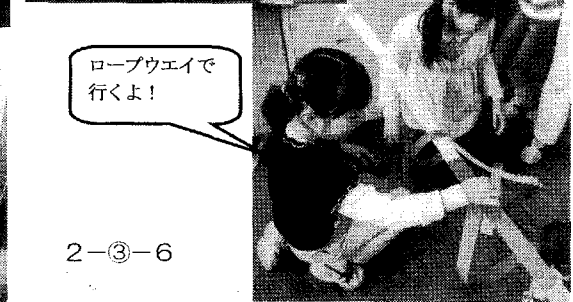
わーい、お花に大変身!



てすりにも...



壁だってステキに変身!...



ロープウェイで行くよ!

2-③-6

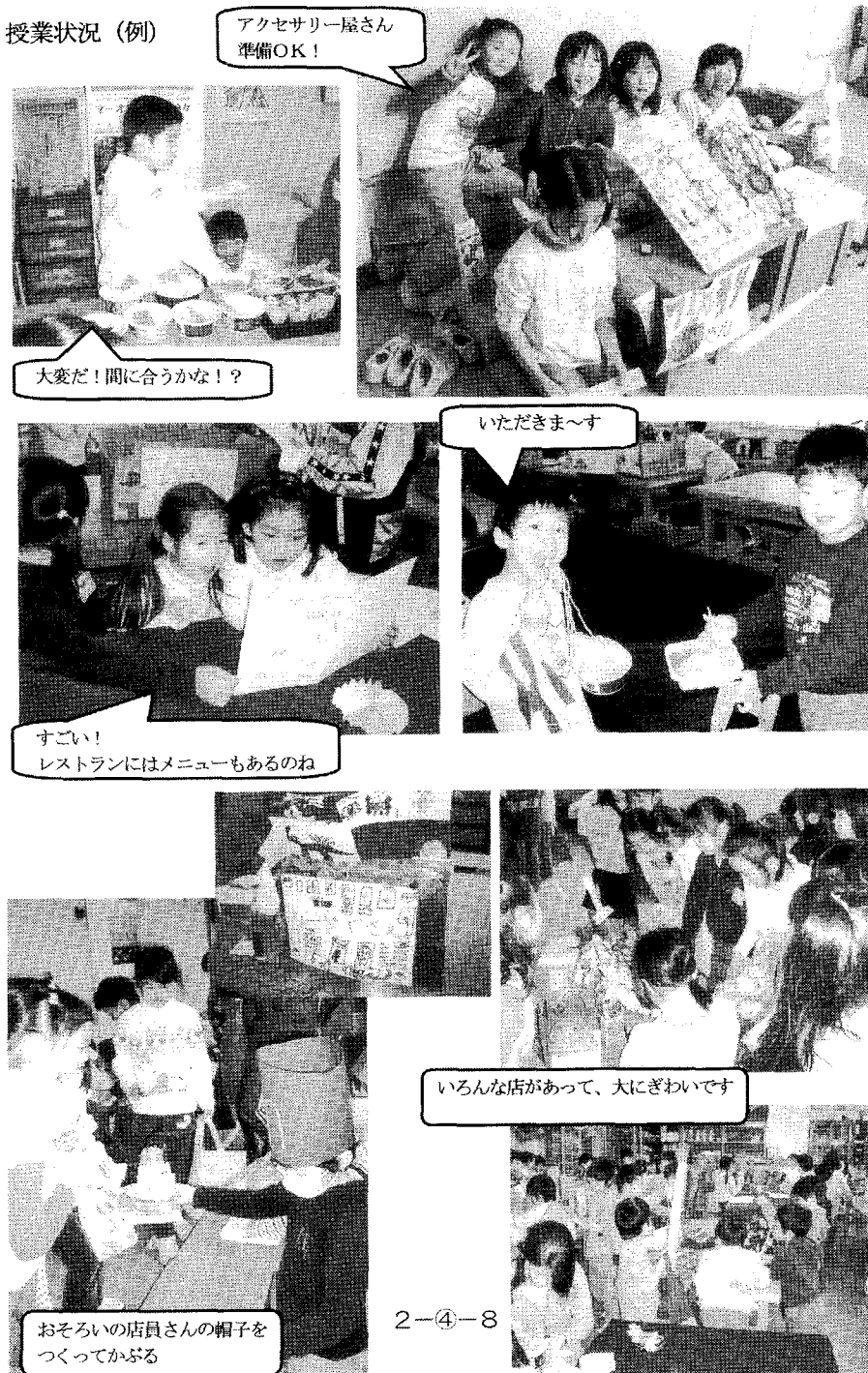
(2年)【B 自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力/活動課題④】領域

活動名：おみせやさんをひらこう！

— 友だちといっしょに計画、活動することを楽しむ — (45分×8)

|  |   |  |
|--|---|--|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>明るく、元気な児童が多い。楽しいことや新しいことが好きで、与えられた課題には意欲的に取り組める。</p> <p>反面、自分から発見することや疑問点を引き出すことはあまりない。集団のリーダーの意見に引きずられやすいので、一人ひとりの自立を促す必要がある。</p>   | <p><b>活動課題/授業課題</b></p> <p>④総合的な造形表現活動を経験し、造形的な総合力を養う。</p> <p>・友だちと協力しておみせやさんを開く計画をたて、店の品物を工夫してつくるなどの造形表現活動をおし、その企画、材料収集、実践などの造形的な課題を、自らが持っている知識、技能、考え方を生かして、発見、選択、決定、追究、解決、応用、発表するなど、総合的な造形表現力を養う。</p> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <p>自分たちの開きたいおみせを考え、友だちと協力して計画、実践しながら、自らが持っている知識、技能、考え方などを総合的に働かせながら、品物やおみせに関するものやことを表現、発表することができたか。</p> |
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ 表現活動の概要<br/>小グループをつくり、それぞれで相談、調整しながら開きたい店を決める。必要な品物やその他自分たちなりに考えたものづくり、楽しいお店やさんをひらくために、これまでの経験を生かして、発見、選択、決定、追究、解決、応用、発表するなどして、総合的な造形表現力を追究していく。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現対象/主題 (何を)：自分たちの開きたい店、その品物など</li> <li>・ 表現材料 (何で)：身近にある材料を選択、工夫して使う。</li> <li>・ 表現形式 (どの様に)：立体的に</li> <li>・ 表現様式 (どの様に)：主に具象的に</li> <li>・ 表現技法/用具/知識：自分たちで相談しながら、方法を見つけていく。</li> </ul> |   | <p><b>授業の方法</b></p> <p>「自分たちで開きたい店」はどんな店をテーマに、あると思う品物やその他必要なものをグループで協力してつくりながら、自らの表現を試行錯誤していく、課題追究型の授業である。</p>                 |
| <p><b>授業の条件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現内容：身近材料を中心に、立体的な具象表現</li> <li>○ 学習時間：8時間</li> <li>○ 学習形態：グループ活動表現、集団鑑賞</li> </ul>   |   |  |

授業状況 (例)



(2年) 【C 造形的な見方・考え方と造形感覚/活動課題⑤】領域

活動名：紙を立てたら楽しいことが

一紙を折って立てた形のおもしろさをきっかけにして— (45分×3)

|  |  |  |
|--|--|--|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>明るく、元気な児童が多い。楽しいことや新しいことが好きで、与えられた課題には意欲的に取り組める。</p> <p>反面、自分から発見することや疑問点を引き出すことはあまりない。集団のリーダーの意見に引きずられやすいので、一人ひとりの自立を促す必要がある。</p> | <p><b>活動課題/授業課題</b></p> <p>③「自分らしさ」を、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりする力を培う。</p> <p>・造形的な課題や自分の思いからめあてをもち、主体的に表現する。</p> <p>⑤造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。</p> <p>・造形的な要素として色彩や形態、材質を捉え、それらの特性や法規性、関係性など、造形的なものの見方や考え方、発想方法などを思考し、造形感覚を養う。</p> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <p>○ 紙を折る、切る、立てるなど、その形態の面白さや特徴をいかして造形表現を楽しみながら、造形的なものの見方や考え方、発想方法など造形感覚を養うことができたか。</p> <p>○ 造形的な課題や自己のめあてを主体的に追究したり表現したりできたか。</p> |
|--|--|--|



|  |  |
|--|--|
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ 表現活動の概要</p> <p>紙を折る、切る、立てるなどの造形的な要素をいかして表現することを楽しみながら、そこから発想して自分の思いを広げて自分なりのテーマを持ち、それらを自分のめあてとして自己表現していくことを追究する。表現には、決められた方法があるのではなく、自分の表現を追求するために自由に行うことができるという見方や考え方をもつようにする。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現対象/主題(何を)：紙を折って立てた形から発想したもの。自分なりの思いや考え。</li> <li>・ 表現材料(何で)：厚紙、色画用紙、のり、その他主に紙類</li> <li>・ 表現形式(どの様に)：立体的に</li> <li>・ 表現様式(どの様に)：具象的、デザイン的に</li> <li>・ 表現技法/用具/知識：紙を折る、切る、立てる、貼る、異なる種類の紙などを付け加える、その他自分の方法を見つけながら。</li> </ul> | <p><b>授業の方法</b></p> <p>「紙を折って、切って、立てたら、どんなものができたかな？その形からどんなことを思いついたかな？」の問いかけから発想したことを自分のテーマに、材料としての厚紙やその他に主に紙類を使い、必要に応じた材料や用具を選択しながら、自分なりの表現を追究していく、課題追究型の授業である。</p> |
|--|--|



|   |
|---|
| <p><b>授業の条件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現内容：厚紙を中心材料に、立体的な具象、或いはデザイン的な表現として画用紙の台紙程度の大きさに表現する。</li> <li>○ 学習時間：3時間</li> <li>○ 学習形態：個人表現、集団鑑賞</li> </ul> |
|---|

授業状況(例)



どんな折り方がいいかな!

それ、いいね!

はさみで切って、窓をたくさん開けたら楽しくなってきたよ

折って、切っただけで、こんなのできたよ

あ〜そうやったんだ!なるほど、なるほど

どうやって立てようかな!?

切って...

折って...

2-⑤-10

私のお城です。ピアノもブランコもあるよ



(2年) 【C造形的な見方・考え方と造形感覚/活動課題⑥】領域

活動名：紋切りにチャレンジ！

—江戸から伝わる紙切り工作にふれる—

(45分×2)

| 児童・生徒の実態  | 活動課題/授業課題   | 評価と評価の方法   |
|---|---|--|
| <p>明るく、元気な児童が多い。楽しいことや新しいことが好きで、与えられた課題には意欲的に取り組める。</p> <p>反面、自分から発見することや疑問点を引き出すことはあまりない。集団のリーダーの意見に引きずられやすいので、一人ひとりの自立を促す必要がある。</p>   | <p>⑥造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代から伝わる造形文化にふれ、それらを通したものの「見方」や「考え方」に気づく。</li> <li>色紙とはさみを用い、様々な紋型を切り取ることから、主体的、創造的に表現するための造形的な知識や技能を身につける。</li> </ul> | <p>○ 江戸時代から伝わる紋きりの型を使いながら、伝統文化にふれ、型のデザインや名称に表された造形の「見方」「考え方」に気づいたか。</p> <p>○ 色紙をはさみでていねいに切り取りながら、主体的、創造的に表現するための技能を身につけたか。</p> |
| ⇕⇕  |   | ⇕⇕   |
| 授業/表現の内容  | 授業の方法   |  |
| <p>○ 表現活動の概要</p> <p>江戸時代から伝わる紋きりの技法を取り入れ、はさみを用いて色紙をていねいに切ることができるようにする。</p> <p>折って切ったあと広げてできる紋型やその名称の面白さから、造形文化にふれ、それらを通したものの「見方」「考え方」に気づくようにする。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現対象/主題 (何を)：伝統的に伝わる代表的な紋型</li> <li>表現材料 (何で)：色紙、それを切るものとしてのはさみ、紋型の型紙</li> <li>表現形式 (どの様に)：平面的に</li> <li>表現様式 (どの様に)：自然などをモチーフにしたデザイン的表現で</li> <li>表現技法/用具/知識：折った色紙に型紙をあてて切り、広げることができる形</li> </ul> | <p>あらかじめ用意した伝統的な紋きりの型紙や切ってみたデザインの中から、好みや技能にあわせて型紙を選ばせる。</p> <p>それらの型紙を合わせて表現させ、紙の折り方や切り取り方を指導する教師指導型の授業である。</p>   |  |
| ⇕⇕  |   | ⇕⇕   |
| 授業の条件   |   |  |
| <p>○ 表現内容：色紙を材料にして、平面的に表す。伝統的な型紙を使用するが、切り取る色紙は自分の好みのもので使うこともできるので、選択して使う。</p> <p>○ 学習時間：90分</p> <p>○ 学習形態：個人表現、集団鑑賞</p>   |   |  |

授業状況 (例)

1. はじめに型を選んでね

2. 型と色紙をあわせて…

3. はさみでていねいに切ります。

うまく切れるかな

大成功！

「雪」をもとに作られた型なんだって。きれいでしょ！

みんなで集めて、ミニ展覧会だね

### 3学年 カリキュラム編成における「活動課題領域」の実践例

#### A 【心の開放と自分理解、相互理解】領域

→「他との関係の中に『自分らしさ(Identity)』を求め、人間的な自立を促す。」

- ① 造形表現活動の快さや楽しさを経験し、心を開く。

実践例 ① 活動名 えのぐ大好き！すきなかんじに、気持ちよく  
—絵の具をぬる心地よさを十分に味わい、楽しむ活動—

- ② 造形表現活動をとおして相互理解、人間理解を図る。

実践例 ② 活動名 つないで・つながって・広がって  
—画用紙から作った形を友達とつなぎながら、発想をひろげる—

#### B 【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域

→「自主的、主体的、創造的に表現すること。」

- ③ 「自分らしさ」を、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりする力を培う。

実践例 ③ 活動名 金あみのへんしん！  
—金網と身近な材料の組み合わせから想像力を広げて—

- ④ 総合的な造形表現活動を経験し、造形的な総合力を養う。

実践例 ④ 活動名 でんせつの島 キラキラ・ハッピーアイランド  
—金網を変形させた形から想像を広げ思いついたものを工夫して表す—

#### C 【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域

→「造形的なものの見方や考え方、造形感覚や感性を培う。」

- ⑤ 造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。

実践例 ⑤ 活動名 いろ色あつめて、何になる？！  
—身の回りの好きな色を見つけ、並べ方を工夫する活動—

- ⑥ 造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。

実践例 ⑥ 活動名 しっくいシーサー  
—沖縄の伝統的な素材にふれ、表現を楽しむ—

#### ○カリキュラム編成における各学年の「課題要素／活動課題・表現内容領域」の配当割合

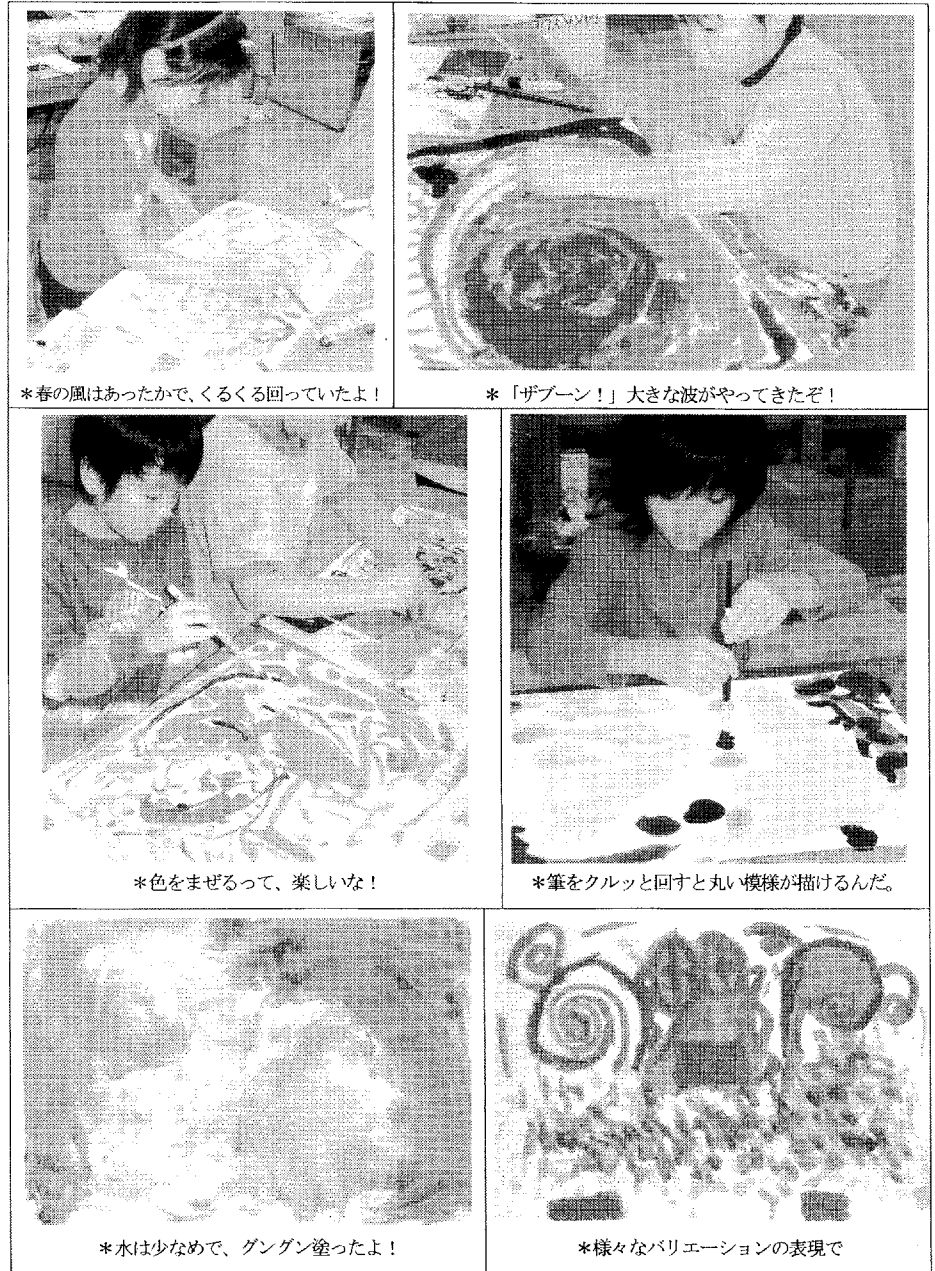
| 課題要素領域／活動課題領域               | 表現内容領域 |     | 表現内容 (表現主題／表現形式) |     |             |  |
|-----------------------------|--------|-----|------------------|-----|-------------|--|
|                             |        |     | 心象的表現 (50%)      |     | 適応的表現 (50%) |  |
|                             |        |     | 平面／半立体／立体        |     | 平面／半立体／立体   |  |
| 課題要素領域／活動課題領域               | 低学年    | 中学年 | 高学年              | 中学  |             |  |
| A 【心の開放と自分理解、相互理解】領域        |        |     |                  |     |             |  |
| (1) 「造形表現活動の快さと心の開放」領域      | 40%    | 30% | 20%              | 20% |             |  |
| (2) 「造形表現活動をとおした相互理解」領域     | 5%     | 10% | 15%              | 15% |             |  |
| B 【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域 |        |     |                  |     |             |  |
| (3) 「自分らしさの追究、発見、表現」領域      | 20%    | 20% | 20%              | 20% |             |  |
| (4) 「造形表現活動の総合力」領域          | 5%     | 10% | 15%              | 15% |             |  |
| C 【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域       |        |     |                  |     |             |  |
| (5) 「造形的な見方・考え方と造形感覚」領域     | 20%    | 20% | 20%              | 20% |             |  |
| (6) 「知識・技能と造形文化」領域          | 10%    | 10% | 10%              | 10% |             |  |

活動名：絵の具だいすき！ すきなかんじに気もちよく

—絵の具を塗る快さを感じて描く表現活動—

(45分×2)

|   |  |   |
|---|--|---|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>絵の具を自由に使いながら絵筆（新しい画材との出会い）で心地よさや楽しさを体験することは、3年生にとって極めて大切である。</p> <p>児童は水彩絵の具の特性に触れ、色の美しさや表現の広がりを楽しみながら、心を開いて自分らしさに気づいていく。</p>   | <p><b>活動課題/授業課題</b></p> <p>①造形表現活動の快さや楽しさを体験し、心を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的材料による造形活動の快さや楽しさを知る。</li> <li>・心を開いて表現できる。（自己開放）</li> </ul> <p>②造形表現活動とおして相互理解、人間理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現や感じ方の違いなどに気づき、それらがそれぞれの「自分らしさ」につながることに気づく。</li> </ul> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○好きな色を選んだり、絵筆を自由に動かしたり、使い方を工夫したりしながら、心を開いて造形表現活動を楽しむことができたか。</li> <li>○できあがった作品から自分の好きな色や、好きな感じに気づき、それが「自分らしさ」であることに気づいたか。</li> </ul> |
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ 表現活動の概要</p> <p>好きな色を選んで伸び伸びと表現することは楽しいことに気づき、色を選ぶ、水で溶く、絵筆で伸び伸びと塗るという行程を、水彩絵の具の特性に触れながら「自分らしさ」に気づいていく。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現対象：空想 / 主題：好きな色を心地よく</li> <li>・表現材料：画用紙（八つ切り～全紙）、水彩絵の具、筆、筆洗バケツ</li> <li>・表現形式：平面的に</li> <li>・表現様式：主に抽象的に</li> <li>・表現技法/用具/知識：絵の具の濃淡、混色、絵筆の大きさや圧力による表現の違いに気づく。</li> </ul> | <p><b>授業の方法</b></p> <p>「好きな色で気持ちよく、楽しく描いてみよう！」をテーマに、「風」「季節」「音」「波」などの声かけを通して、抽象的なイメージやリズムに子どもが浸れるような支援を行う。水彩絵の具を自由に選んで、伸び伸びと描きながら、濃淡・混色などの絵の具の美しさに気づき、楽しみながら自分自身の良さに気づいていく、課題追究型の授業である。</p>   |   |
| <p><b>授業の条件：（表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など）</b></p> <p>○表現内容：絵の具を筆でぬる（ペインティング）の心地よさを感じる。色彩そのものもつ色の美しさを知る。絵の具の色の組み合わせから感じる色のハーモニーの美しさに気づく。偶然に（あるいは意図的に）できた形の面白さから刺激を受けたりしながら楽しむ。</p> <p>○指導体制：上記の内容が活動内で出来るよう、十分な画用紙・絵の具・大小様々な筆等を準備しておく。</p> <p>○学習時間：45分×2</p> <p>○学習形態：個人表現・個人鑑賞</p>   |  |   |



\*春の風はあったかで、くるくる回っていたよ！

\*「ザブーン！」大きな波がやってきたぞ！

\*色をまぜるって、楽しいな！

\*筆をクルッと回すと丸い模様が描けるんだ。

\*水は少なめで、グングン塗ったよ！

\*様々なバリエーションの表現で

(3年) 【A 心の開放と自分理解、相互理解/活動課題②】領域

活動名：つないで・つなげて・広がって

— 画用紙から作った形を、つなぎながら発想を広げる — (45分×2)

|   |   |  |
|---|---|--|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>こどもは一人ひとりが好きな形や色をもっている。3年時になると、友達との関わりにも目を向けられるようになってくる。そこで一人ひとりが作った形を互いにつないだり、組み合わせたりすることで一人では味わえない発想の広がりや新しい気づきを味わわせたい。</p>   | <p><b>活動課題/授業課題</b></p> <p>①造形表現活動の快さや楽しさを体験し、心を開く。<br/>・心を開いて表現できる。(自己開放)</p> <p>②造形表現活動とおして相互理解、人間理解を図る。<br/>・それぞれの違いや「自分らしさ」を相互に認め、尊重し協力し合って共に高め合う。<br/>・人間的な自立を目指して共に高め合い、生きることの意味や価値を見いだす。</p> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <p>○画用紙を破ったり、折ったり、まるめたりしながら、様々な形を発想を広げることができたか。</p> <p>○友達との関わりを通して、画用紙で作った形(立体)をつなぎながら、自分や友達の表現の良さに気づくことができたか。</p> |
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ 表現活動の概要<br/>児童一人ひとりが破ったり、まるめたり、切ったりして、変形させた画用紙の形を、友達とコミュニケーションを取りながらつないでいく中で、心地よい形を見つけていく活動。</p> <p>○ 表現内容<br/>・表現対象：オブジェ、造形感覚、空想 / 表現主題：つながり<br/>・表現材料：画用紙、絵の具、ステープラ、筆、黒く塗ったベニヤ板<br/>・表現形式：半立体<br/>・表現様式：主に抽象的に(一部具象)<br/>・表現技法/用具/知識：破く、折る、まるめる、つなぐ、組み合わせる、つなぐ。形からイメージした世界を絵の具で彩色。</p>                                    | <p><b>授業の方法</b></p> <p>平面の画用紙を半立体の好きな形に変形させる活動と、できあがった形を友達との関わりを通してつないでいきながら、好きな形・美しい形を目指す課題追究型の活動である。また、できた形から発想を広げ、自分達の物語を想像していく、総合型の授業も含んでいる。</p>  |  |
| <p><b>授業の条件：(表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など)</b></p> <p>表現内容：平面としての画用紙を切ったり破ったりすることで、楽しさや心地よさを味わう。<br/>切ったり破ったりした画用紙をまるめたりつないだりしながら、変形させる活動を繰り返す中で自分にとって素敵な形を見つけていくようにする。<br/>自分の形を友達の形とつないでいく中で、つなぎ方の面白さや、つないだ形の良さ、組み合わせた形の美しさなど、一人では味わえない発想の広がりや新しい気づきを体験する。<br/>※つなげた形からイメージを膨らませ、必要に応じて彩色できるようにする。</p> <p>○学習時間：45分×2<br/>○学習形態：個人表現、集団表現、集団鑑賞</p> |   |  |

授業状況





(3年)【B 自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力/活動課題③】領域

活動名：金あみの へんしん！

—金網と身近な材料の組み合わせから想像力を広げて— (45分×4)

|  |  |  |
|--|--|--|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>針金や金網などの抵抗感のある素材を、曲げたり、折ったりしてみたという思いが中学年では芽生える。本活動では3年児童にとって、ちょっと手ごわい素材(ソフト金網)との出会いが子供達の好奇心を刺激し、主体的な造形表現を促す。</p>   | <p><b>活動課題/授業課題</b></p> <p>③「自分らしさ」を、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりする力を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自主的、主体的な造形表現活動の喜びを知り、活動の意欲や積極性を持つ。</li> <li>造形的な課題に合わせ、表現対象/主題、表現材料/素材/造形要素、表現形式や様式、表現技法/用具などを選択したり追究したりしようとする。</li> </ul> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ソフト金網という新たな材料との出会いから 刺激を受け意欲的に取り組もうとしているか。</li> <li>金網と選んだ材料を組み合わせながら、その美しさやよさに気付いているか。</li> <li>金網の形を自分のイメージに合わせて、変形させたり飾ったりしているか。</li> </ul> |
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ 表現活動の概要<br/>ソフト金網の持つ特徴(沢山の穴がある・少ない力で形を変形できる等)を生かして金網に身の回りの材料を加えながら様々な工夫をすることで子どもが自由な発想で平面から立体まで、一人一人の表現にあわせた活動をすることができます。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現対象：オブジェ、造形感覚、空想 / 表現主題：つながり</li> <li>表現材料：金網(柔らかめ)、紐類、毛糸、紙粘土、端布、モール、はさみ、スポンジ、ビーズ等</li> <li>表現形式：立体、または平面</li> <li>表現様式：具象、装飾</li> <li>表現技法/用具/知識：曲げる、折る、まるめる、つなぐ、からませる。身の回りの材料を選んで、組み合わせる。</li> </ul> | <p><b>授業の方法</b></p> <p>子供達は様々な材料から金網に組み合わせたいものを選んだり、選んだ材料を金網にどのように付けたらよいかを考えたりすることを通して試行錯誤しながら自分の発想にあわせた表現を追求していく課題追究型の活動である。</p>  |  |
| <p><b>授業の条件：(表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など)</b></p> <p>○ 表現内容/指導体制：<br/>金網を変形させる際、児童によっては、立体に立てて表現したい場合と、平面的な画面としていたい場合がある。(児童ひとり一人の発想にあった表現方法で活動をさせる。)<br/>※注・ソフト金網の変形の方法にも興味をもたせたい。<br/>→円筒や円錐・アーチ・ドーム・ねじれ・かご型・球体・箱形 etc.<br/>※子供がバリエーションの広がりから自分から気付けるようにしていく。<br/>様々な材料から金網に組み合わせたいものを選ぶようにし、その付け方を試行錯誤できるようにさせたい。</p> <p>○学習時間：45×4<br/>○学習形態：個人表現</p>  |  |  |

\*どんな形にしようかな？

\*紙モールを金網の外に付けよう！

\*うわあーけっこう手強いぞ！

紙粘土で顔と羽を作って

\*スポンジを付けてみた！

\*金ブラシとモール・毛糸で「ドラゴン」

\*金網へ紙紐を絡ませて

\*この後、何を付けようかな？

(3年)【B 自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力/活動課題④】領域

活動名：でんせつの島 キラキラ・ハッピーアイランド

一金網を変形させた形から想像を広げ思いついたものを工夫して表すー (45分×6)

| 児童・生徒の実態  | 活動課題/授業課題   | 評価と評価の方法   |
|---|---|--|
| この時期の児童は身の回りにある様々な人工材料を組み合わせたリ・つないだりしながら立体に表現することに大変意欲的である。形態の異なる材料をどのように組み合わせるのか(表現・接続・接着方法)を試行錯誤し表現することを楽しむことができる。  | ④総合的な造形表現活動を経験し、造形的な総合力を養う。<br>・造形的な課題などに合わせて有機的、関係的、総合的に捉えて思考、分析、判断するなど、総合的な造形情報処理力を養う。<br>⑤造形的なものの見方や考え方、造形感を養い、感性を培う。<br>・造形的な要素として色彩や形態、材質を捉え、それらの特性や法則性、相互の関係性など、造形的なものの「見方」や「考え方」、「発想方法」などを思考し、造形感覚を養う。 | ○自分が想像したもののイメージに合わせて材料や用具を選び、それらを生かしながら総合的に捉えて空想の島に住む生き物や建物などを楽しんで表現することができたか。<br>○材料の形態や材質を生かしたり、組み合わせ方を工夫したりしながら造形活動ができたか。 |
| <b>授業/表現の内容</b>   | <b>授業の方法</b>  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現活動の概要<br/>家庭から持ってきた人工材料(空き容器・空き箱・芯材その他の廃材)を、組み合わせて空想の島にいる動物や建物等を想像力豊かに表現する。</li> <li>○ 表現内容<br/>・ 表現主題：空想(動物・建物・自然・情景)<br/>・ 表現材料：人工材料<br/>・ 表現形式：立体的に<br/>・ 表現様式：具象<br/>・ 表現技法/用具/知識： 接合する、組み立てる、つなぐ、飾る、染色する。身の回りの様々な形態の人工材料を生かす。</li> </ul>  | 様々な形態の人工材料(廃材)を組み合わせ方や接合方法を試行錯誤しながら表現していく課題追究型の授業である。<br>出来上がった作品は、学年全体で空想の島を考えながら飾りつけ鑑賞する。総合的な活動も含んでいる。  |  |
| <b>授業の条件：(表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など)</b>  |   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○表現内容：初めにテーマをもとに、自分が作りたい「伝説の島」のイメージを膨らませるようにする。生き物・建物・乗り物その他自由に発想していくようにする。</li> <li>○指導体制：児童によっては、自分の作ろうと思った物に合わせて材料を用意する場合と、持ってきた材料から作りたいものを想像していく場合がある。どちらのアプローチでも良いとする。図工室でも材料コーナーを用意し、児童が持ってきた材料以外でも材料選びが出来るようにする。制作後はテーマ「伝説の島」のイメージに合わせ、展示し互いに鑑賞し合い、自分や友達のように気付く時間をとる。</li> <li>○学習時間：製作 45分×6</li> <li>○学習形態と集団：個人表現、2～3人でのグループ表現、集団鑑賞</li> </ul> |   |  |

授業状況



\* アルミ線をティッシュの箱に付けてみよう！  
アンテナみたいに見えるかな？

↓足は青で塗ろう！





\*どれを、どうやって使おうかなあ？



\*「ヒーロータイガー」伝説の島で、悪いやつらがいたら、直ぐに助けに来る、とってもやさしいヒーローだよ！ 一右：制作中



\*紙皿を切って！



\*伝説の島には不思議な森がある。



↑スチロールの入れ物を切って池にしたり、衝撃緩衝材で森の住人を作りました。  
シャンプーボトルに布を貼って家になりました。一

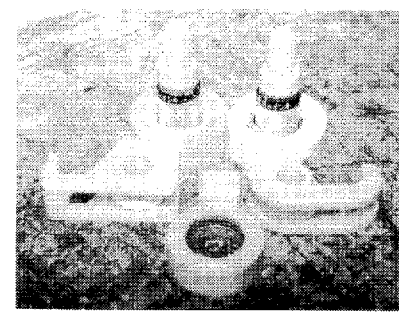
活動名：色いろ集めて 何になる？！

一身の回りの好きな色を見つけ、並べ方を工夫する活動ー (45分×2)

| 児童・生徒の実態   | 活動課題/授業課題  | 評価と評価の方法  |
|--|--|---|
| 日常生活の中で、児童は様々な遊び道具や文房具を使っている。自分の好きな色や形へのこだわりも次第に表れてくる。この活動では、それらの様々な物の色や形に着目することで、日常では想像できないイメージを広げ自分らしさを精一杯表現させていくことができる。 | ⑤造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。<br>・表現形式や表現材料/素材、表現技法などには決められた使い方があるわけではなく、自らを表現するために、それらをどの様にでも自由に活用することが出来るとする造形的なものの見方や考え方を持つ。<br>・造形的な要素として色彩や形態、材質を捉え、それらの特性や法則性、相互の関係性など、造形的なものの「見方」や「考え方」、「発想方法」などを思考し、造形感覚を養う。 | ○身の回りから見つけた物を、自分の思いに沿って自由に並べたり、組み合わせたりしながら想像を広げることが出来たか。<br>○できあがった作品から自分の好きな色・並べ方・組み方・表現に気付いたり、自分の友達との「見方」・「考え方」・「発想方法」の違いやよさに気付いたりできたか。 |

| 授業/表現の内容   | 授業の方法  |
|--|--|
| ○ 表現活動の概要<br>生活の中にある色や形によさや面白さに気付き、それらを材料にして、友達と協力しながら並べたり、組み合わせたりして活動を楽しむ。<br>活動の終末では、自分達の活動を紹介し合い鑑賞しながら、自分や友達の表現のよさや違いに気付き合う。<br>○ 表現内容<br>・表現対象：空想、オブジェ / 主題：好きな色や形を組み合わせる<br>・表現材料：生活素材 (色々な色の遊び道具、文房具、箱、衣服等) セロハンテープ、ビニールテープ、はさみ<br>・表現形式：立体的に<br>・表現様式：具象的に<br>・表現技法/用具/知識：素材の形や色の面白さ、並べたり組み合わせたりした時の形の変化、色による印象の違いに気付く。 | 「好きな色」「好きな形」を集め、それらを意図的に、時には偶発的に並べたり組み合わせたりしながら造形活動を楽しむ。日頃使っている道具が自分の表現の一部になることで、物に対する見方や考え方が変わる総合型の授業である。 |

| 授業の条件：(表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など)   |
|---|
| ○表現内容：持ってきた物の組み合わせから、何通りもの表現ができる。具象、抽象・その他柔軟な発想が表現する。<br>○指導体制：事前に身近な生活の中から、好きな色の好きな形の材料を見つけてくることを知らせる。集めた材料を見ながら色や形の組み合わせの面白さを感じ取り、作り作りかえながら活動ができるようにする。<br>自分の考えた方法や友達と話し合った方法を試したり、組み合わせたりしながら活動に取り組むように、言葉がけや活動場所を工夫する。<br>色や形の面白さから、自分の発想や友達の良さや違いに気付きながら鑑賞できるようにする。<br>○学習時間：45分×2<br>○学習形態：個人表現及び集団表現、集団での鑑賞 |



\*元気な黄色で作った「ピックリの顔」



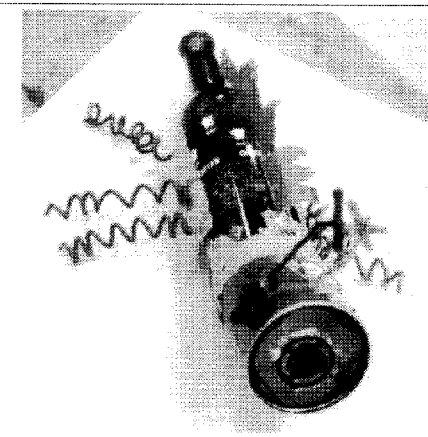
\*「青か緑を使おう!」「何が出来るかな?」



\*カオスい女の子が踊っているようにしたの!



\*同じボールでも、今度は宇宙人。



\*緑のワインボトルの色がきれい!



\*様々なバリエーションの表現で

活動名：しっくいシーサーでござる！

ー沖縄の伝統的な素材にふれ、表現を楽しむー

(45分×4)

| 児童・生徒の実態  | 活動課題/授業課題  | 評価と評価の方法   |
|---|--|--|
| <p>他地域の造形文化に肌で触れることは、この時期の児童にとって、有効である。冷たい漆喰の触感や臭い、琉球瓦の色や固さを通して、沖縄の造形文化を楽しみながら想像力を豊かに広げていくようにしたい。</p> <p>また、運動会の表現「エイサー」など他教科・領域との関連した活動も可能となる。</p>   | <p>①造形表現活動の快さや楽しさを経験し、心を開く。</p> <p>・造形的に表現することで他や造形表現に対する考え方に心を開く。/心を開いて表現できる。(自己表出、開放、肯定)</p> <p>⑥造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。</p> <p>・社会的、文化的に必要な造形文化や美術史を知り、それらを通したものの「見方」や「考え方」「生き方」に気づく。</p> <p>・造形文化や美術史から自らの造形的な価値観を培う。</p> | <p>○漆喰に触れることで沖縄漆喰の臭いや触感を、知りその感触を楽しみながら心を開いて活動することができたか。</p> <p>○他地域の素材を使うことで、その地域の造形文化の特徴や考え方を感じ取ることができたか。</p> |
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ 表現活動の概要</p> <p>沖縄漆喰の素材の特徴に触れ、触感を楽しみながら、沖縄に伝統的に伝わる造形文化「シーサー」を、琉球瓦と組み合わせて作る。表情や体型に自分らしい表現を想像して表す。</p> <p>作品を鑑賞しながら、沖縄の素材を使うことで、その地域の造形文化の特徴や考え方を感じ取る。</p> <p>○ 表現内容</p> <p>・表現対象：動物 / 主題：自分だけの守り神「シーサー」</p> <p>・表現材料： 沖縄漆喰、琉球瓦、粘土板、アクリル絵の具、筆</p> <p>・表現形式：立体的に</p> <p>・表現様式：具象的に</p> <p>・表現技法/用具/知識：沖縄漆喰の特性に触れ、形成する。自分の思いに適した琉球瓦を割って形作る。漆喰と瓦を組み合わせる。アクリル絵の具で装飾する。</p> | <p><b>授業の方法</b></p> <p>沖縄の造形文化に触れさせ、地域の願いや思いに沿った活動を実施する点に於いては師範型の授業である。しかし、自分らしいシーサーを想像するというねらいをもって活動することから課題追究型授業も含まれる。</p>   |  |
| <p><b>授業の条件：(表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など)</b></p> <p>○表現内容：自分にとっての守り神シーサーであることに重点をおき、体の形や表情の表現に自分らしさをだすようにする。</p> <p>○指導体制：沖縄漆喰や琉球瓦の特性を感じ取るために、十分に素手で触れる時間をとる。漆喰と瓦の組み合わせ方や、アクリル絵の具での顔や体の装飾の仕方、一人一人が自分らしい発想で表現できるように換気する。</p> <p>○学習時間：45分×4</p> <p>○学習形態：個人表現及び集団での鑑賞</p>   |  |  |

授業状況



## 4 学年 カリキュラム編成における「活動課題領域」の 実践例

### A 【心の開放と自分理解、相互理解】領域

→「他との関係の中に『自分らしさ(Identity)』を求め、人間的な自立を促す。」

- ① 造形表現活動の快さや楽しさを経験し、心を開く。

実践例 ① 活動名 体も使って！場所も使って！ロールペーパー大作戦！

－ロールペーパーを使って－

- ② 造形表現活動をとおして相互理解、人間理解を図る。

実践例 ② 活動名 色と形と友だちがつながって

－段ボールをつなげていくと－

### B 【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域

→「自主的、主体的、創造的に表現すること。」

- ③ 「自分らしさ」を、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりする力を培う。

実践例 ③ 活動名 ピカソのように

－目、鼻、口から始まる自画像に挑戦－

- ④ 総合的な造形表現活動を経験し、造形的な総合力を養う。

実践例 ④ 活動名 組み立て完了！コロコロ、ジャンプ！？

－のりもテープも使わない牛乳パック迷路づくり－

### C 【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域

→「造形的なものの見方や考え方、造形感覚や感性を培う。」

- ⑤ 造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。

実践例 ⑤ 活動名 筆じゃなくてもかけるんだ！

－水彩絵の具のモダンテクニックに挑戦－

- ⑥ 造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。

実践例 ⑥ 活動名 こども学芸員になって

－美術館鑑賞を通して友だちの作品を紹介しよう－

### ○カリキュラム編成における各学年の「課題要素／活動課題・表現内容領域」の配当割合

| 課題要素領域／活動課題領域               | 表現内容領域              |           | 表現内容（表現主題／表現形式） |            |     |
|-----------------------------|---------------------|-----------|-----------------|------------|-----|
|                             |                     |           | 心象的表現（50%）      | 適応的表現（50%） |     |
|                             |                     | 平面／半立体／立体 | 平面／半立体／立体       | 平面／半立体／立体  |     |
| 課題要素領域／活動課題領域               |                     | 低学年       | 中学年             | 高学年        | 中学  |
| A 【心の開放と自分理解、相互理解】領域        |                     |           |                 |            |     |
| (1)                         | 「造形表現活動の快さと心の開放」領域  | 40%       | 30%             | 20%        | 20% |
| (2)                         | 「造形表現活動をとおした相互理解」領域 | 5%        | 10%             | 15%        | 15% |
| B 【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域 |                     |           |                 |            |     |
| (3)                         | 「自分らしさの追究、発見、表現」領域  | 20%       | 20%             | 20%        | 20% |
| (4)                         | 「造形表現活動の総合力」領域      | 5%        | 10%             | 15%        | 15% |
| C 【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域       |                     |           |                 |            |     |
| (5)                         | 「造形的な見方・考え方と造形感覚」領域 | 20%       | 20%             | 20%        | 20% |
| (6)                         | 「知識・技能と造形文化」領域      | 10%       | 10%             | 10%        | 10% |



(4年) 【A 心の開放と自分理解、相互理解/活動課題①】領域

活動名：体も使って！場所も使って！ロールペーパー大作戦！

ーロールペーパーを使った造形遊びー (45分×2)

| 児童・生徒の実態   | 活動課題/授業課題   | 評価と評価の方法  |
|--|---|---|
| 低学年の時に新聞紙を使った造形遊びをおこなっており、紙材料に対し身体的に関わり自分を解放していく経験はある。しかし、それ以降友人との活動など積極的にこなう中学年の発達過程において開放的に大量の材料と関わる経験はない。   | ①造形表現活動の快さや楽しさを体験し、心を開く。<br>・自信を持って他に自分を伝える喜びを知る。(自己実現、相互理解)<br>・造形表現とは、自らを表現する自己表現活動であることに気づく。(自己確信) | ○ロールペーパーのおもしろさを体感し、材料のよさや場所の様子を感じながら、表したいこととおもいつき、表現する。関わることで生まれる紙の変化や場所との組み合わせやおもしろさを生かして表現する。 |
| ↓↑   | ↓↑  | ↓↑  |
| 授業/表現の内容   | 授業の方法   |   |
| ○ 表現活動の概要<br>ロールペーパーに身体感覚を働かせて関わり、紙を折る、丸める、重ねる、包む、ねじるなど、自分の方法を見つけながら表すことを楽しむ。<br>○ 表現内容<br>・表現対象/主題 (何を)：ロールペーパーの形、材質感などの造形性。<br>・表現材料 (何で)：主材料：ロールペーパー 場の形状<br>・表現形式(どの様)：立体的、デザイン的<br>・表現様式 (どの様)：抽象的も具象も混在する。<br>・表現技法/用具/知識 (どの様)：紙を折る、丸める、重ねる、包む、ねじるなど。 | 材料としてのロールペーパーの造形的な特徴(テーマ)から、思いついた表現ややってみよう活動を追及していく、児童中心の課題追究型の授業である。                                 |   |
| ↓↑   | ↓↑  |   |
| 授業の条件  |   |   |
| ○表現内容：ロールペーパーを中心材料に中学年の児童が扱える範囲の身近環境(いす、つくえ、室内のちよつとした備品)を生かし自由に表現する。<br>○学習時間：90分<br>○学習形態：個人表現または小集団表現(集団は自然発生的)指導は安全に関する配慮や環境設定が中心で授業中に教師が主導的に活動を止めることはほとんどない。   |   |   |

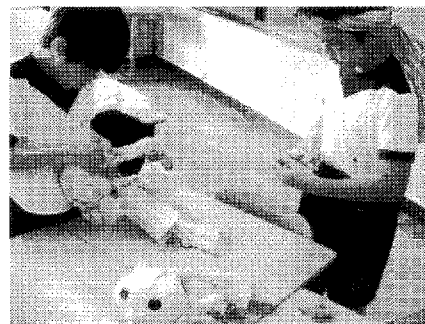
授業状況



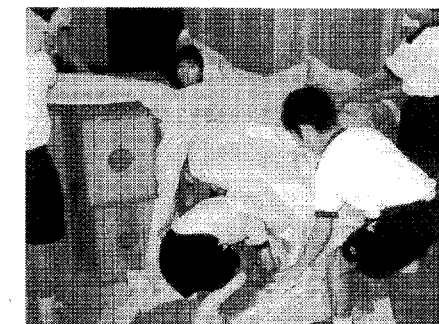
「まずは身体的に関わって・・・友だちと一緒に。」



「素材感を味わう行為から次の活動へ。」



「紙をねじる、丸めるから発想を広げて。」



「場所を生かして協同して基地のような空間を。」



「ねじった紙の組み合わせに中学年らしさを感じる。」



「細かくちぎった紙でふわっと覆いながら・・・」

(4年) 【A 心の開放と自分理解、相互理解/活動課題②】領域

活動名：色と形と友だちがつながって

一段ボールをつなげていくとー

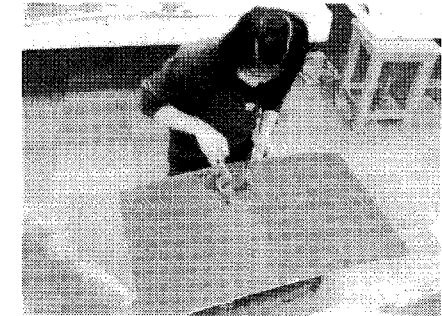
(45分×4)

|   |   |  |
|---|---|--|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>友だちの表現のよさを見つけながら自分の表現に取り入れるなどしながら深めることができるが互いの表現を関わり合わせながら協働的に表現を広げていく経験はあまりない。</p>   | <p><b>活動課題/授業課題</b></p> <p>②造形表現活動とおして相互理解、人間理解を図る。</p> <p>・造形的なもの「見方」や「考え方」「感じ方」、或いは表現の違いなどに気づき、それらがそれぞれの「自分らしさ」につながることに気づく。</p> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <p>○ローラーによって生まれる色や段ボールを形や友の表現のよさから発想し自分の表したい感じを思いつき、切り取った形のおもしろさや友だちの表現に着目しながら組み合わせ方を工夫していたか。</p> <p>○色の表現のよさ感じたり、段ボールボードを組み合わせながら互いのよさを感じていたか。</p> |
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ 表現活動の概要</p> <p>スポンジローラーをつかかって自分の「おはなし色」をつくりだす。自分の「自分色段ボール」と友だちのつくった「自分色段ボール」から形を切り取り友だちと思いついたことをしてみる。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現対象/主題 (何を)：ローラーを使った表現により生まれた色や形、段ボールの材質感など造形的な要素</li> <li>・表現材料 (何で)：主材料：段ボール (750×450×10mm) 水彩共同絵の具木工用ボンド</li> <li>・表現形式(どの様)：平面から半立体、或いは立体的に。</li> <li>・表現様式 (どの様)：主に構成的に、具象もありえる。</li> <li>・表現技法/用具/知識 (どの様)：ローラーを使って多様な方法で、段ボールを切る、組み合わせる。</li> </ul> |   | <p><b>授業の方法</b></p> <p>「自分の色と友だちの色が出会うと？」をテーマに、段ボールを用い、ローラーで色をつくり出し、着色する。その段ボールを切り、その形から発想し組み合わせるなどしながら表現する。友だちの表現と自らの表現のよさを感じながら試行錯誤していく、課題追究型の授業である。</p>                 |
| <p><b>授業の条件</b></p> <p>○表現内容：段ボールとローラーを中心材料に立体、或いは半立体的な構成表現（一部具象表現と取り入れることもある）をおこなう。</p> <p>○学習時間：ローラーによる表現（90分） 段ボールを切って組み合わせる表現（90分）</p> <p>○学習形態：個人表現または小集団表現（グループは自然発生的だが、工作机等の配置関係により近隣児童との活動が主となる。</p>  |   |  |

授業状況



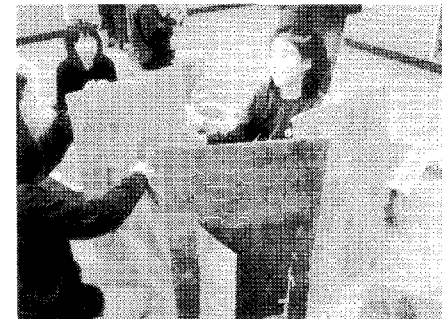
「色の重なりに着目して。」



「ローラーの使い方に着目して。」



「新しい形が生まれて、それから・・・」



「組み合わせながら友だちと相談して。」



「お互いの色をうまく生かして！」



「私はこうやって組み合わせた方がいいな。」

(4年)【B 自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力/活動課題③】領域

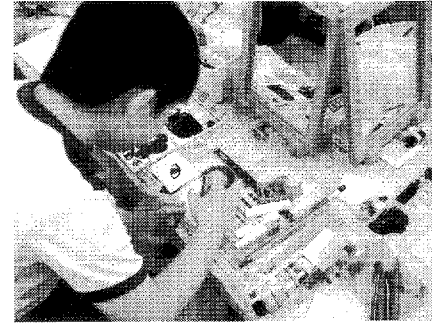
活動名：ピカソのように

一目、鼻、口から始まる自画像に挑戦—

(45分×4)

|  |   |   |
|--|---|---|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>材料や用具との関わりから自分の発想を生かし表し方を工夫しながら自分なりの表現を追求することができる。しかし、主題から発想し自分らしさを表す経験はあまりない。</p>   | <p><b>活動課題/授業課題</b></p> <p>③ 「自分らしさ」を、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりする力を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自主的、主体的な造形表現活動の喜びを知り、活動の意欲や積極性を持つ。</li> <li>造形的な課題に合わせ、表現対象/主題、表現材料/素材/造形要素、表現形式や様式、表現技法/用具などを選択したり追究したりしようとする。</li> <li>表現対象/主題、表現材料/素材/造形要素、表現形式や様式、表現技法/用具などとの出会いから「自分らしさ」を追究、発見、表現する。</li> </ul> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身をテーマ(表現主題)に、眼、鼻、口、耳を小さな画用紙にそれぞれ別々に鏡を見てかき、画面上で構成する造形表現活動を楽しみながら、自分を造形的に表現することの意味や価値に気付いたか。</li> <li>表現に対する見方や考え方、感じ方で薄紙を使った表現に違いが生まれ、それが各自のよさや「自分らしさ」であることに気付いたか。</li> </ul> |
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現活動の概要<br/>鏡を見ながら80mm×50mmのカードに自分の目、鼻、口をかき、それぞれのパーツを画面上で再構成しながら表現する方向を決め、造形的な表現を追究していく。表現された作品はオリジナルの自画像として自己紹介する。</li> <li>表現内容             <ul style="list-style-type: none"> <li>表現対象/主題(何を)：自分自身</li> <li>表現材料(何で)：主材料：水彩絵の具、鏡、画用紙；選択材料：各種紙類、描材、その他</li> <li>表現形式(どの様)：平面或いは半立体</li> <li>表現様式(どの様に)：前半は写実的。後半は構図によって抽象化する事もある。</li> <li>表現技法/用具/知識(どの様)：水彩絵の具の基本的な使用法に基づく。</li> </ul> </li> </ul> | <p><b>授業の方法</b></p> <p>「自分の目、鼻、口」をテーマに、カードに一斉指導で鏡を見ながらデッサンする。そこから発想を広げ、それぞれの追究したい方法に合わせ作品化していくという自らの表現を試行錯誤していく。一斉型指導から課題追究型の授業へと変わっていく複合型授業である。</p>  |   |
| <p><b>授業の条件</b></p> <p>○表現内容：画用紙、水彩絵の具を中心材料に平面、或いは半立体的な具象表現(構図によっては一部抽象表現となる)として四つ切り画用紙の大きさ程度の規模に表現する。(掲示できる範囲で児童によって若干の大小は許容範囲とする)：表現方法や材料は画用紙を中心材用とし、壁面掲示できる範囲で選択、活用する。</p> <p>○学習時間：180分</p> <p>○学習形態：個人表現、集団鑑賞</p>   |   |   |

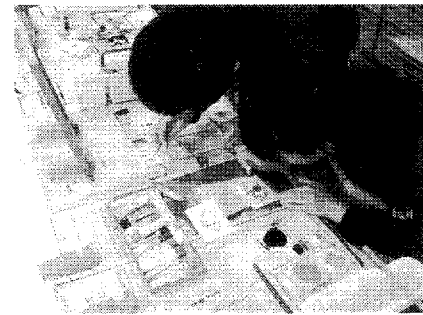
授業状況



「小さな紙に自分の目、鼻、口をかいて。」



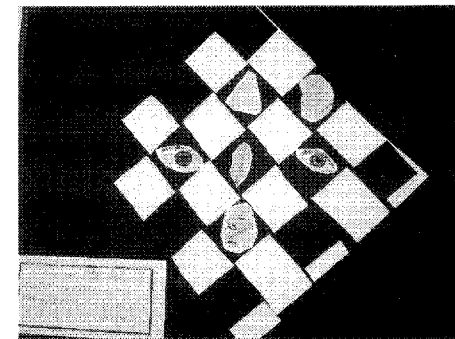
「鏡をじっくり見ながら。」



「かきながら発想を広げて。」



「構図を考えながら発想を広げて。」



「白と黒の紙を編んだ台紙にはって。」



「顔の向きを考えながら並べてみました。」



活動名：組み立て完了！コロコロ、ジャンプ！？

ーのりもテープも使わない迷路づくりー

(45分×4)

|   |  |  |
|---|--|--|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>紙を使った工作はこれまでも経験のある題材であり、厚紙や箱などを切り、つくることをしてきている。しかし、造形的な課題や条件を設定した中での造形表現の経験はほとんどない。</p>   | <p><b>活動課題/授業課題</b></p> <p>④ 総合的な造形表現活動を体験し、造形的な総合力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らが持っている造形的な知識や技能、或いは造形的なもの「見方」や「考え方」「関わり方」などの経験を場や状況、造形的な課題などに合わせて有機的、関係的、総合的に捉えて思考、分析、判断するなど、総合的な造形情報処理力を養う。</li> <li>・総合的な課題を持った造形表現活動を体験し、造形的な課題を発見、選択、決定、追究、解決、応用、発表するなど、総合的な造形表現力を養う。</li> </ul> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○牛乳パックでのりもテープも使わないでビー玉迷路をつくることに関心をもち、試行錯誤を繰り返しながら迷路をつくることを楽しんでいたか。</li> <li>○牛乳パックを切り取った形を組み合わせる「ほぞ」を生かした手法から発想し、自分で工夫しながら創造的に迷路のコースをつくりだしていたか。</li> </ul> |
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ 表現活動の概要</p> <p>牛乳パックをつかって迷路のコースをつくっていく活動である。のりもテープも使わないというのが子どもたちにとって大きなハードルとなるが、課題に対し、自分なりに発想したり新しい方法を編み出したりするなど幅広く活動が展開される。迷路づくりが終わったらゲームコーナーをつくり、看板などもつくるなどしながら「出来事づくり」にも発展させる。相互鑑賞の機会も含有する。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現対象/主題(何を)：遊ぶものを</li> <li>・表現材料：主材料：牛乳パック</li> <li>・表現形式(どの様)：適応的に</li> <li>・表現様式(どの様に)：デザイン的に</li> <li>・表現技法/用具/知識(どの様)：紙工作(はさみで牛乳パックを切る、形を変える、切れ目を入れる。牛乳パックをほぞの関係ではさむ、丸める、その他自分の方法を見つけながら。)</li> </ul> | <p><b>授業の方法</b></p> <p>「のりもテープも使わないで牛乳パックで迷路をつくろう」をテーマに、中心材料としての牛乳パックを切る、挟む、組み合わせるなどしながら、迷路のコースづくりを考える。必要に応じて用具を選択しながら、のりもテープも使わないという課題に合った作品を完成させ、みんなで遊ぶことを楽しむ課題追究型の授業である。</p>  |  |
| <p><b>授業の条件：(表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など)</b></p> <p>○表現内容：牛乳パックを中心材料に遊ぶものをつくる<br/>：材料は牛乳パックを中心材用とし、接合にのりやテープを使わない。用具は牛乳パックを加工できる範囲で選択、活用する。</p> <p>○学習時間：180分</p> <p>○学習形態：個人表現、集団鑑賞</p>   |  |  |



「のりを使わないで通路をつくるには？」



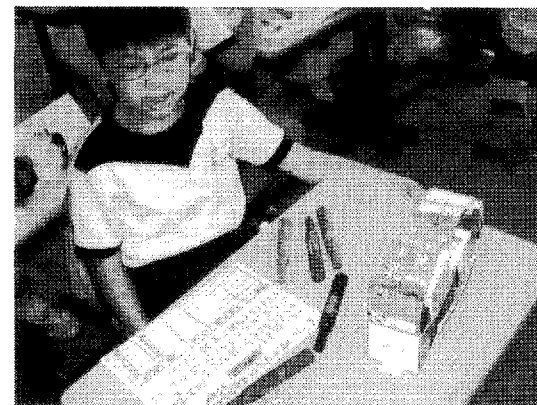
「いい方法を思いついたよ！」



「パックとパックを組み合わせる方法は？」



「友だちとアイデアを出し合いながら・・・」



「ゲームのルールを考えたらよ。」

(4年) 【C 造形的な見方、考え方と造形感覚/活動課題⑤】領域

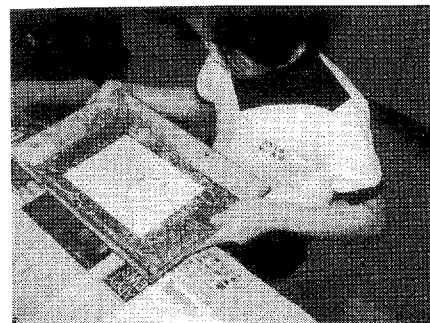
活動名：筆じゃなくてもかけるんだ！

—水彩絵の具のモダンテクニックに挑戦—

(45分×2)

|  |  |   |
|--|--|---|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>水彩絵の具に関しては低学年から慣れ親しんでいる。低学年ではフィンガーペインティングなどもおこなっている。</p> <p>3年生になってからは個人用水彩絵の具を描画材として使用している。扱いには慣れてきているが、決まった使い方に慣れており、新しい表現の気づきまでには至っていない。</p>  | <p><b>活動課題/授業課題</b></p> <p>⑤ 造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現形式や表現材料/素材、表現技法などには決められた使い方があるわけではなく、自らを表現するために、それらをどの様にでも自由に活用することが出来るとする造形的なものの見方や考え方を持つ。</li> <li>・表現素材としての色彩や形態、材質の特性や法則性、相互の関係性などを捉え、表現形式や様式、表現材料/素材や表現技法、用具などと関連させ、それらを生かした表現を追究することから造形的なものの「見方」や「考え方」、「発想方法」などを思考し、造形感覚を養う。</li> </ul> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○絵の具の可能性に挑戦をテーマ(表現主題)に造形表現活動を楽しみながら、自分と造形的に表現することの意味や価値に気付いたか。</li> <li>○表現に対する見方や考え方、感じ方で薄紙を使った表現に違いが生まれ、それが各自のよさや「自分らしさ」であることに気付いたか。</li> </ul> |
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ 表現活動の概要</p> <p>自分の考えや感覚を大切に表現したものは、自分自身であるとし、ティッシュを折る、丸める、重ねる、貼る、描く、異なる材料を付け加えるなど</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現対象/主題(何を)：色彩、形などの造形要素</li> <li>・表現材料(何で)：主材料：水彩絵の具、画用紙<br/>：選択材料：紙類、身辺材(ストロー、ブラシ、糸、ビー玉、その他)</li> <li>・表現形式どの様：平面的に</li> <li>・表現様式(どの様式)：主に抽象的に(構成的表現もあり得る)</li> <li>・表現技法/用具/知識(どの様)：水彩絵の具に筆以外の用具を用い、工夫して表す。その他自分の方法を見つければいい。</li> </ul> | <p><b>授業の方法</b></p> <p>「筆以外でもかけるんだ！」をテーマに、中心材料としての身辺材を描画材にして水彩絵の具で表していく。必要に応じて他の材料や用具を選択しながら、自らの表現を試行錯誤していく、課題追究型の授業である。</p>   |   |
| <p><b>授業の条件</b></p> <p>○表現内容：水彩絵の具を中心材料に平面的な抽象表現として8つ切り画用紙1/2の大きさ程度のカードに複数枚表現する。</p> <p>：表現方法や材料は水彩絵の具を中心材料に、多様な用具を用い平面表現を超えない範囲で選択、活用する。</p> <p>○学習時間：180分</p> <p>○学習形態：個人表現、集団鑑賞</p>   |  |   |

授業状況



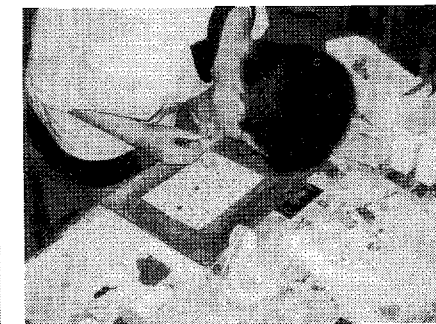
「ビー玉を転がしてみると意外なあとができるよ。」



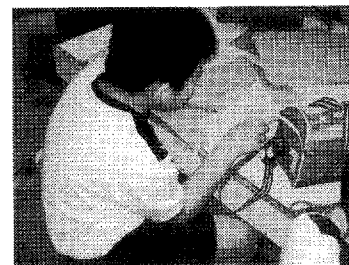
「ストローで吹いてできた模様をみて・・・。」



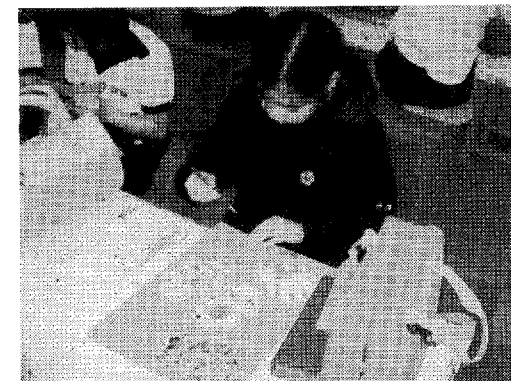
「ブラッシングっておもしろいあとができるね。」



「スポットを使った全く新しい方法を考えたよ。」



「模様を見てると何か思いつきそう。」



「つくった色や形から思いついたことをしてみました。」

(4年) 【C 造形的な見方、考え方と造形感覚/活動課題⑥】領域

活動名：こども学芸員になって

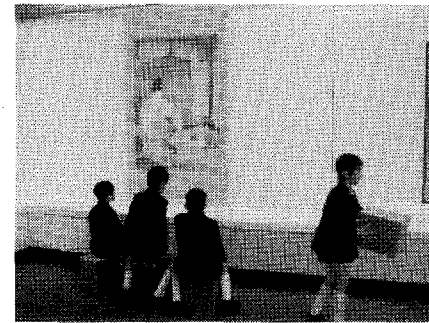
—美術館鑑賞を通して友だちの作品を紹介しよう— (45分×2+45分)

| 児童・生徒の実態  | 活動課題/授業課題  | 評価と評価の方法  |
|---|--|---|
| 自分の思いをもって表現している子どもが多いが、表現の傾向が似た友だち同士で集まったり、その中でよさを感じたりすることが多くなっている。ひとりひとりの表し方の違いを感じることはできて、そのよさや作者の思いまで深く考えた経験は少ないと考える。 | ⑥ 造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。<br>・各自が自主的、主体的、創造的に表現するための造形的な知識や技能を身につける。<br>・社会的、文化的に必要な造形文化や美術史を知り、それらを通したものの「見方」や「考え方」「生き方」に気づく。<br>・造形文化や美術史から自らの造形的な価値観を培う。 | ○美術館の作品や友だちの作品を見ることや作品をつくった思いに関心を持ち学芸員の仕事に関心をもって取り組んでいたか。<br>○友だちの作品のよさをどのような形で発表するか思いつき、作者の思いがあらわれるような発表の仕方の工夫していたか。 |

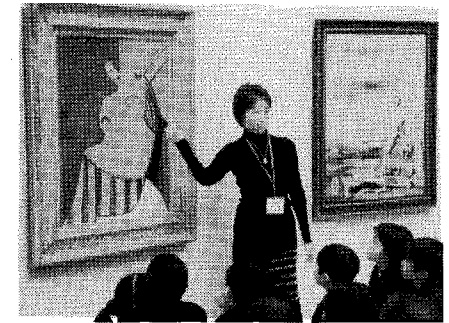
| 授業/表現の内容   | 授業の方法   |
|--|---|
| ○ 表現活動の概要<br>美術館鑑賞をもとに造形展で学芸員となって自分たちのおこなったことや友だちの作品のよさを伝えるためその作者にインタビューをおこなう。インタビューを通して友だちの表現のよさや美しさを感じ、他者を尊重する心を育むことも期待する。また、造形展当日に発表する中で互いの発表を聞いたり、参観してくれた人との関わりを深めたりするなど造形活動を通した総合的なコミュニケーション力を育み、表現の多様性に気づき、自分の表現の幅を広げることに関心をもたせる。<br>○ 表現内容<br>・表現対象/主題(何を)：美術館の作品、友だちの作品<br>・表現材料(何で)：主材料：友だちの作品を置く台紙：選択材料：紙類、布類、その他<br>・表現形式(どの様)：口頭発表<br>・表現様式(どの様に)：<br>・表現技法/用具/知識(どの様)：作品に対する制作の意図を知る。作品のよさに気づく。その他自分の方法を見つけながら。 | 鑑賞活動は作品について自分の感じたことを大切にすることで十分であるが、作者の思いを知ることにより作品の見方が深まることもある。美術館の学芸員の方の仕事にふれることにより、作品の見方や作者の思いにふれることの大切さに気づかせる。学芸員による講義型授業から、自分たちが学芸員になるという課題追究型の授業にシフトしていく複合型の授業である。 |

| 授業の条件  |
|--|
| ○表現内容：学芸員の質問に対し自分の感じ方を発表する。<br>友だちの作品を作品のよさを生かすように展示する。作品のよさについて口頭で発表する。<br>○学習時間：美術館鑑賞90分<br>友だちの作品展示、発表45分<br>○学習形態：学芸員による講義型授業<br>小グループにおける相互鑑賞、学級全体による集団鑑賞 |

授業状況



「伝統的な日本の作品のよさを感じて。」



「ピカソの表現に対する思いについて聞いたよ。」



「この水色はどうやって表現したのかな?」



「この色にした訳はね・・・」



「この作品のよさについて話します。」



「〇〇さんのはのこぎりの使い方を工夫して表しています。」

## 5 学年 カリキュラム編成における「活動課題領域」の 実践例

### A 【心の開放と自分理解、相互理解】領域

→「他との関係の中に『自分らしさ(Identity)』を求め、人間的な自立を促す。」

- ① 造形表現活動の快さや楽しさを経験し、心を開く。

実践例 ① 活動名 めざせ ローラーの達人

—ローラーの特性を生かして画面をつくる—

- ② 造形表現活動をとおして相互理解、人間理解を図る。

実践例 ② 活動名 何の字だったの？

—ひらがな一文字を変身させて—

### B 【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域

→「自主的、主体的、創造的に表現すること。」

- ③ 「自分らしさ」を、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりする力を培う。

実践例 ③ 活動名 はじまりは 手の形

—好きな色 好きな感じで—

- ④ 総合的な造形表現活動を経験し、造形的な総合力を養う。

実践例 ④ 活動名 楽しませ屋さん

—2年生を招待して—

### C 【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域

→「造形的なものの見方や考え方、造形感覚や感性を培う。」

- ⑤ 造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。

実践例 ⑤ 活動名 校庭からのおくりもの

—草花をならべて—

- ⑥ 造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。

実践例 ⑥ 活動名 これもゲージョツ？！

—現代美術館での鑑賞活動—

### ○カリキュラム編成における各学年の「課題要素/活動課題・表現内容領域」の配当割合

| 課題要素領域/活動課題領域                      | 表現内容領域 |     | 表現内容 (表現主題/表現形式) |     |             |  |
|------------------------------------|--------|-----|------------------|-----|-------------|--|
|                                    |        |     | 心象的表現 (50%)      |     | 適応的表現 (50%) |  |
|                                    |        |     | 平面/半立体/立体        |     | 平面/半立体/立体   |  |
| 課題要素領域/活動課題領域                      | 低学年    | 中学年 | 高学年              | 中学  |             |  |
| <b>A 【心の開放と自分理解、相互理解】領域</b>        |        |     |                  |     |             |  |
| (1) 「造形表現活動の快さと心の開放」領域             | 40%    | 30% | 20%              | 20% |             |  |
| (2) 「造形表現活動をとおした相互理解」領域            | 5%     | 10% | 15%              | 15% |             |  |
| <b>B 【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域</b> |        |     |                  |     |             |  |
| (3) 「自分らしさの追究、発見、表現」領域             | 20%    | 20% | 20%              | 20% |             |  |
| (4) 「造形表現活動の総合力」領域                 | 5%     | 10% | 15%              | 15% |             |  |
| <b>C 【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域</b>       |        |     |                  |     |             |  |
| (5) 「造形的な見方・考え方と造形感覚」領域            | 20%    | 20% | 20%              | 20% |             |  |
| (6) 「知識・技能と造形文化」領域                 | 10%    | 10% | 10%              | 10% |             |  |

(5年) 【A, 心の開放と自分理解、相互理解/活動課題①】 領域

活動名: めざせ ローラーの達人

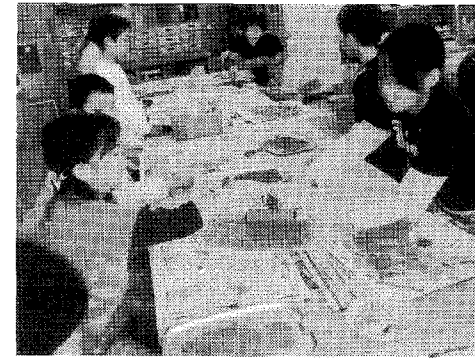
ーローラーの特性を生かして画面をつくるー

(45分×3)

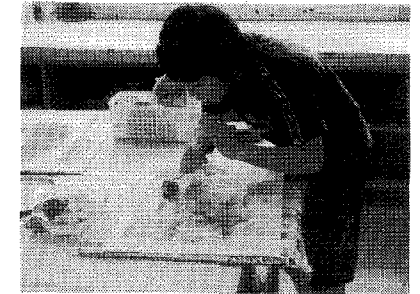
|   |  |  |
|---|--|--|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>高学年になると、自分の絵を実物や友だちの絵などと比較して、客観的に見られるようになり、絵を描くのに抵抗を感じる子どもが出てくる。</p> <p>そこで、あえて細かい表現ができないローラーを使って、色を塗ることそのものを楽しめるようにした。</p> | <p><b>領域課題/活動課題/授業課題</b></p> <p>①造形表現活動の快さや楽しさを経験し、心を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ローラーを使って、思い切って色をぬる快さや楽しさを知る。</li> <li>心を開いて表現できる。(自己開放)</li> </ul> <p>③「自分らしさ」を或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追求、発見したり、自己表現したりする力を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ローラーの特性を生かしたいろいろな使い方を試し、発見し、「自分らしい」表現を追究しようとする。</li> </ul> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>色を選んだり、ローラーの使い方を工夫したりしながら、心を開いて造形表現活動を楽しむことができたか。</li> <li>色を選んだり、ローラーの使い方を工夫したりしながら、自分なりの表現を追求しようとすることができたか。</li> </ul> |
|---|--|--|

|   |  |
|---|--|
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ 表現活動の概要</p> <p>低学年で経験したローラー遊びを高学年になってもう一度試してみる。ローラーを転がすことによってできる色面の美しさを感じ取りながら、自分の思いに従って、思い切って画面をつくっていく。そして、できあがった作品から感じたことを詩で表してみる。作品を展示し、表現や感じ方の違いを認め合いながら鑑賞する。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現主題: 活動を進めながら、自分で決める</li> <li>表現材料: 四つ切画用紙、スポンジローラー(長、短、球形のもの)、練り板、共同絵の具、画板</li> <li>表現形式: 平面的に</li> <li>表現様式: 自分で決めるが、抽象的なものが多くなる</li> <li>表現技法・用具(どの様)色を重ねて、グラデーションに、透明感をだして、ローラーの角を使って、ローラーを押しつけて、点と面と線を意識して、ローラーにひもを巻いて、ローラーに直接チューブから絵の具をつけて、ステンシル、その他自分の方法を見つけて</li> </ul> | <p><b>授業の方法</b></p> <p>スポンジローラーでできる色の付け方をいろいろと試し、自分の表したい感じを見つけながら表現していく 課題追究型の授業である。</p> <p>また、できがった作品をもう一度客観的に見直し、そこから感じることを言葉に置き換えて詩をつける 総合的な活動も含んでいる。</p> |
|---|--|

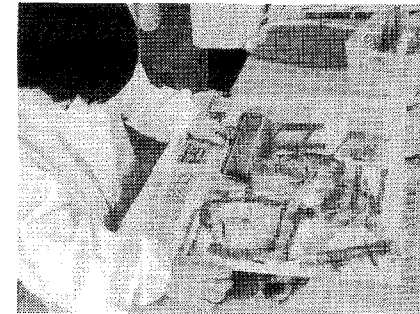
|  |
|--|
| <p><b>授業の条件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現内容: ローラーでの効果を十分に試させたいので、作品は2点製作とする。1点目がだいたいできたところで鑑賞しあい、友だちの方法も自分の作品に取り入れられるようにする。</li> <li>学習形態と集団: 個人表現、集団鑑賞</li> <li>学習時間: 製作 45分×2 詩をつけて、鑑賞し合う 45分</li> </ul> |
|--|



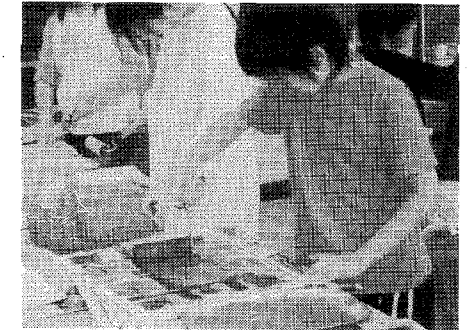
練り板とローラーは順番に使います。  
「その色、貸して」  
「はい、どうぞ」



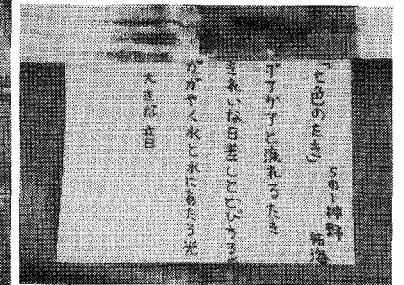
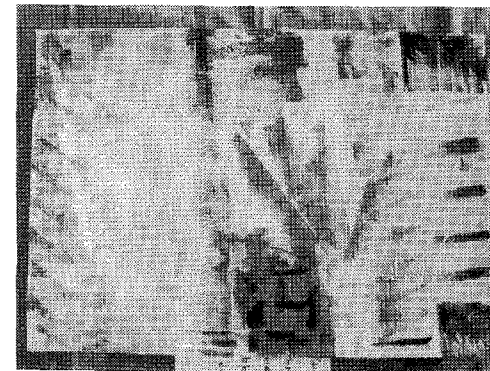
色を薄く塗って、重ねていくときれいだな。だんだんねらいをつけて、色を置いていきます。



ローラーをトン、トン、トン。  
オレンジ色が目立ってきれい。



「うわあ… どんどん色が重なっていくよ!」



完成作品 と つけられていた詩



(5年) 【A 心の開放と自分理解、相互理解/活動課題②】領域

活動名：何の字だったの？

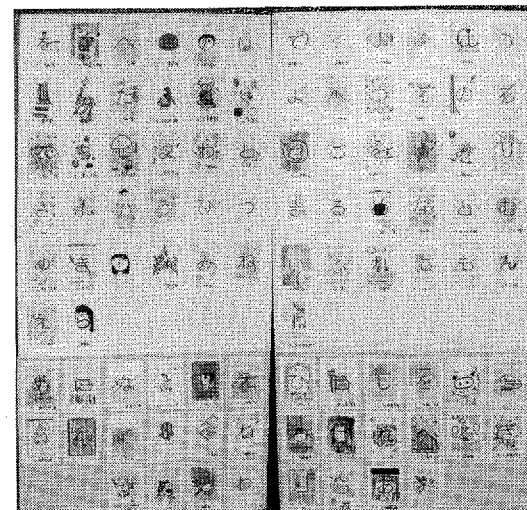
—ひらがな一文字を変身させて—

(45分×2)

|  |  |  |
|--|--|--|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>子どもたちは、なぜなぞやゲームが大好きである。本題材では、“ひらがな”を元に絵を描く。「出来上がったら、友だちにみせよう。もとは何の字だったかわかるかな」「私と同じ文字を選んだ人はどんな絵を描いたのかな」とわくわくしながら取り組める題材である。</p> | <p><b>領域課題/活動課題/授業課題</b></p> <p>②造形表現活動をとおして相互理解、人間理解を図る。<br/>・造形的なものの「見方」や「考え方」「感じ方」、或いは表現の違いなどに気づき、それらがそれぞれの「自分らしさ」につながることに気づく。<br/>③「自分らしさ」を或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追求、発見したり、自己表現したりする力を培う。<br/>・表現主題、表現様式を自分なりに追求して表現しようとする。</p> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <p>○それぞれの作品の発想や表現の違いなどに気づき、それらがそれぞれの「自分らしさ」につながることに気づいたか。<br/>○元になる文字の形から発想をふくらませて、何を表現するか、具象か抽象か、などを主体的、創造的に追求することができたか。</p> |
|--|--|--|

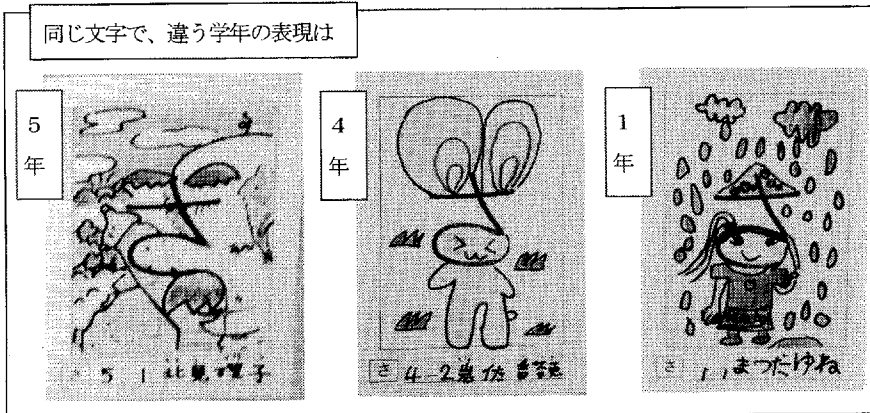
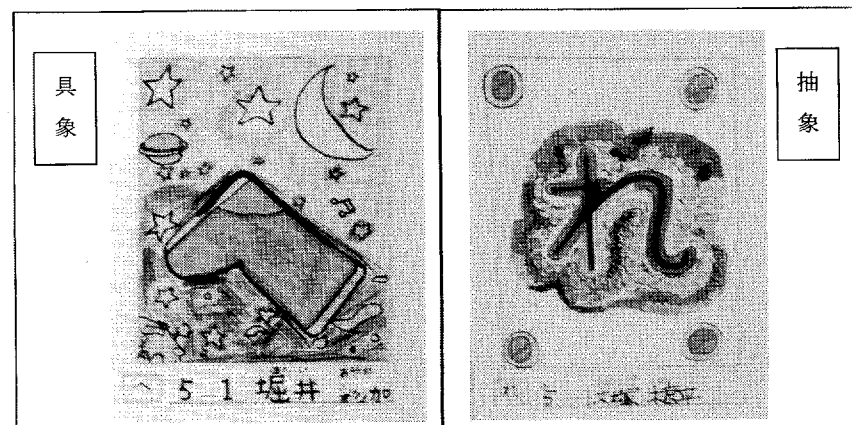
|   |   |
|---|---|
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ <b>表現活動の概要</b><br/>“ひらがな”50音から、自分が使いたい文字の一つを選び、それを元に、絵を描く。元にするひらがなの形から発想して、何をどの様に表現するかを決めて表し、絵の具や色鉛筆で彩色する。出来上がった作品は、他クラスのものもすべて展示して鑑賞し合う。“ひらがな”は誰もがよく知っている単純な文字たちである。そのため、それぞれの表現の違いや工夫が見えやすい。そこから発想や表現の違いを感じ取り、それらがそれぞれの「自分らしさ」につながることに気づく。</p> <p>○ <b>表現内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現対象/主題：自分で決める</li> <li>・ 表現材料：16切画用紙 色鉛筆 絵の具</li> <li>・ 表現形式：平面的に</li> <li>・ 表現様式（どの様に）：具象的、抽象的、イラスト的、デザイン的</li> <li>・ 表現技法：描画</li> </ul> | <p><b>授業の方法</b></p> <p>自分が選んだ“ひらがな”の形から発想をふくらませて、表現主題、表現様式を自分で決定しながら絵を描いていく。できた作品を展示し、鑑賞する。<br/>これらの活動をとおして、それぞれの「自分らしさ」に気付いていく課題追究型の授業である。</p> |
|---|---|

|  |
|--|
| <p><b>授業の条件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現内容：16切画用紙の中心あたりにひらがなを一字書く。それに形や色を描き足して、平面的に表現する。</li> <li>○ 学習形態と集団：個人表現、学年全体での集団鑑賞</li> <li>○ 集団の質：複数の学年で作品を製作し、学年を越えて鑑賞し合う活動も考えられる。製作する人数が増えると、自分と同じ文字を使って表現する人数も増えるので、表現の違いがさらによく見られるようになる。</li> </ul> |
|--|



5年生

全員の作品



(5年)【B 自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力/活動課題③】領域

活動名：はじまりは 手の形

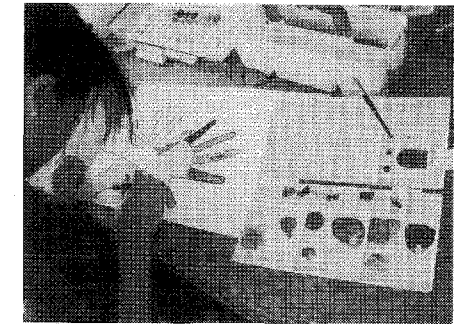
—好きな色 好きな感じで—

(45分×2)

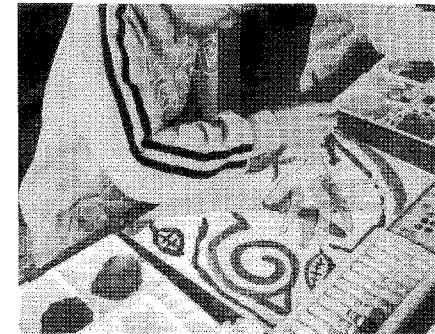
|  |   |   |
|--|---|---|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>5年生の4月。クラス替え間もなく、まだ友だち関係ができていなくて、なかなかのびのびと自分を出すことが出来ない様子である。そこで無理なく取り組める題材を設定した。また、この作品の製作や鑑賞をとおして、仲良くなるきっかけをつくれたらと願う。</p>   | <p><b>領域課題/活動課題/授業課題</b></p> <p>②造形表現活動をとおして相互理解、人間理解を図る。<br/>・それぞれの違いや「自分らしさ」を相互に認め合う。</p> <p>③「自分らしさ」を或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追求、発見したり、自己表現したりする力を培う。<br/>・手を写した形に自分の好きな色を好きな感じにぬっていく活動との出会いから「自分らしさ」を追究、発見、表現する。</p> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <p>○好きな色、色の組み合わせ、好きなぬり方を常に頭に置いて、表現を進めることで、「自分らしさ」を追求、発見、表現することができたか。</p> <p>○みんなの作品を鑑賞することで、それぞれの好みや表現の違いなどを認め、それが各自の「自分らしさ」であることに気づいたか。</p> |
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ <b>表現活動の概要</b><br/>自分の両方の手を、形が重なるように画用紙に写し取る。できた形に自分の好きな色だけを使って、好きな感じになるように絵の具で色をつける。<br/>この活動をとおして、「自分らしさ」に気付いていく。さらに、友だちの作品を鑑賞することにより、それぞれの「自分らしさ」を認め合う心情を養う活動である。</p> <p>○ <b>表現内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現主題：自分らしい感じ</li> <li>・ 表現材料：8切画用紙 絵の具</li> <li>・ 表現形式：平面的</li> <li>・ 表現様式：デザイン的</li> <li>・ 表現技法・用具/知識・技能：色の強弱や寒暖などの色の感じ 絵の具の水分量(濃い、薄い) ぬり方や筆使い(にじみ ぼかし 点描や線描など)</li> </ul> | <p><b>授業の方法</b></p> <p>手を写し取って出来た形は、どのようなものでもよい。重要なのは、その形にどんな色を、どのような組み合わせで、どのように塗るのか、である。<br/>自分の好きな感じを追求しながら、「自分らしさ」を発見していく課題追究型の授業である。</p>   |   |
| <p><b>授業の条件</b></p> <p>○表現内容 : はじめの図形は、自分の手を開いて画用紙に乗せ、それをペンで写し取る。次に、それに重なるように手を置き、ペンで写す。絵の具での表現を十分にさせるため、ここには、時間を掛けないこととする。<br/>好きな色で好きな感じに塗ることをしっかりと確認する。</p> <p>○学習時間 : 45分×2</p> <p>○学習形態 : 個人表現<br/>集団鑑賞 自分の好きな感じや友だちの好きな感じについてワークシートにまとめる。</p>  |   |   |



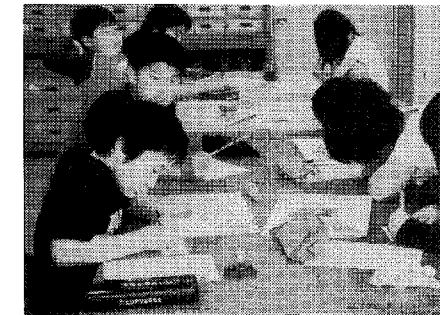
「ぼくの好きな色は、みどりっぽい感じです。水をたくさん入れて、透明な感じにぬるのが好きだな。」



「手と手が重なった線で色を変えてぬろう。好きな色はたくさんあるよ。」



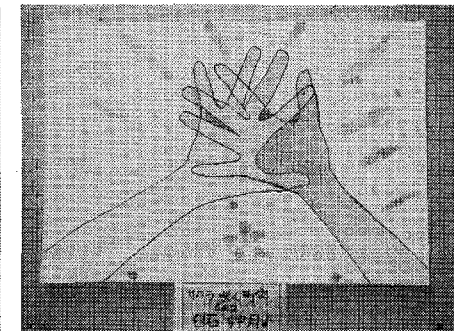
手の周りには、好きな感じに色をぬったり、絵を描いたりします。



絵が出来上がったら、題をつけます。自分の作品にぴったりの題をつけよう。



『にぎやかな風』



『サクラ咲く町』

(5年)【B 自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力/活動課題④】領域

活動名：楽しませ屋さん

－2年生を招待して－

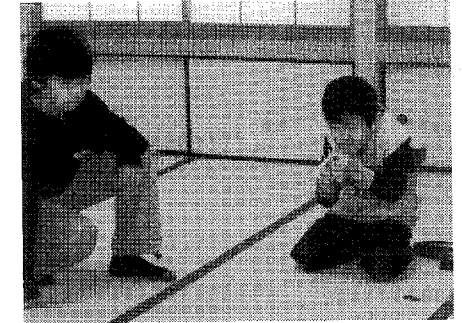
(45分×6)

|   |   |   |
|---|---|---|
| <p><b>児童・生徒の実態</b></p> <p>5年生の3学期は、そろそろ最高学年への心の準備を始める時期となる。自分がよければよいのではなく、他の人のために行動することも学んでほしい。そこで、2年生を招待して、造形活動で楽しませてあげることが条件に授業を設定した。</p>   | <p><b>領域課題/活動課題/授業課題</b></p> <p>②造形表現活動をととして相互理解、人間理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの友だち同士で、それぞれの考え方や感じ方の違いを相互に認め合い、尊重し、協力し合って活動する。</li> </ul> <p>④総合的な造形表現活動を経験し、造形的な総合力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生が楽しめる造形活動を企画することとおして、造形的な課題を発見、解決、決定、発表するなど、総合的な造形表現力を養う。</li> </ul> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <p>○グループ毎に、どのような内容の造形活動なら2年生が楽しめるかを考え、試しにつくってみたり、2年生の反応を予想しながら分かりやすいように準備したりすることができたか。</p> <p>○お互いに意見の違いを認め合い、尊重し、協力して活動することができたか。</p> |
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ <b>表現活動の概要</b></p> <p>2年生を造形活動で楽しませてあげることが目標に、自分たちでグループを決め、何をつくるかを決め、計画を立てて準備をする。準備の途中で2年生役を決めて試しにやってみて、問題点などを見つけ、解決していく。発表当日に、2年生を招待して一緒に活動し、楽しませてあげる。</p> <p>○ <b>表現内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表現対象：使えるもの、飾るもの、ゲーム的なもの、遊ぶものなど2年生が造形活動を楽しめるもの</li> <li>・ 表現材料：紙、木、身近材など、自分たちで準備できるもの</li> <li>・ 表現形式：平面、立体、適応的表現など自由</li> <li>・ 表現様式：自由</li> <li>・ 表現技法：折り紙、工作、スタンプング、マーブリングなど</li> </ul> | <p><b>授業の方法</b></p> <p>2年生を楽しませてあげることが目標に、5年生の児童が、グループづくり、内容決め、準備、問題点の発見、解決、決定、発表などすべてを話し合い、試行錯誤して進めていく児童中心の総合型授業である。</p>   |   |
| <p><b>授業の条件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現内容：自分ばかりが楽しんでいて、それを人と共有できない児童もいる。自分たちが楽しむのではなく、2年生を楽しませるのだということを徹底する。材料、形式、技法などは自由であるが、準備に使える時間や子どもたちの経験や実態から見て、無理のない範囲とする。</li> <li>○ 学習形態と集団：3～5名くらいのグループ活動</li> <li>○ 学習時間：準備(45分×5) 2年生を招待する(45分×1)</li> </ul>   |   |   |

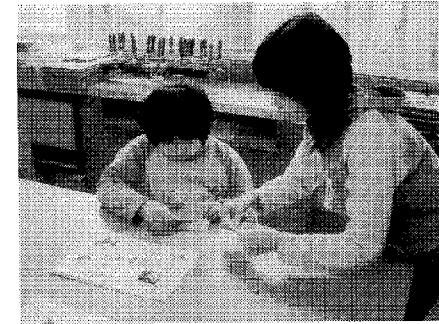
授業状況



「わりばし鉄砲は、こうやってつくるんだよ。」



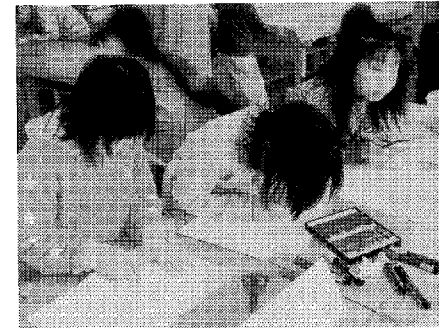
「さあ、できたもので遊ぼう。的をよくねらって打ってね。」



「おりがみは、一緒に折りながら教えてあげると2年生にはわかりやすいみたい。」



「色紙を重ねて切って、きれいなカードをつくろう。」



「ステンシルのやり方で模様をつくるよ。」



「木ぎれで船をつくったよ。流しに水をためて、浮かべて遊ぼう。」





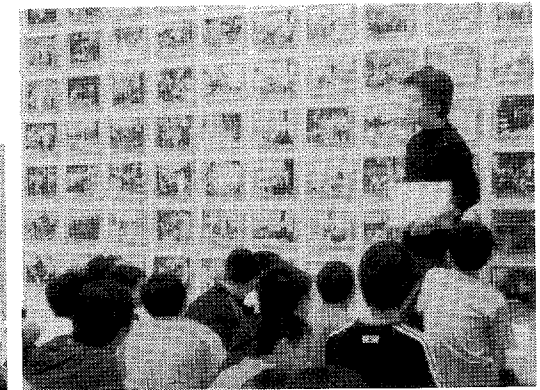
(5年) 【C 造形的な見方・考え方と造形感覚/活動課題⑥】領域

活動名：これもゲージュツ？！

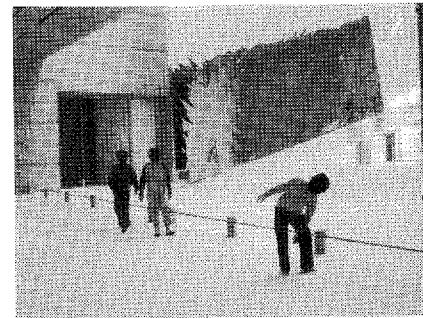
—現代美術館での鑑賞活動—

(45分×3+約60分)

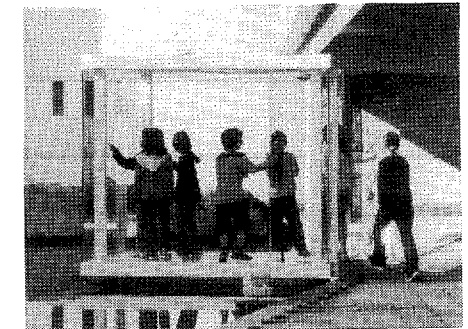
| 児童・生徒の実態   | 領域課題/活動課題/授業課題  | 評価と評価の方法  |
|--|---|---|
| <p>子どもたちに「美術館へ行ったことがある人は？」と聞いてみると、クラスに3～4人程度が行ったと答える。</p> <p>美術館は、少し敷居の高い場所という印象があるが、本物を目の当たりにする経験は、何物にもかえられない貴重な体験となるであろう。</p>  | <p>⑥造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館やそこで働く人、そこにあるものを知り、興味をもつ。</li> <li>・たくさんの本物の現代美術作品を鑑賞し、今まで知らなかった様々な表現があることを知り、それらを通してものの「見方」や「考え方」「生き方」に気付く。</li> </ul> | <p>○鑑賞活動の事前学習として、興味をもって美術館について調べたり、ビデオで学習したりできたか。</p> <p>○美術館での鑑賞活動で、学芸員の解説を聞いたり、実物を見たり、体験したりして、ものの「見方」や「考え方」、それぞれの作者に様々な「生き方」があることに気付くことができたか。</p>                     |
| 授業/表現の内容   |   | 授業の方法   |
| <p>○ 活動の概要</p> <p>事前に学芸員と連絡を取り、美術館についての情報や展覧会の概要、子ども向けの鑑賞方法などについて打ち合わせしておく。</p> <p>事前学習として、美術館やそこで働く人についてのビデオを借りられたのでそれを見せて学習した。展覧会の内容についても簡単に紹介し、みどころや注意事項、館内でのマナーなどについて確認をした。</p> <p>鑑賞活動の当日は、学芸員から約20分間のレクチャーを受け、その後、40分間のグループでの自由鑑賞とした。</p> <p>事後は、文章による鑑賞のまとめをした。</p> |   | <p>事前学習は、美術館やそこにある作品についての社会的意味や価値、また、公共の場所でのマナーなどについての教師からの講義型授業である。</p> <p>鑑賞活動は、事前学習で学んだことや学芸員から教えてもらったこと、自分が実際に見たり体験したりして感じたことなどを自分なりに整理し、関連づけて受け止めていく総合型の活動である。</p> |
| 授業の条件  |   |   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 鑑賞内容：児童の実態を考慮し、興味や関心をもって鑑賞できる内容の展覧会选择びたい。そして、レクチャーやワークシートの活用など鑑賞の方法を工夫する。また、学芸員や引率する教員同士での綿密な打ち合わせが不可欠である。</li> <li>○ 学習形態と集団：事前学習は、集団で 鑑賞活動は、小グループで</li> <li>○ 指導体制：学芸員、担任、専科教員で打ち合わせを密にし、協力して指導に当たる。</li> </ul>                 |   |   |



学芸員さんからのレクチャー  
「うわあ、そうなんだ、すごいなあ。」本物を前に、みんな真剣に聞きます。



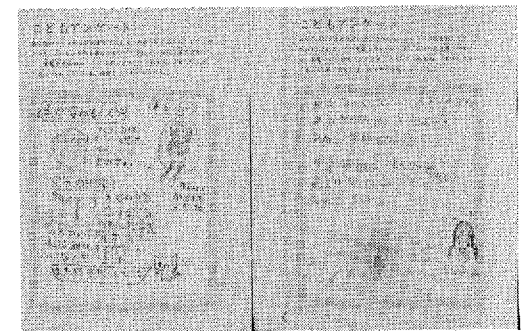
「大きいなあ、どうなっているんだろう?！」



「空気をデザインしたんだって。こういうのも、作品になるんだね。」



「私の気に入った作品はね…」  
ワークシートにメモしながら鑑賞します。



学校に戻ってから、感想を絵や文でまとめました。

## 6 学年 カリキュラム編成における「活動課題領域」の実践例

### A 【心の開放と自分理解、相互理解】領域

→ 「他との関係の中に『自分らしさ(Identity)』を求め、人間的な自立を促す。」

① 「造形表現活動の快さや楽しさを経験し、心を開く。

実践例 ① 活動名 パラソルレインボー

－かさをならべて・・・－

② 造形表現活動をとおして相互理解、人間理解を図る。

実践例 ② 活動名 学校はすてきな表現ステージ!

－あつとおどろく場所づくり－

### B 【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域

→ 「自主的、主体的、創造的に表現すること。」

③ 「自分らしさ」を、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりする力を培う。

実践例 ③ 活動名 ○○○○の形

－木をけずって、みがいて、つなげて・・・－

④ 総合的な造形表現活動を経験し、造形的な総合力を養う。

実践例 ④ 活動名 よみがえれ! 思い出

－思い出の写真をはって－

### C 【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域

→ 「造形的なものの見方や考え方、造形感覚や感性を培う。」

⑤ 造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。

実践例 ⑤ 活動名 すてきなものウォッチング

－デジタルカメラをつかって－

⑥ 造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。

実践例 ⑥ 活動名 どうやってかいたのだろう?

－芸術家の描いた絵を選んで－

### ○カリキュラム編成における各学年の「課題要素/活動課題・表現内容領域」の配当割合

| 課題要素領域/活動課題領域                      | 表現内容 (表現主題/表現形式) |             |     |     |  |  |
|------------------------------------|------------------|-------------|-----|-----|--|--|
|                                    | 心象的表現 (50%)      | 適応的表現 (50%) |     |     |  |  |
|                                    | 平面/半立体/立体        | 平面/半立体/立体   |     |     |  |  |
| 課題要素領域/活動課題領域                      | 低学年              | 中学年         | 高学年 | 中学  |  |  |
| <b>A 【心の開放と自分理解、相互理解】領域</b>        |                  |             |     |     |  |  |
| (1) 「造形表現活動の快さと心の開放」領域             | 40%              | 30%         | 20% | 20% |  |  |
| (2) 「造形表現活動をとおした相互理解」領域            | 5%               | 10%         | 15% | 15% |  |  |
| <b>B 【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域</b> |                  |             |     |     |  |  |
| (3) 「自分らしさの追究、発見、表現」領域             | 20%              | 20%         | 20% | 20% |  |  |
| (4) 「造形表現活動の総合力」領域                 | 5%               | 10%         | 15% | 15% |  |  |
| <b>C 【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域</b>       |                  |             |     |     |  |  |
| (5) 「造形的な見方・考え方と造形感覚」領域            | 20%              | 20%         | 20% | 20% |  |  |
| (6) 「知識・技能と造形文化」領域                 | 10%              | 10%         | 10% | 10% |  |  |

(6年) 【A 心の開放と自分理解、相互理解/活動課題①】領域

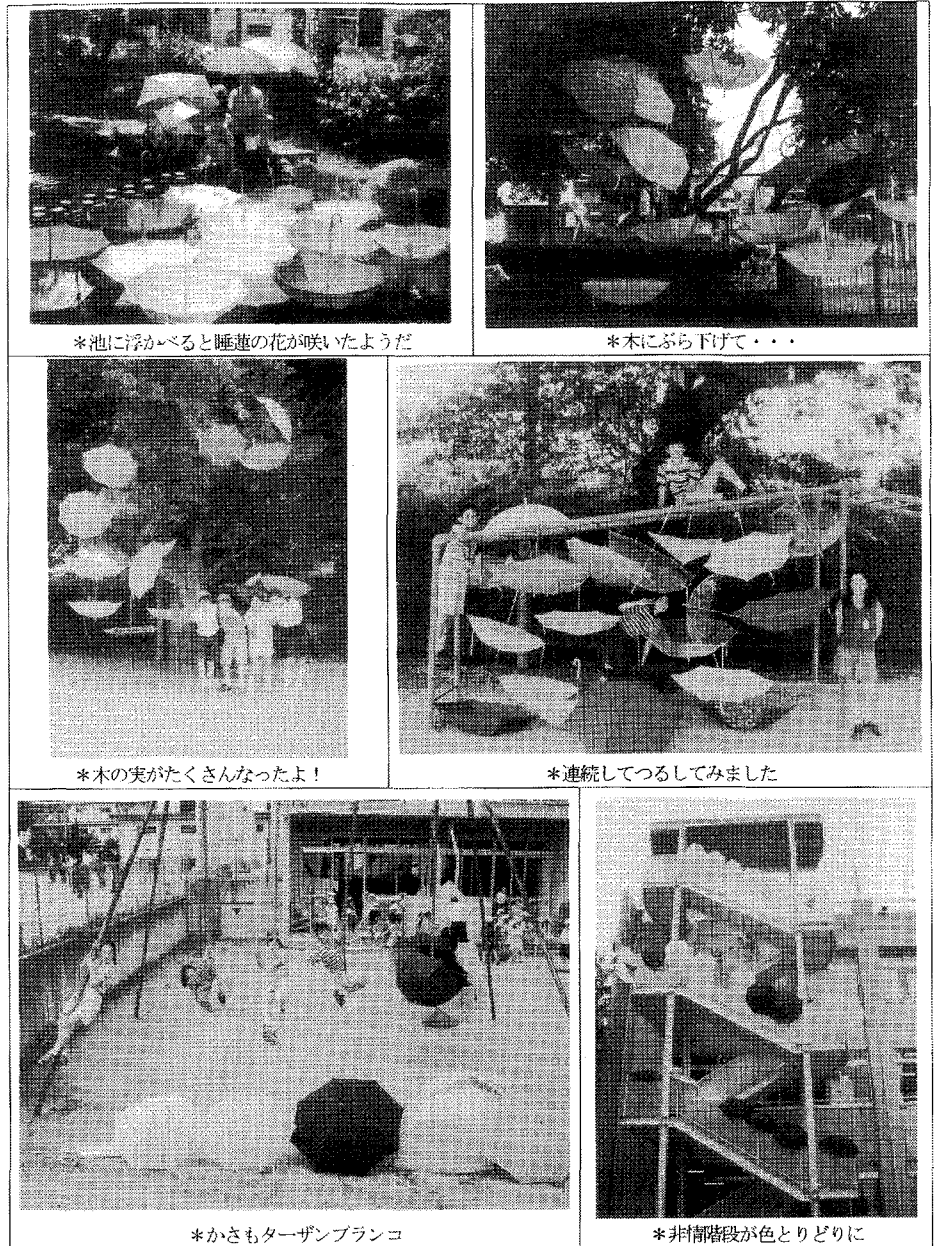
活動名：パラソルレインボー

—かさをならべて・・・—

(45分×2)

| 児童の実態   | 活動課題/授業課題  | 評価と評価の方法  |
|---|--|---|
| <p>学習を積んできた6年生にとって、視覚的な効果を考へて表すことはもの見方や考え方、感じ方を深めていくことにつながり、意味のある学習である。</p> <p>また、最高学年として校内のいろいろな場所を熟知している6年生にとって、校内環境とかわりながら学習していくことは意欲的になる。</p>   | <p>①造形表現活動の快さや楽しさを経験し、心を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的材料による造形表現活動の快さや楽しさを知る。</li> <li>造形的に表現することで他や造形表現に対する考え方に心を開く。(自己表出、開放、肯定)</li> </ul> <p>②造形表現活動とおして相互理解、人間理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>造形的なものの「見方」や「考え方」「感じ方」、或いは表現の違いなどに気づき、それらがそれぞれの「自分らしさ」につながることに気づく。</li> </ul> | <p>○雨傘を使つての視覚的な効果を考へたり、必要な材料を探したりして、自分が納得するように表そうとする。<br/>(対話・行動観察・表現)</p> <p>○雨傘やそれを飾る場所の色や特徴をもとに発想を広げたり、意外性やユーモアなどのある発想をするなど、自分らしい表現を構想する。<br/>(対話・行動観察・表現)</p> <p>○楽しい発想やアイデア、様々な表現にふれ、新たな見方に気付く。<br/>(対話・行動観察・記録)</p> |
|   | ⇕⇕   | ⇕⇕  |
| 授業/表現の内容  | 授業の方法  |   |
| <p>○ 表現活動の概要</p> <p>学校内で雨傘をたくさん飾ると、面白かったり、楽しく変化したりする場所について話し合う(パラソルレインボー作戦)。グループをつくり、どこに、どのように雨傘を飾るか話し合ったり、場所を探したりする。場所が見つかったら、活動場所で雨傘を飾る。さらにグループで思い付いた活動も付け加える。デジタルカメラで撮影し、記録として残す。表したもののよさや美しさを鑑賞する。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現対象/主題(何を)：雨傘を活用して校内を変化させる</li> <li>表現材料(何で)：主材料：雨傘</li> <li>表現形式(どの様に)：インスタレーション的に</li> <li>表現様式(どの様に)：主に抽象的に</li> <li>表現技法/用具/知識(どの様に)：雨傘を置く、差す、つるす、浮かべる、並べるなど、その他自分たちの方法を見つけながら。</li> </ul> | <p>雨傘をたくさん飾る場所をグループで探す。場所が決まったら、そこで雨傘をどのように飾るか試行錯誤して決定していく課題追究型の授業である。表現ができれば、デジタルカメラで撮影し、記録に残す。</p>   |   |
|   | ⇕⇕   |   |
| 授業の条件：(表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など)   |  |   |
| <p>○表現内容：雨傘を中心材料にし、抽象表現として学校内の場所に働きかけて表現する。<br/>：表現方法や材料は雨傘を中心材料とした表現を超えない範囲で選択、活用する。</p> <p>○学習時間：90分</p> <p>○学習形態：グループ表現、集団鑑賞</p>   |  |   |

授業状況





活動名：学校は大きな表現ステージ

—あっとおどろく場所づくり—

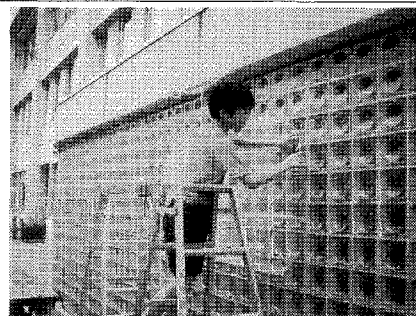
(45分×6)

| 児童の実態  | 活動課題/授業課題  | 評価と評価の方法   |
|--|--|--|
| <p>広い場所を使って遊ぶことやユーモアのある会話、意外な発想を楽しんでいる。造形活動においても活動場所の広がりが見られるようになり、視覚的效果を考え、意外性やユーモアのある発想をしながら、それを伝えることに関心をもつようになった。さらに環境とのかかわりにおいては、場所の特徴や空間の面白さに目を向けるようになった。また、これまでの経験や身につけた力を総合的に発揮して表現することを好むようになった。</p> | <p>①造形表現活動の快さや楽しさを経験し、心を開く。<br/>・自信を持って他に自分を伝える喜びを知る。(自己実現、相互理解)<br/>②造形表現活動をとおして相互理解、人間理解を図る。<br/>・造形的なものの「見方」や「考え方」「感じ方」、或いは表現の違いなどに気づき、それらがそれぞれの「自分らしさ」につながることに気づく。<br/>・それぞれの違いや「自分らしさ」を相互に認め、尊重し協力し合って共に高め合う。</p> | <p>○場所や環境の特徴から、表したい物を友人と意見を出し合い決定し、友人の見方や考え方を受け入れながら活動を進める。<br/>(対話・行動観察・表現)<br/>○場所や環境の特徴から設置物を考えたり、探した場所で見える位置を変えたり、設置物を実際に手にして操作したりしながらユーモアや視覚効果を考える。<br/>(対話・行動観察・表現)<br/>○自分たちが取り組んだ空間の構成について説明しながら友人に見せたり、友人の空間の構成のよさや面白さを感じ取ったりしながら見ている。<br/>(対話・行動観察・表現)</p> |

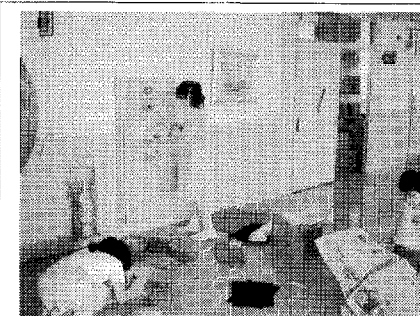
| 授業/表現の内容  | 授業の方法  |
|---|--|
| <p>○ 表現活動の概要<br/>学校にはいろいろな施設や空間があり、それぞれの用途によって特徴が異なる。このようないろいろな場所に働きかけ、そのイメージや特徴を生かして思い付いたことを表現する活動を行っていく。学校生活を通して何気なくかかわってきた空間が、工夫を加えることで意外な空間へと変化していく楽しさを味わうようにする。その場所の特徴などから発想し、色の美しさや形の面白さ、高学年のユーモアなどの表現を楽しませていく。</p> <p>○ 表現内容<br/>・表現対象/主題(何を)：学校の施設や空間<br/>・表現材料(何で)：自分で考えた材料<br/>・表現形式(どの様に)：半立体、或いは立体的に<br/>・表現様式(どの様に表現する)：装飾<br/>・表現技法/用具/知識(どの様に)：自分たちの方法を見つけながら。</p> | <p>学校をもう一度見直す時間を設定し、校内を歩いて可能性を探り、構想を練る。<br/>グループで可能性を話し合い、方向性を決定していく。その後自分たちのグループ表現を試行錯誤していき、友人それぞれの違いや「自分らしさ」を相互に認め、尊重し協力し合って共に高め合う課題追究型の授業である。</p> |

| 授業の条件：(表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など)  |
|--|
| <p>○表現内容：いろいろな場所に働きかけ、そのイメージや特徴を生かして思い付いたことを表現する活動を行っていく。<br/>：表現方法や材料は、自分たちのグループで考え、決定していく。</p> <p>○学習時間：270分<br/>○学習形態：グループ表現、集団鑑賞</p> |

授業状況



\*外から黄色のゼロハンをはると・・・



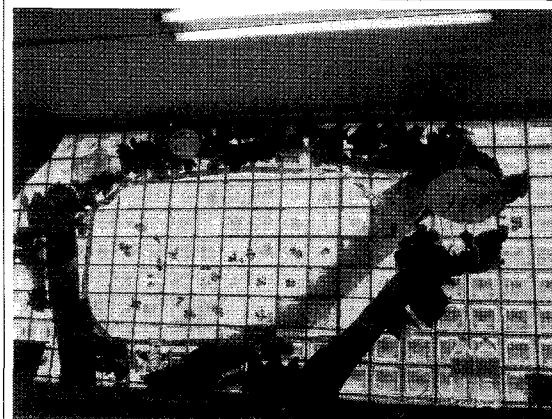
\*この場所を変化させよう!



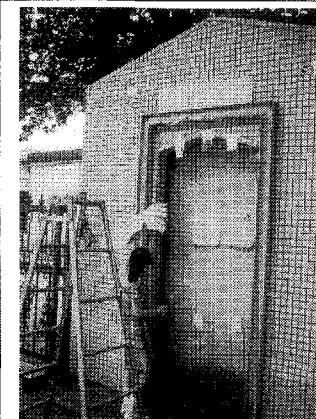
\*木がタヌキに見えたぞ!



\*階段の手すりにスキー場をつくるぞ!



\*窓ガラスが蜂の巣に見えた! 蜂もたくさん飛ばしたよ。



\*正門が口を開けている人の顔!

(6年)【B 自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力/活動課題③】領域

活動名：〇〇〇〇の形

—木をけずって、みがいて、つなげて…—

(45分×6)

| 児童の実態  | 活動課題/授業課題  | 評価と評価の方法   |
|--|--|--|
| <p>6年生のこの時期は、いろいろな力が身に付いており、多少困難で抵抗ある材料や今までに学習していない材料・用具・表現方法を設定すると、児童は自分の力を注ぎ、活動に意欲的になる。</p> <p>そのような題材を設定することにより、新たな力を獲得できるようにしたい。</p> | <p>③「自分らしさ」を、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりする力を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自主的、主体的な造形表現活動の喜びを知り、活動の意欲や積極性を持つ。</li> <li>造形的な課題に合わせ、表現対象/主題、表現材料/素材/造形要素、表現形式や様式、表現技法/用具などを選択したり追究したりしようとする。</li> <li>表現対象/主題、表現材料/素材/造形要素、表現形式や様式、表現技法/用具などとの出会いから「自分らしさ」を追究、発見、表現する。</li> </ul> | <p>〇木を使った活動に取り組みながら、想像を広げて、自分の表現を考えたり、思い付いたりする。</p> <p>(対話・行動観察・表現)</p> <p>〇木の特徴を生かし、用具を選択しながら、工夫して使う。</p> <p>(行動観察・対話・表現)</p> <p>〇表したいことに合わせて、足りないものを付け加えたり、新たな方法で表したりする。</p> <p>(対話・行動観察・表現)</p> |

| 授業/表現の内容   | 授業の方法  |
|--|--|
| <p>〇 表現活動の概要</p> <p>木を削ったり、磨いたりしながら、自分の〇〇〇〇の形をつくっていくことを話し合う。そして自分が使いたい木を探す。木を削ったり、磨いたり、加工したりしながら、自分の考えた形にしていく。さらに、思い付いたことを表す。最後に自分の「〇〇〇〇の形」の題名を決め、表したもののよさや美しさを鑑賞する。</p> <p>〇 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現対象/主題 (何を)：木を加工し、自分の「〇〇〇〇の形」にする</li> <li>表現材料 (何で)：主材料：木 (角材、丸棒、枝など)</li> <li>表現形式 (どの様に)：立体的に</li> <li>表現様式 (どの様に)：主に抽象的に</li> <li>表現技法/用具/知識 (どの様に)：木を削る、磨く、つなげるための材料・用具 (のこぎり、きり、手動ドリル、紙ヤスリ、木工やすり、小刀、木工用接着剤、ホットメルト接着剤、彫刻刀など)</li> </ul> | <p>木を削る、磨く、つなげるための基本的な材料や用具を提案し、選択は児童が行うようにする。活動しながら、自分の考えや方法を見つかったり、必要に応じて他の材料や用具を選択したりし、自らの〇〇〇〇の形を試行錯誤しながら表現していく課題追究型の授業である。</p> |

| 授業の条件：(表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など)   |
|---|
| <p>〇表現内容：木を削ったり、磨いたり、つなげたりしながら、自分の考えた「〇〇〇〇の形」にしていく。さらに、思い付いたことを表す。</p> <p>〇学習時間：270分</p> <p>〇学習形態：個人表現、集団鑑賞</p> |

授業状況

\*紙やすりで磨く。木のさわりがこちがいい。

\*木にきりで穴をあける

\*木をヒートンでつなげてつりさげってみました。

\*木以外の材料もつけたしてみると・・・

\*木の角度に着目してつなげると、曲線に・・・

\*経木も使って、いすにしてみました。

(6年)【B 自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力/活動課題④】領域

活動名：よみがえれ！思い出

—思い出の写真をはって—

(45分×11)

|  |  |  |
|--|--|--|
| <p><b>児童の実態</b></p> <p>小学校卒業前の児童には多感であり、いろいろな力をもっている。この時期にはこれまでの学習の成果を発揮できるような総合的な題材がふさわしい。個々のもつ能力それぞれが遺憾なく発揮できるよう広い題材設定が望まれるところである。また、その中で自分が表したいものを見付け、意欲的に活動していくものと思われる。</p>  | <p><b>活動課題/授業課題</b></p> <p>④総合的な造形表現活動を経験し、造形的な総合力を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らが持っている造形的な知識や技能、或いは造形的なものの「見方」や「考え方」「関わり方」などの経験を場や状況、造形的な課題などに合わせて有機的、関係的、総合的に捉えて思考、分析、判断するなど、総合的な造形情報処理力を養う。</li> <li>・総合的な課題を持った造形表現活動を経験し、造形的な課題を発見、選択、決定、追究、解決、応用、発表するなど、総合的な造形表現力を養う。</li> </ul> | <p><b>評価と評価の方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「こんなふうにしたいな」という思いをもち、材料や用具、表し方を構想する。(行動観察・対話・表現・記録)</li> <li>○自分の思いを表す活動の見通しをもつ。(行動観察・対話・表現・記録)</li> <li>○表したいことに合わせて、これまでに経験した表現方法や材料の扱い方を生かし、工夫して表す。(行動観察・対話・表現)</li> <li>○自分の表したい世界を表現する方法を見付けながら、思いのままに表す。(行動観察・対話・表現)</li> </ul> |
| <p><b>授業/表現の内容</b></p> <p>○ 表現活動の概要<br/>思い出について話し合い、小学校生活を振り返る。思い出を想起しながら、自分なりに思い出をよみがえらせる。思い出した活動をどんどん行う。最後に全員で活動のよさを感じる。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現対象/主題(何を)：自分の思い出</li> <li>・表現材料(何で)：学習カード、カラーコピー機、その他必要に応じて自分の思い出をよみがえらせるのに必要な材料</li> <li>・表現形式(どの様に)：立体、平面、自分でどちらかを選択決定</li> <li>・表現様式(どの様に)：具象・抽象、自分の考えたことを進める</li> <li>・表現技法/用具/知識(どの様に)：その他自分の方法を見つげながら。</li> </ul> | <p><b>授業の方法</b></p> <p>自分の思い出を表すため、小学校生活の中で印象的な出来事や大切にしていたものを探すようにする。それを中心において表現していくようにする。材料は自分自身で探すことを基本とし、必要に応じて他の材料や用具を教師が補助する。自らの表現を思い出という切り口で試行錯誤していく課題追究型の授業である。</p>   |  |
| <p><b>授業の条件：(表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など)</b></p> <p>○表現内容：自分の思い出を表すため、小学校生活の中で印象的な出来事や大切にしていたものを探すようにする。それを中心において表現していくようにする。<br/>：表現方法や材料は自分で決定する。</p> <p>○学習時間：495分</p> <p>○学習形態：個人表現、集団鑑賞</p>  |  |  |

授業状況

|  |  |  |
|--|--|--|
|   |   |   |
| <p>*一番好きなバスケットボールを思い出に</p>   | <p>*サッカースタジアムにほくの思い出をつめこんだ</p>   | <p>映写機から思い出が映されるようにしました。</p>   |
|   |   |  |
| <p>*運動会で走った思い出を・・・</p>   | <p>*学年ごとの思い出をオリジナルアルバムにしました</p>  |  |
|  |  |  |
| <p>*鉛筆の中に思い出がつまっている。</p>   | <p>思い出の教室を舞台に、再現した！</p>  | <p>*6年間使用したランドセルへの思い</p>   |



(6年) 【C 造形的な見方・考え方と造形感覚/活動課題⑤】領域

活動名：すてきなもののウォッチング

ーデジタルカメラを使ってー

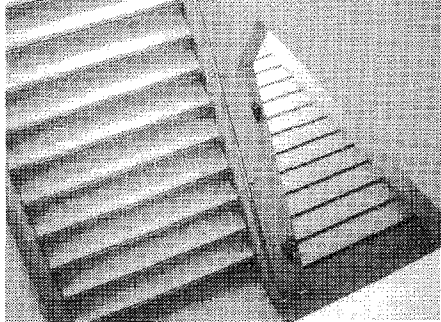
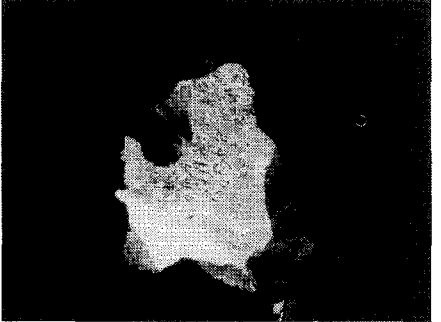

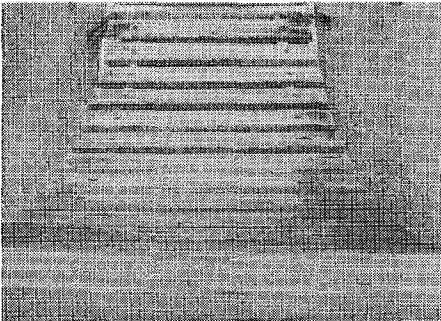
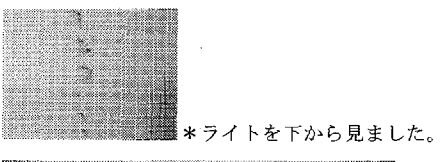
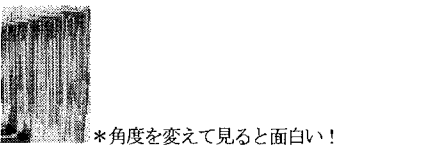
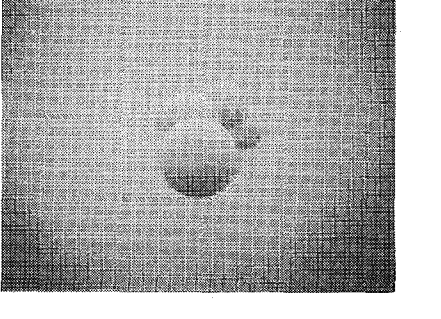
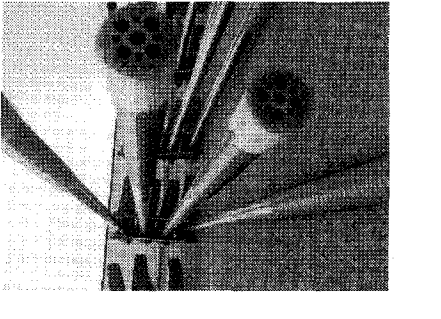
(45分×3)

| 児童・生徒の実態   | 活動課題/授業課題  | 評価と評価の方法  |
|--|--|---|
| 表現過程をデジタルカメラで記録し、自らの表現を振り返る活動を積み重ねてきたことで、第5学年のときと比べ、表現に対するこだわりや自信をもって活動する児童の姿が多く見られるようになってきている。題材のテーマに合わせ、効果を考えながら表現の仕方や材料の生かし方を工夫する様子も見られるようになってきている。 | ⑤造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。<br>・造形的な要素として色彩や形態、材質を捉え、それらの特性や法則性、相互の関係性など、造形的なものの「見方」や「考え方」、「発想方法」などを思考し、造形感覚を養う。<br>・表現素材としての色彩や形態、材質の特性や法則性、相互の関係性などを捉え、表現形式や様式、表現材料/素材や表現技法、用具などと関連させ、それらを生かした表現を追究することから造形的なものの「見方」や「考え方」、「発想方法」などを思考し、造形感覚を養う。 | ○地域にあるものの色や形の面白さや楽しさを感じたり、見付けたりする。<br>(行動観察・発表・記録)<br>○身近にあるすてきなものをいろいろな角度から見て、一番よいと思ったところを見付ける。<br>(行動観察・発表・記録)<br>○身近にあるすてきなものへのよさに気付く。<br>(行動観察・対話・記録・発表)<br>○身近なものに対する人の見方や感じ方にふれ、認めている。<br>(行動観察・対話・記録・発表) |

| 授業/表現の内容   | 授業の方法   |
|--|---|
| ○ 表現活動の概要<br>すてきなものを探し、デジタルカメラに撮る活動について話し合う。デジタルカメラの使い方を確認する。安全面についての約束を決める。校舎内外ですてきなものを見付ける。デジタルカメラですてきなものを撮影する。撮ってきた映像を互いに見合い、それぞれのよさを鑑賞する。<br>○ 表現内容<br>・表現対象/主題(何を)：すてきなものを探して撮影する<br>・表現材料(何で)：主材料：デジタルカメラ、<br>・表現形式(どの様に)：撮影したものを印刷し、ウォッチングカードに貼る。題名や撮影の意図等を記入する。<br>・表現様式(どの様に)：カメラによる記録<br>・表現技法/用具/知識(どの様に)：デジタルカメラの基本的な使い方 | 児童の視点を大切にしながら生活の中の美しさやよさなどを見付けていき、それらを自発的に鑑賞するものである。具体的には、ものの美しさやよさなどに気付いた時に、それをカメラで記録する活動を行う課題追究型の授業である(ただし、動物など児童が感情移入しやすいものは対象からはずし、人間がつくったものの中からすてきなものを探すという限定した提案をする)。 |

| 授業の条件：(表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など)  |
|--|
| ○表現内容：デジタルカメラで撮影した画像を印刷し、ウォッチングカードに貼る。ウォッチングカードには、作品の題名や撮影の意図を記入するようにする。<br>○学習時間：135分<br>○学習形態：グループ鑑賞、個人表現、学級集団鑑賞 |

授業状況

|   |   |
|---|---|
|    |    |
| *階段の交差する線がすてきに見えた!  | 木の穴から向こうが見える。別の世界のように見えたので、撮影した。  |
|    |    |
| *学校に海が出現!<br>砂場にはあったブルーシートに接近して撮影   | *ジェットコースターの落ちる瞬間みたい!<br>鉄棒のそばにあった逆上がり練習板を上から撮影  |
|   |   |
| *ライトを下から見ました。   | *角度を変えて見ると面白い!  |
|  |  |



(6年) 【C 造形的な見方・考え方や造形感覚/活動課題⑥】領域

活動名：どうやってかいたのだろう？

—芸術家の描いた絵を選んで—

(45分×4)

| 児童の実態  | 活動課題/授業課題  | 評価と評価の方法   |
|--|--|--|
| <p>新たな表し方を試して見方や考え方に気付いたり、テーマをもとに自ら活動を決定したりして、主体的に活動していく姿が見られる。</p> <p>また、新たな見方や考え方に気付くことにより、今までの意味や価値を見直すことにもつながっていくのがこの時期である。</p>  | <p>⑥造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会的、文化的に必要な造形文化や美術史を知り、それらを通したものの「見方」や「考え方」「生き方」に気づく。</li> <li>造形文化や美術史から自らの造形的な価値観を培う。</li> </ul> | <p>○芸術家がどのように作品を描いたのか自分なりに思いをめぐらせたり、芸術家の作品をいろんな角度から見たりして、自分なりの表し方を考える。<br/>(行動観察・対話・表現)</p> <p>○芸術家の表現を色や形、筆づかひに着目し、自分なりに工夫して表す。<br/>(行動観察・対話・表現)</p> <p>○作品の意図を想像したり、表現の特徴を感じ取ったりする。<br/>(行動観察・対話・記録)</p> <p>○芸術家の表現について話し合うことで、自分と違う友人の考えを聞き、自分の考えと比較したり、作品を振り返ったりしながら見方を深める。<br/>(行動観察・対話・記録)</p> |
| 授業/表現の内容   |  | 授業の方法  |
| <p>○ 表現活動の概要</p> <p>好きな芸術家の作品の中で自分の好きな絵を1枚、見付ける。芸術家の気持ちになって、選んだ絵を模写する。作品に感想を添える。互いの作品のよさを見合う。</p> <p>○ 表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現対象/主題(何を)：自分が選んだ芸術家の絵</li> <li>表現材料(何で)：主材料：画用紙、水彩絵の具、色鉛筆、カラーペンクレヨン・パス、その他</li> <li>表現形式(どの様に)：絵に表す</li> <li>表現様式(どの様に表現する)：(自分なりに)模写</li> <li>表現技法/用具/知識(どの様)：自分が選んだ芸術家の絵を見て自分で決める、方法を見つけながら。</li> </ul> |  | <p>好きな芸術家の絵の中から自分の好きな絵を見付け、それを模写していきながら、芸術家の表現を理解したり、自らの表現を試行錯誤したりする課題追究型の授業である。</p>   |
| 授業の条件：(表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など)  |  |  |
| <p>○表現内容：好きな芸術家の作品の中で自分の好きな絵を1枚、見付ける。芸術家の気持ちになって、選んだ絵を模写する。<br/>：表現方法や材料は自分で最適な方法や材料を見付ける。</p> <p>○学習時間：180分</p> <p>○学習形態：個人表現、集団鑑賞</p>  |  |  |

授業状況

|   |   |  |
|---|---|--|
|  <p>*ゴッホのぐるぐる、難しかった。</p>     |  <p>*ピカソを見直した！</p>               |  <p>*ヒロ・ヤマガタの虹に興味をもちました。</p>            |
|  <p>*ラッセンの夕日が好き。</p>         |  <p>*デ・キリコの「赤い塔」って、おもしろい作品だ！</p> |  |
|  <p>*モネの「...本の木」を選びました。</p> |  <p>*鞠月絵美の白い線が好き！修正液で描きました。</p> |  <p>*単純だと思って選んだクレーでしたが、意外に難しかったです！</p> |

## 中2年 カリキュラム編成における「活動課題領域」の実践例

### C 【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域

→ 「造形的なものの見方や考え方、造形感覚や感性を培う。」

#### ⑤-1 造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。

実践例 ⑤ 活動名 わたしの分身

－自然物を元にしたキャラクターのデザインを求めて！－

#### ⑤-2 造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。

実践例 ⑤ 活動名 自分キャラのファッションショー

－色と模様を楽しむ－

#### ⑤-3 造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。

実践例 ⑤ 活動名 自分キャラの〇〇詰め

－形の変形と密度のある表現を求めて！－

#### ⑤-4 造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。

実践例 ⑤ 活動名 自分キャラの春夏秋冬

－イメージで日本の四季を表すと？－

#### ⑤-5 造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。

実践例 ⑤ 活動名 自分キャラグッズ

－見た目楽しく生活に役立つデザインとは！－

#### ⑤-6 造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。

実践例 ⑤ 活動名 2次元？ ↔ 3次元？

－素材選びからはじめる立体表現の試み－

### ○カリキュラム編成における各学年の「課題要素／活動課題・表現内容領域」の配当割合

| 課題要素領域／活動課題領域               | 表現内容 (表現主題／表現形式) |     |             |     |
|-----------------------------|------------------|-----|-------------|-----|
|                             | 心象的表現 (50%)      |     | 適応的表現 (50%) |     |
|                             | 平面／半立体／立体        |     | 平面／半立体／立体   |     |
| 課題要素領域／活動課題領域               | 低学年              | 中学年 | 高学年         | 中学  |
| A 【心の開放と自分理解、相互理解】領域        |                  |     |             |     |
| (1) 「造形表現活動の快さと心の開放」領域      | 40%              | 30% | 20%         | 20% |
| (2) 「造形表現活動をととした相互理解」領域     | 5%               | 10% | 15%         | 15% |
| B 【自分らしさの追究力、発見力、表現力と総合力】領域 |                  |     |             |     |
| (3) 「自分らしさの追究、発見、表現」領域      | 20%              | 20% | 20%         | 20% |
| (4) 「造形表現活動の総合力」領域          | 5%               | 10% | 15%         | 15% |
| C 【造形的な見方・考え方と造形感覚】領域       |                  |     |             |     |
| (5) 「造形的な見方・考え方と造形感覚」領域     | 20%              | 20% | 20%         | 20% |
| (6) 「知識・技能と造形文化」領域          | 10%              | 10% | 10%         | 10% |

活動名：わたしの分身！

—自然物を元にしたキャラクターのデザインを求めて！— (50分)

|  |  |   |
|--|--|---|
| <p>生徒の実態</p> <p>絵を描くことに対して苦手意識を持つ生徒が多いが上手く描く(作る)ことへの欲求も非常に強い。</p> <p>そのため周囲の目や教師の評価を気にして、自信を持って作品作りに臨むことが出来ない。</p>   | <p>授業の課題・目標</p> <p>①造形表現の快さや楽しさを経験させ、心を開く。</p> <p>・自分のアイデアを生かして「自分らしさ」を表現することの楽しさ、面白さに気付く。</p> <p>⑤造形的なもの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。</p> <p>・自然物の形を元に、単純化や強調をしてキャラクターを表現しようとする。</p> <p>・自分のイメージに合ったキャラクターを表現できる。</p> | <p>評価と評価の方法</p> <p>○上手い下手にこだわらず、楽しみながらキャラクター作りに取り組めたか。(関心・意欲・態度)</p> <p>○イメージに合わせて選んだ自然物を元に、自分らしさを表現することが出来たか？(発想力・構想力)</p> |
| <p>授業/表現の内容</p> <p>○表現活動の概要<br/>自分自身を様々な角度から客観的にとらえ、キャラクターという形で表現する。できたキャラは今後の活動でモチーフとして活用する。</p> <p>○表現内容</p> <p>・表現対象/主題(何を)：自分キャラ(自分自身)</p> <p>・表現材料(何で)：画用紙(スケッチブック)・鉛筆・色鉛筆</p> <p>・表現形式(どの様に)：平面、絵画的、イラスト的</p> <p>・表現様式(どの様に)：主として具象的</p> <p>・表現技法/用具/知識(どの様に)：紙に描く、動植物の擬人化、形の単純化や強調などを用いて。</p> | <p>授業の方法</p> <p>自分の外見や性格、嗜好等から導き出されるイメージと合う動植物を選び、擬人化の技法を用いてオリジナルキャラクターを表現していく、生徒中心型・課題追究型の授業である。</p>  |   |
| <p>授業の条件：(表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など)</p> <p>○表現内容 A4サイズスケッチブックに自分のアイデアを生かしたオリジナルキャラクターを平面的に表現する。動植物を元にした擬人化キャラクターであること、後の立体化を意識した形であり複雑すぎないことを条件とする。</p> <p>○学習時間 1校時(50分)</p> <p>○学習形態 個人表現、相互鑑賞</p>  |  |   |

作品例



(中2年) C 【造形的な見方・考え方と造形感覚/活動課題⑤-2】 領域

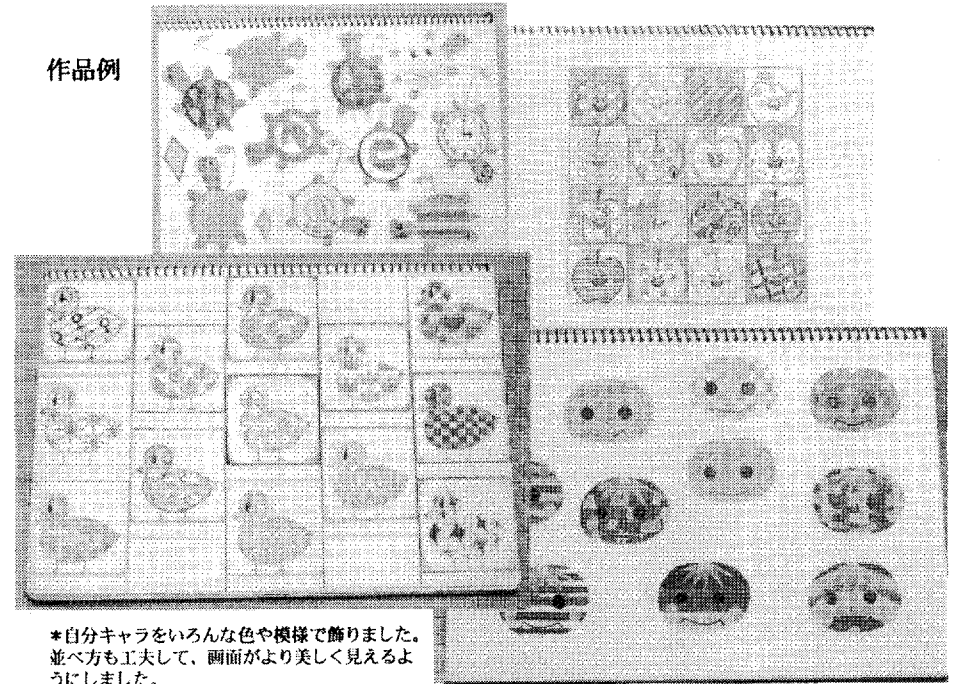
活動名：自分キャラのファッションショー

一色と模様を楽しむー

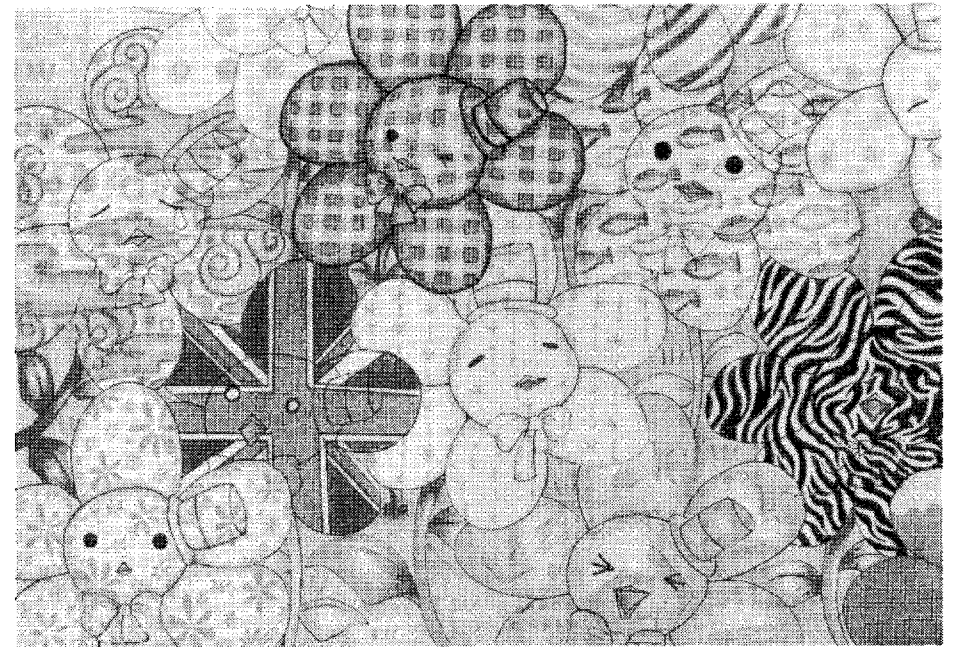
(50分×2)

| 生徒の実態  | 授業の課題・目標   | 評価と評価の方法   |
|--|--|--|
| <p>色彩学習は1年生時に基礎的な内容について行っている。</p> <p>色を塗ることについてはアクリルガッシュを用いた彩色練習を行っているが、ムラ無く塗ることを難しいと感じている生徒が多い。今回は色鉛筆を使用する為、抵抗は少ない筈である。</p>   | <p>⑤造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>色の組み合わせ(配色)や模様的美しさ、面白さを味わい、キャラのファッションを表現しながら色彩感覚やバランス感覚を高める。</li> </ul> <p>⑥造形的な知識や技能を養い、造形文化や歴史に興味や関心を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本や世界各国の工芸に用いられてきた文様や、身の回りにある様々な模様に関心を持ち、自分の作品に採り入れようとする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な色や形を駆使して自分キャラを美しく飾ることが出来たか。(発想力・構想力)(技能)</li> <li>日本や世界各国に昔からある文様の面白さや美しさ、身の回りにある模様的美しさを主体的に味わうことが出来たか。(鑑賞)</li> </ul> |
| 授業/表現の内容   |  | 授業の方法  |
| <p>○表現活動の概要</p> <p>自分の考えたキャラクターを様々な色や模様で飾り、ひとつの画面にレイアウトする。模様の選び方や配色の工夫、並べ方の工夫など、より美しく見せる描き方を追究する中で色彩感覚やバランス感覚を磨く。</p> <p>○表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>表現対象/主題(何を)：自分キャラ(自分自身)</li> <li>表現材料(何で)：画用紙(スケッチブック)・鉛筆・色鉛筆</li> <li>表現形式(どの様に)：平面、絵画的、イラスト的</li> <li>表現様式(どの様に)：主として具象的</li> <li>表現技法/用具/知識(どの様に)：紙に描く、平面的に構成する、色や模様を効果的に活用しながら。</li> </ul> | <p>様々な色や模様を用いて自分のキャラクターを飾り、それを美しく見せるための並べ方を試行錯誤しながら工夫して一枚の画用紙に平面的に構成する、生徒中心型・課題追究型の授業である。</p>  |  |
| 授業の条件：(表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など)  |  |  |
| <p>○表現内容</p> <p>○学習時間</p> <p>○学習形態</p>   | <p>A4サイズスケッチブックに複数の自分キャラをそれぞれ異なる模様で飾り、ひとつの画面の中にバランスよく構成する。キャラクターは原則として同じ形のものを用いるが、大きさは変えてよい。</p> <p>1校時×2(100分)</p> <p>個人表現、相互鑑賞</p>   |  |

作品例



\*自分キャラをいろんな色や模様で飾りました。並べ方も工夫して、画面がより美しく見えるようにしました。





活動名：自分キャラの〇〇詰め

一形の変形と密度のある表現を求めて！

(50分×2)

| 生徒の実態   | 授業の課題・目標   | 評価と評価の方法  |
|---|--|---|
| <p>ものを考える時に、誰でもすぐに思いつくようなアイデアで満足して独創的な発想にこだわる生徒が非常に少ない。</p> <p>また、きっちりと描き込んだり細かい作業を苦手とする生徒が多く、集中力が低い。</p> | <p>③「自分らしさ」を、或いは造形的な課題を自主的、主体的、創造的に追究、発見したり、自己表現したりする。</p> <p>・他人と違う発想で作品を作ることで自分らしさを表現しようとする意識を高める。</p> <p>⑤造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。</p> <p>・形の変形や遠近感等を用いると、ものの重なりや密度のある凝縮した表現ができることに気付く。</p> | <p>○他人と違う発想で自分ならではの作品を作り出そうとしているか。<br/>(関心・意欲・態度)<br/>(発想力・構想力)</p> <p>○形の変形や遠近感を効果的に活用して、狙いに合った表現が行えたか。<br/>(発想力・構想力)<br/>(技能)</p> |



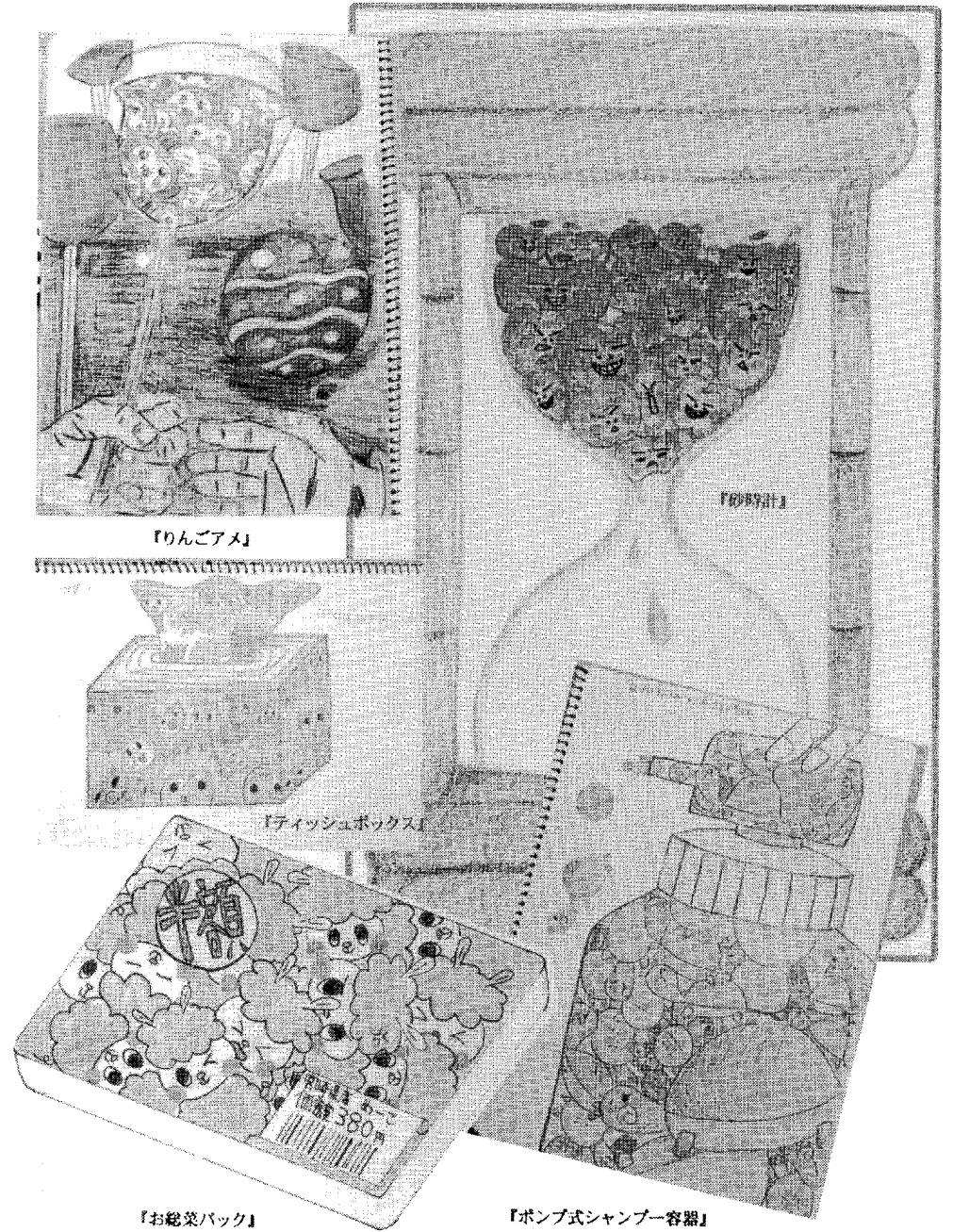
| 授業/表現の内容  | 授業の方法  |
|---|--|
| <p>○表現活動の概要</p> <p>デフォルメや重なり表現などを用いて、何か容器的なものの中にギュウギュウに自分キャラが詰まっている様子を平面的に表現する。</p> <p>○表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現対象/主題(何を)：自分キャラ(自分自身)</li> <li>・表現材料(何で)：画用紙(スケッチブック)・鉛筆・色鉛筆</li> <li>・表現形式(どの様に)：平面、絵画的、イラスト的</li> <li>・表現様式(どの様に)：主として具象的</li> <li>・表現技法/用具/知識(どの様に)：紙に描く、平面的に構成する、デフォルメや遠近感、重なり表現を用いて。</li> </ul> | <p>何の容器にどのようにして自分キャラを詰め込むかわかるべく他人と違うアイデアで自分の作品を作ろうとする意識を高める、生徒中心型・課題追究型の授業である。</p> |



| 授業の条件：(表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など) |   |
|---|---|
| ○表現内容                                   | 密閉空間となる「何か」の中に自分キャラがぎっしり詰まっている様子を描く。入れる物は必ずしもちゃんとした容器である必要はない。その入れ物の選択と、ギュウギュウに詰まっている様子をどのようにして表現するか、が評価のポイントとなる。 |
| ○学習時間                                   | 1校時×2(100分)   |
| ○学習形態                                   | 個人表現、相互鑑賞   |

作品例

\*自分キャラを「何か」にぎゅうぎゅうに詰め込んで、中身が見えるような工夫を考えました。



活動名：自分キャラの春夏秋冬

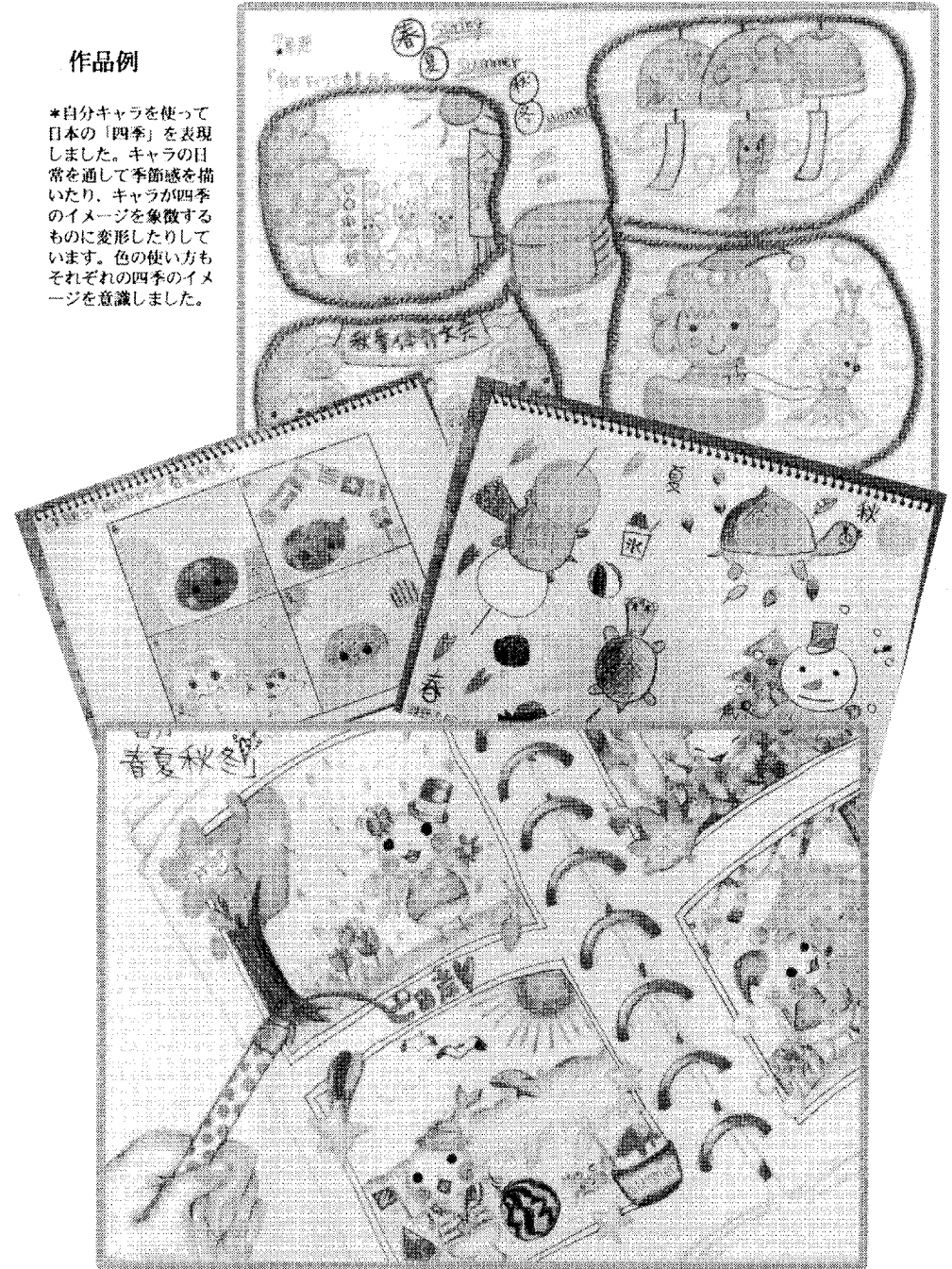
—イメージ日本の四季を表すと?—

(50分×2)

|  |   |  |
|--|---|--|
| <p>生徒の実態</p> <p>1年生の色彩学習の中で色のイメージについて軽重や寒暖については学んでいる。前回の課題で配色についての意識を高めた生徒も多い。</p>   | <p>授業の課題・目標</p> <p>⑤造形的なものの方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。</p> <p>・日本の四季を自分キャラと色を用いて表現する中で、同じ季節でも発想の方法や描き方で様々な表現が出来ることに気付く。</p> <p>・色の持つイメージを効果的に用いて四季を表すことができる。</p> | <p>評価と評価の方法</p> <p>○自分キャラや色の持つイメージを上手く使って日本の四季を表現することができたか。(発想力・構想力)(技能)</p>                       |
| <p>授業/表現の内容</p> <p>○表現活動の概要<br/>自分キャラと春夏秋冬それぞれの季節から連想されるものを組み合わせたり、色の寒暖などのイメージを使って4つの季節を1枚の画用紙の中に表現する。</p> <p>○表現内容<br/>・表現材料(何で)：画用紙(スケッチブック)・鉛筆・色鉛筆<br/>・表現形式(どの様に)：平面、絵画的、イラスト的<br/>・表現様式(どの様に)：主として具象的<br/>・表現技法/用具/知識(どの様に)：紙に描く、平面的に構成する、色の持つイメージや具体的な物を描くことで季節感を表現する。</p> |   | <p>授業の方法</p> <p>春夏秋冬それぞれの季節を、自分キャラとモチーフとなる物や色などの組み合わせを工夫することで自分のイメージを表そうとする、生徒中心型・課題追究型の授業である。</p> |
| <p>授業の条件：(表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など)</p> <p>○表現内容 A4サイズスケッチブック1枚の用紙に日本の四季を自分キャラを用いて表現する。ひとつひとつの季節の中に必ず1体は自分キャラが入っていること。レイアウトは自由。(必ずしも四分分割である必要はない)。</p> <p>○学習時間 1校時×2(100分)</p> <p>○学習形態 個人表現、相互鑑賞</p>  |   |  |

作品例

\*自分キャラを使って日本の「四季」を表現しました。キャラの日常を通して季節感を描いたり、キャラが四季のイメージを象徴するものに変形したりしています。色の使い方もそれぞれの四季のイメージを意識しました。



活動名：自分キャラグッズ

—見た目楽しく生活に役立つデザインとは?— (50分×2)

| 生徒の実態  | 授業の課題・目標   | 評価と評価の方法  |
|--|--|---|
| <p>前の課題3で「デフォルメ」について学習している。自分キャラの形をそのまま使ってグッズにするのは難しいため、その応用を使って上手く変形させる必要がある。「丸いキャラクター」のような安易な発想になりがちなので、イメージを深めさせなければならない。</p>   | <p>⑤造形的なものの方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。</p> <p>・自分キャラを用いて用途に応じた色や形の工夫をした独自のグッズのデザインをすることができる。</p>                                      | <p>○自分キャラの形や元にした動植物のイメージ等を活かして、オリジナルで実用的な生活用品をデザインすることができたか。(発想力・構想力)</p> |
| ↓ ↑  |  | ↓ ↑   |
| 授業/表現の内容   |  | 授業の方法   |
| <p>○表現活動の概要<br/>自分キャラの形を活かして生活に役立つグッズをデザインする中で、昔から身の回りにある道具の形の意味に気付いたり、新たな発想で更に使いやすい形を追求する。</p> <p>○表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現材料(何で)：画用紙(スケッチブック)・鉛筆・色鉛筆</li> <li>・表現形式(どの様に)：平面、絵画的、イラスト的</li> <li>・表現様式(どの様に)：主として具象的</li> <li>・表現技法/用具/知識(どの様に)：紙に描く、機能性を追求する、見た目の楽しさや美しさを意識しながら。</li> </ul> | <p>生活の中でデザインが担う役割は大きい。機能性は勿論、見た目の良さも使用者の購買意欲に大きく関わる。今回は実際に活用できるグッズという条件で自分キャラをどのようにして採り入れるかを考えながらデザインする、生徒中心型・課題追究型の授業である。</p> |   |
| ↓ ↑  |  | ↓ ↑   |
| 授業の条件：(表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など)  |  |   |
| <p>○表現内容<br/>自分キャラを用いて、実際に使えそうな生活用品をデザインする。機能性とデザインの美しさ(面白さ)を両立させる。デフォルメは自分キャラの形を損ない過ぎない程度。斑ごとに企画プレゼンを行う。</p> <p>○学習時間<br/>1校時×2(100分)</p> <p>○学習形態<br/>個人表現、相互鑑賞、集団鑑賞</p>   |  |   |

作品例



(中2年) C 【造形的な見方・考え方と造形感覚／活動課題⑤—6】領域

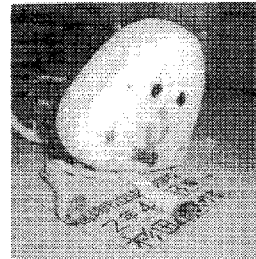
活動名：2次元? ↔ 3次元?

—素材選びから始める立体表現の試み—

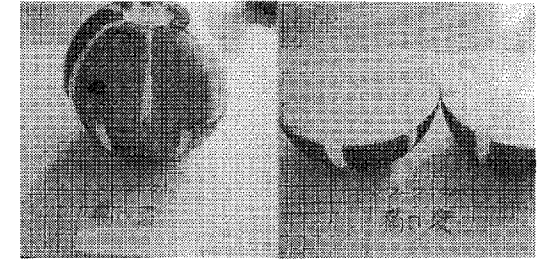
(50分×2)

| 生徒の実態   | 授業の課題・目標  | 評価と評価の方法   |
|---|---|--|
| <p>1年生時に電動糸ノコと彫刻刀を用いた木材工芸作品を制作している。立体を意識した作品は中学ではそのみである。小学校時に紙粘土や厚紙を使った作品づくりは幾度か行っている。</p>  | <p>⑤造形的なものの見方や考え方、造形感覚を養い、感性を培う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平面でデザインした自分キャラを立体的にイメージできる。</li> <li>・自分キャラのイメージに合った色や形、材質感および材料を選ぶことができる。</li> <li>・自分が選んだ材料に合わせて必要な用具や技法を用いて表現することができる。</li> </ul> | <p>○自分キャラの形やイメージに合う素材を選び、その素材を十分に生かした立体造形になっているか。(発想力・構想力)(技能)</p> |
| 授業／表現の内容  |   | 授業の方法  |
| <p>○表現活動の概要<br/>自分の考えたキャラクターを様々な色や模様で飾り、ひとつの画面にレイアウトする。模様の選び方や配色の工夫、並べ方の工夫など、より美しく見せる描き方を追究する中で色彩感覚やバランス感覚を磨く。</p> <p>○表現内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現対象／主題(何を)：自分キャラ(自分自身)</li> <li>・表現材料(何で)：紙粘土、厚紙、木材、その他原則として自由。</li> <li>・表現形式(どの様に)：立体的。デザインによっては半立体的。</li> <li>・表現様式(どの様に)：主として具象的</li> <li>・表現技法／用具／知識(どの様に)：切る、折る、固める、丸める…等、材料によって様々。自分の材料に適した作業方法を考えながら。</li> </ul> | <p>自分が考えたオリジナルキャラクターをイメージ通りに立体化するのに、必要な材料、用具、方法を選び出しながら制作していく、生徒中心型・総合型の授業である。</p>  |  |
| 授業の条件：(表現内容、学習時間、学習の形態と集団、集団の質、指導の体制など)   |   |  |
| <p>○表現内容<br/>自分キャラを立体的に表現する。材料や表現方法は原則として自由。ただし、大きさは15センチ四方の土台に収まるサイズとする。自分のキャラクターのイメージに合う材料やそれを加工する為に必要な用具などを準備して制作する。</p> <p>○学習時間<br/>1校時×2(100分)</p> <p>○学習形態<br/>個人表現、相互鑑賞</p>   |   |  |

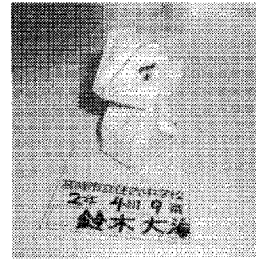
作品例



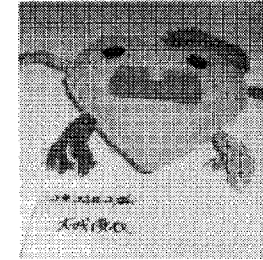
材料：紙粘土・麻ひも・菓子袋  
\*カラフルなスナック菓子の袋をマントに使用しました。



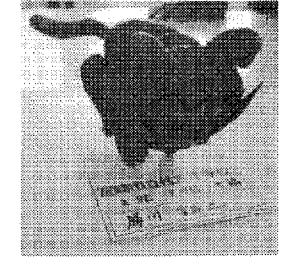
材料：発砲スチロール・色画用紙・絵の具  
\*上下に分かれて内側も見られるようにして作りました。



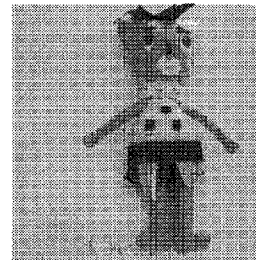
材料：厚紙・マジック・色鉛筆  
\*展開図から考えて組み立てました。



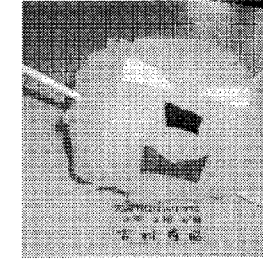
材料：フェルト・綿・手芸用ロープ  
\*ふっくら感を出すのに苦労しました。



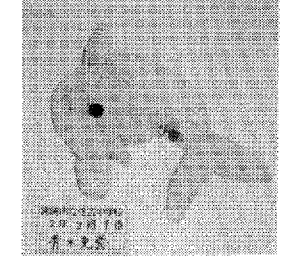
材料：針金・紙粘土・絵の具  
\*骨組みの形で躍動感を表しました。



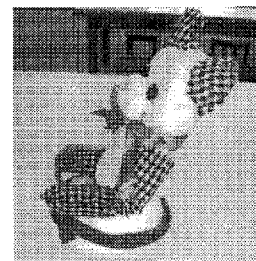
材料：フェルト・布・綿  
\*マスコットのように作りました。



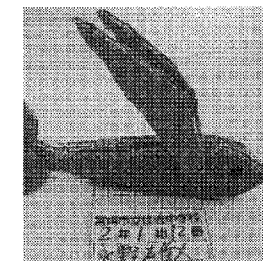
材料：フェルト・コットン・割り箸  
\*コットンをほぐして大きな塊にしました。



材料：杉板  
\*糸ノコで切るのが難しかった。



材料：布・綿・リボン・紙皿  
\*重心の取り方に苦労しました。



材料：段ボール  
\*段ボールを重ねて厚みを出しました。



材料：石・紙粘土・絵の具  
\*頭に丁度いい形の石を見つけました。